

## 第1回 越前市子ども・子育て会議

日時：令和6年5月31日（金）18時30分から

場所：越前市市民プラザたけふ「福祉健康センター」

4階多目的ホール

### 【1部】

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 委員紹介
- 5 会長選任
- 6 会議  
会長あいさつ  
会長職務代理者の指定

### 【2部】

- 7 議事
  - (1) 越前市子ども・子育て会議の審議内容及びスケジュールについて 資料1
  - (2) 令和5年度事業評価について 資料2
  - (3) こども計画に係るニーズ調査の結果について 資料3
- 8 こどものView(s)について 【講師：仁愛大学 石川昭義 副学長】
- 9 意見交換
- 10 その他
- 11 閉会

## 資料 1 - 1

### ○越前市子ども・子育て会議設置規則

平成 26 年 3 月 27 日

規則第 10 号

(設置)

第 1 条 子ども・子育て支援法(平成 24 年法律第 65 号)第 72 条第 1 項及び越前市附属機関設置条例(平成 24 年越前市条例第 2 号)第 2 条の規定に基づき、子ども・子育て支援に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、越前市子ども・子育て会議(以下「子ども・子育て会議」という。)を設置する。

(令 5 規則 16・令 6 規則 1・一部改正)

(所掌事務)

第 2 条 子ども・子育て会議は、次に掲げる事項について調査審議する。

- (1) 特定教育・保育施設の利用定員に関する事項
- (2) 地域型保育事業の利用定員に関する事項
- (3) 越前市子ども・子育て支援事業計画に関する事項
- (4) 次世代育成支援対策推進法(平成 15 年法律第 120 号)第 8 条に定める市町村行動計画に基づく措置の実施状況
- (5) こども基本法(令和 4 年法律第 77 号)第 10 条第 2 項に定める市町村におけるこども施策についての計画に関する事項
- (6) 前各号に掲げるもののほか、子ども・子育て支援に関する施策の総合的かつ計画的な推進に関する事項及び当該施策の実施状況

(令 6 規則 1・追加)

(組織)

第 3 条 子ども・子育て会議は、委員 21 人以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 関係行政機関の職員
- (3) 前 2 号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

(令 6 規則 1・旧第 2 条繰下)

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(令6規則1・旧第3条繰下)

(会長)

第5条 子ども・子育て会議に会長を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 会長は、子ども・子育て会議を代表し、会務を総理する。

3 会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指定する委員がその職務を代理する。

(令6規則1・旧第4条繰下)

(会議)

第6条 子ども・子育て会議は、会長が招集し、会議の議長となる。

2 子ども・子育て会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 子ども・子育て会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(令6規則1・旧第5条繰下)

(報酬)

第7条 委員の報酬は、特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例(平成17年越前市条例第44号)及び特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例施行規則(平成24年越前市規則第13号)の定めるところによる。

(令6規則1・旧第6条繰下)

(意見の聴取等)

第8条 子ども・子育て会議は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、その説明又は意見を聴くことができる。

(令6規則1・旧第7条繰下)

(庶務)

第 9 条 子ども・子育て会議の庶務は、越前市行政組織規則(平成 17 年越前市規則第 10 号)別表第 5 に定める課において処理する。

(令 6 規則 1・旧第 8 条繰下)

(その他)

第 10 条 この規則に定めるもののほか、子ども・子育て会議の運営に関し必要な事項は、市長が定める。

(令 6 規則 1・旧第 9 条繰下)

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

(会議招集等の特例)

2 会長が互選されるまでの間、会議の招集及び運営は、市長が行う。

(越前市次世代育成推進協議会設置規則の廃止)

3 越前市次世代育成推進協議会設置規則(平成 24 年越前市規則第 30 号)は、廃止する。

附 則(令和 5 年 3 月 24 日規則第 16 号)

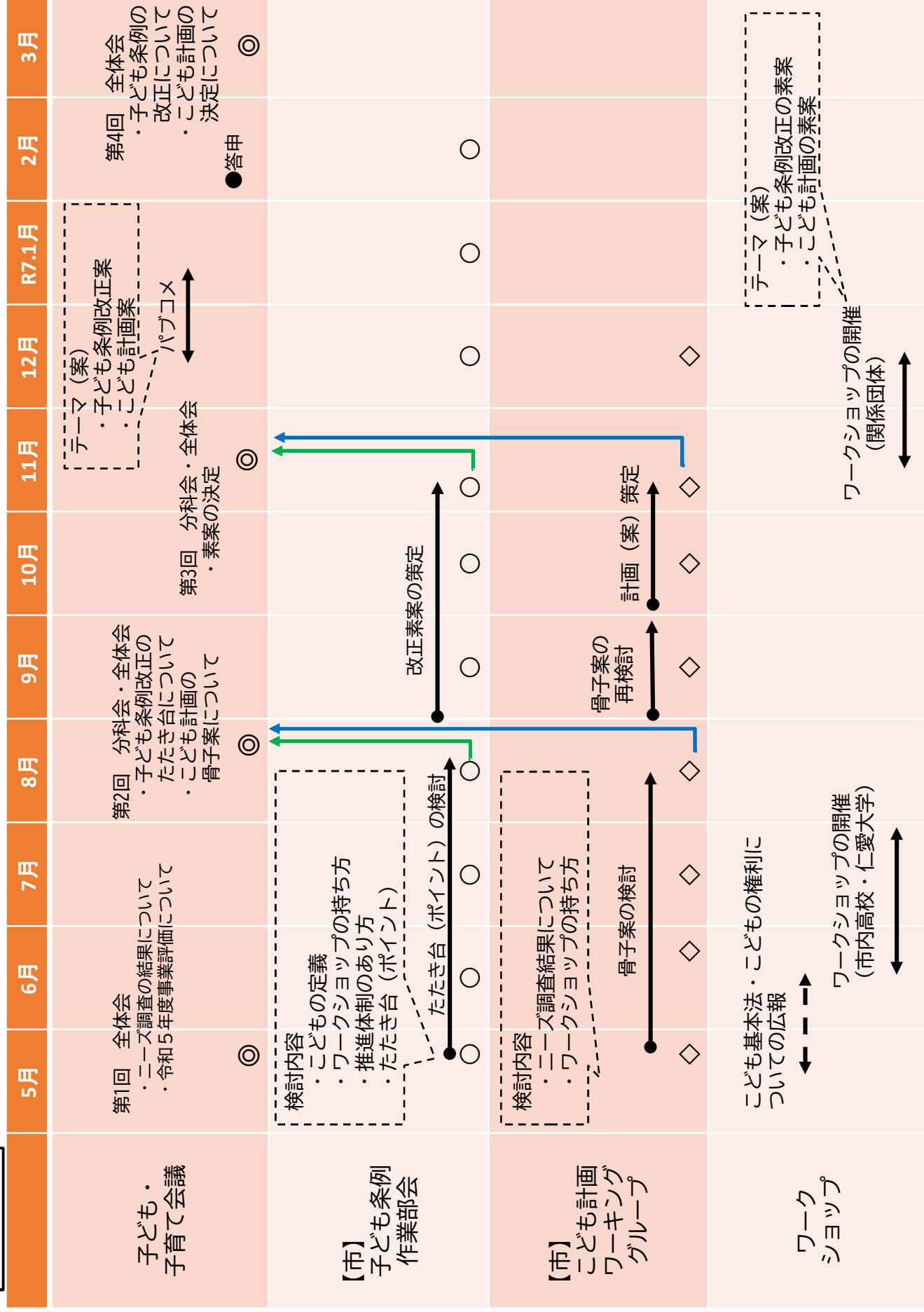
この規則は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 6 年 1 月 12 日規則第 1 号)

この規則は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。



子ども条例改正・こども計画策定スケジュール (案)



## ◎子ども条例改正・こども計画策定運営体制(案)

| 分科会/各論 |                                            | 委員                        | 事務局                                                                                        |
|--------|--------------------------------------------|---------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | 子ども条例                                      | 石川委員(仁愛大学 教授)             | (主)こども家庭センター長<br>(副)学校教育指導室長<br>(副)こども未来課副課長<br>(副)教育振興課副課長<br>(副)こども未来課担当                 |
|        |                                            | 藤間委員(越前市国際交流協会)           |                                                                                            |
|        |                                            | 森田委員(文生幼稚園保護者の会)          |                                                                                            |
|        |                                            | 落井委員(福井県民間保育園・こども園保護者連合会) |                                                                                            |
|        |                                            | 橋本委員(越前市PTA連合会)           |                                                                                            |
|        |                                            | 高橋委員(南越特別支援学校PTA)         |                                                                                            |
|        |                                            | 野村委員(越前市自治連合会)            |                                                                                            |
|        |                                            | 大塚委員(市民公募)                |                                                                                            |
|        |                                            | 石川委員(仁愛大学 教授)             |                                                                                            |
|        |                                            | 山本委員(越前市保育研究会)            |                                                                                            |
| こども計画  | 教育・保育<br>・教育・保育の量の見込みと確保<br>・地域子ども・子育て支援事業 | 山田委員(越前市私立幼稚園協議会)         | (主)教育振興課長<br>(主)乳幼児教育・保育支援センター長<br>(副)教育振興課参事<br>(副)こども未来課担当<br>(副)こども未来課担当<br>(副)こども未来課担当 |
|        |                                            | 小泉委員(越前市社会福祉協議会)          |                                                                                            |
|        |                                            | 松村委員(越前市小中学校校長会)          |                                                                                            |
|        |                                            | 山崎委員(NPO法人 子どもセンターピーノキオ)  |                                                                                            |
|        |                                            | 仲村委員(越前市母子寡婦福祉連合会)        |                                                                                            |
|        |                                            | 野嶋委員(福井大学 教授)             |                                                                                            |
|        |                                            | 玉川委員(連合福井丹南地域協議会)         |                                                                                            |
|        |                                            | 野村委員(こじかの会)               |                                                                                            |
|        |                                            | 加藤委員(越前市民生委員児童委員協議会連合会)   |                                                                                            |
|        |                                            | 竹内委員(武生高等学校 校長)           |                                                                                            |
|        | こども・若者<br>・こども・若者の居場所<br>・若者の自立支援・参加支援     | 高田委員(市民公募)                | (主)こども未来課長<br>(副)福祉総合相談室長<br>(副)こども家庭センター副課長<br>(副)こども未来課担当                                |
|        |                                            | 見延委員(教育委員会事務局)            |                                                                                            |
|        |                                            |                           |                                                                                            |

## こども計画・子ども条例のワークショップについて (案)

| 市内高校・仁愛大学  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                         |                                 |                | 関係団体                                                                    |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|---------------------------------|----------------|-------------------------------------------------------------------------|
| (1) 対象     | 武生高校                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 武生東高校                   | 武生商工高校<br>(商業キャンパスか工業<br>キャンパス) | 仁愛大学           | 5 団体<br>・教育者・保育者関係団体<br>・保護者関係団体<br>・こども居場所関係団体<br>・児童養護施設              |
| (2) 実施時期   | 6月中旬～7月                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                         |                                 |                | 11月中旬～12月中旬                                                             |
| (3) 出席依頼人数 | 15人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 15人                     | 15人                             | 15人            | 1 団体あたり5人程度                                                             |
| (4) 出席委員   | ・竹内委員<br>・山崎委員                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | ・橋本委員<br>・高橋委員<br>・見延委員 | ・小泉委員                           | ・山田委員<br>・大塚委員 | 後日依頼                                                                    |
| (5) 事務局    | 須本・山岸・WGメンバー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 小川・河田・WGメンバー            | 倉橋・牧野・WGメンバー                    | 牧田・明城・WGメンバー   | 後日決定                                                                    |
| (6) 内容     | <p>全体で90分(休憩時間を含む)</p> <p>①こども基本法の基本理念、こども大綱について説明(15分)<br/>こどもの権利、こどものView(s)、こどもの最善の利益について</p> <p>②学生を5人ずつの3グループに分けて意見交換(50分)</p> <p>テーマの説明<br/>テーマ例(学校から事前募集も可)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の権利は認められていますか。</li> <li>・自分らしく居られる居場所とは</li> <li>・こどもまんなかまちづくりについて</li> <li>・安心してこどもを産み育てられるために、どんな社会になってほしいか。</li> <li>・共働き・子育てについて</li> <li>・子育て支援について</li> </ul> <p>③まとめ(10分)<br/>委員からのコメントを含む</p> <p>④アンケートの記入(5分)</p> |                         |                                 |                | <p>1 回あたり60分</p> <p>①子ども条例改正素案とこども計画素案について説明(15分)</p> <p>②意見交換(45分)</p> |

# 1 利用者支援事業(1-1、1-2)

|      |                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                        |       |                                                      |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------------------------------------------------------|
| 事業内容 | (基本型)子育て中の家庭の身近な場所において、利用者支援専門員を配置し、教育・保育・保健や地域の子育て支援事業などの情報提供や、必要に応じ相談・助言を行うとともに、関係機関との連絡調整等を行う事業。<br>(母子保健型)妊娠期から子育て期にわたるまでの母子保健や育児に関する様々な悩み等に円滑に対応するため、保健センター等において、保健師等が専門的な見地から相談支援等を実施し、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目ない支援を行う事業。 |                                                                                                                                        |       |                                                      |
|      | 計画                                                                                                                                                                                                                         | 実施状況・分析                                                                                                                                | 指標    | 6年度への反映計画                                            |
|      | ■施設箇所                                                                                                                                                                                                                      | 基本型：R1.11月より実施(1箇所)てんぐちゃん広場<br>母子保健型：H27年度より実施(1箇所)越前市役所健康増進課                                                                          | 実施箇所数 | 今後も継続して実施していく。<br>子ども・子育て相談窓口について、子育て世代等への周知を強化していく。 |
|      | 計画数                                                                                                                                                                                                                        | 成果の内容                                                                                                                                  |       | 6年度への反映計画                                            |
|      | 基本型1箇所<br>母子保健型1箇所                                                                                                                                                                                                         | 基本型：利用者支援専門員を中心に、それぞれの家庭の希望や状況に応じた的確な情報提供やきめ細かな相談対応を実施することができた。<br>母子保健型：子育て世代が安心安全に出産育児を行えるよう、妊娠期から医療機関や母子保健、子育て支援機関が連携して支援を行うことができた。 |       | 子育てに役立つ情報発信等を強化する。今後も継続して実施していく。                     |

# 2 地域子育て支援拠点事業

単位:延べ人数

|      |                                                                                                    |                                                                                                                                                                                 |               |                                                                                         |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業内容 | 子育て家庭の親子が交流を図る場所を開設し、子育てについての相談、情報提供、その他の援助を行う事業<br>地域の子育て関連の情報提供を行い、子育てに関する支援を行う。週3日以上、1日5時間以上開設。 |                                                                                                                                                                                 |               |                                                                                         |
|      | 計画                                                                                                 | 実施状況・分析                                                                                                                                                                         | 指標            | 6年度への反映計画                                                                               |
|      | ■施設4箇所                                                                                             | 実施施設:5箇所(ピノキオ・フォルマシオン・いまだて・一陽・ハーツきっずだけい)<br>R5年度年間利用人数:ピノキオ54,845人、フォルマシオン1,864人、いまだて3,795人、一陽7,464人、ハーツきっずだけい1,609人 計69,577人                                                   | 実施箇所数<br>利用者数 | 市全体の子育て支援体制を考える中で、支援センターに来自所でない家庭へアプローチをするため、母子保健事業等での声かけを強化。ホームページやSNS等を活用した周知も継続していく。 |
|      | 計画数                                                                                                | 成果の内容                                                                                                                                                                           |               | 6年度への反映計画                                                                               |
|      | 42,000人                                                                                            | 子育て中の母親は、子育て支援センターに來所することにより、職員や先輩ママからのアドバイスを受けたり、交流することで子育てに対する肯定感が得られる。育児の孤立化が解消される。さらに、気がかりな子や気がかりな家庭を発見し、支援につなぐことができた。新型コロナウイルスが5類に移行し、広場の解放制限・人数制限を緩和したことにより、全体の利用者数は増加した。 |               | 今後も子どもの成長発達や育児相談に応じ、親の子育て不安等の解消に努めていく。また、親子の交流の場として、情報交換や友達づくりができるよう支援していく。             |

連携・協力・協働の内容

地域子育て支援拠点5事業所及びその他の子育て支援実施事業所と子ども・子育て総合相談室、健康増進課が連携をとりながら、気がかりな子どもや家庭の支援につなぐことができた。

子育て支援実施事業所5事業所との情報交換を図りながら連携を深め、適切な機関につなぐことができるようにする。

### 3 妊婦健康診査

単位:延べ回数

| 妊婦と胎児の健康の保持及び増進を図るため、妊婦に対する定期健康診査として、①母児の健康状態の把握、②検査計測、③保健指導を実施するとともに妊娠期間中の適時に必要に応じた医学的検査を実施する事業 |                                                                                                                                                                                                |      |                                                                               |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 事業内容                                                                                             | 実施状況・分析                                                                                                                                                                                        |      |                                                                               |
| 計画                                                                                               | 実施状況・分析                                                                                                                                                                                        | 指標   | 6年度への反映計画                                                                     |
| ■計画数<br>6,844回<br>(580人×<br>11.8回)                                                               | 県内産科医療機関、助産所において、妊娠全期を通して計14回の健診費用助成を実施。県外受診者については、還付申請にて費用助成。<br>特定・ハイリスク妊婦や異常継続の妊婦等に対しては健診後の支援にも繋がっている。<br>受診数 延6,213回(県外受診者含まず)                                                             | 受診回数 | 妊娠前から妊婦及び胎児の、心身の健康の保持増進を図るため、妊娠届出時等の状況も踏まえ、気がかりな妊婦健診結果情報をピックアップし、必要な支援に繋げていく。 |
|                                                                                                  | 成果の内容                                                                                                                                                                                          |      | 6年度への反映計画                                                                     |
|                                                                                                  | 妊娠初期、中期、後期に使用できる④⑤⑥受診券を設定。特に④券は血液検査も併用使用するよう券を設定。⑤⑥券には血液検査も実施するように設定している。また、妊娠全期に使用できる「フリー券」を11回分設定していることで、健康状態に合わせて使用しやすく受診控え防止にもつながっている。(妊婦健診受診券14回)また、妊娠からの支援において、健診結果を活用してよりの確な支援につながっている。 |      | 支援が必要な妊婦に対して、妊婦健診実施機関との情報共有や支援の連携を強化していく。                                     |
|                                                                                                  | 連携・協力・協働の内容                                                                                                                                                                                    |      | 6年度への反映計画                                                                     |
|                                                                                                  | 妊娠中から継続支援が必要と思われる家庭に対して、産科病院や助産所などの専門機関、相談機関、適切な子育て支援サービス機関等と連携し、必要な支援に繋がった。                                                                                                                   |      | 妊娠期からの医療施設等との連携体制を構築し、妊娠期～産後と切れ目なく支援を継続していきけるよう情報共有に努めていく。                    |

### 4 乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん事業)

単位:実人数

| 生後4か月までの乳児のいる全ての家庭を訪問し、子育て支援に関する情報提供や養育環境の把握を行う事業 |                                                                                                                                                                                                                                            |             |                                                                             |
|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 事業内容                                              | 実施状況・分析                                                                                                                                                                                                                                    |             |                                                                             |
| 計画                                                | 実施状況・分析                                                                                                                                                                                                                                    | 指標          | 6年度への反映計画                                                                   |
| ■計画数<br>594人／乳児<br>数600人<br>(99.8%)               | 訪問対象児528人中527人訪問。(郵便対応0件、電話確認0件)<br>未訪問の1人は長期入院中のため、訪問未実施となっている。<br>特定妊婦、要フォロー家庭等については市保健師が、それ以外の乳児は在宅保健師・在宅助産師が訪問している。子育て世代包括支援センターでは、特定妊婦や要フォロー家庭に妊娠中に電話や訪問をし、生まれる前からの継続した支援を実施している。赤ちゃん訪問ができなかった家庭は、電話で状況確認及び乳児健診、予防接種、5か月児セミナーで確認している。 | 訪問件数<br>訪問率 | 医療機関やこども家庭センターと相互に連携し、妊娠期から課題が重複し継続した支援が必要な家庭については、早期から介入できけるよう努める。         |
|                                                   | 成果の内容                                                                                                                                                                                                                                      |             | 6年度への反映計画                                                                   |
|                                                   | 妊娠前から支援介入している特定妊婦だけでなく、一般妊婦にも全て専門職による訪問を実施することによって、子育てに関する不安や悩みに答えたり、適切なサービス提供につながることで、乳児家庭の孤立化が予防できた。エジンバラによる客観的な指標も、潜在的なニーズの掘り起こしにつながっている。                                                                                               |             | 妊娠～出産～育児と、切れ目なく継続的な支援を行えるよう、今後も妊娠期からの情報把握に努め、ハイリスク・特定妊婦や要支援家庭には早期からの介入に努める。 |
|                                                   | 連携・協力・協働の内容                                                                                                                                                                                                                                |             | 6年度への反映計画                                                                   |
|                                                   | 医療機関とは、県内で統一されている妊婦・親子連絡票を用いて連携し支援している。また、子育ての相談機関、子育て支援サービス機関等と連携し、必要な支援に繋がった。                                                                                                                                                            |             | 必要時には県外の医療施設等とも連携し、妊娠期～産後と切れ目なく支援を継続していきけるよう情報共有に努めていく。                     |

# 5-1 養育支援訪問事業

単位:延べ件数

| 事業内容<br>赤ちゃん訪問、保育所・認定こども園・小規模保育事業所・幼稚園、学校、医療機関等関係機関からの情報等により、養育支援が特に必要な家庭に対し、保健師等による訪問により養育に関する必要な支援を行う事業 |                                                                                                                                                                                       |        |                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------|
| 計画                                                                                                        | 実施状況・分析                                                                                                                                                                               | 指標     | 6年度への反映計画                                                         |
| <b>■対象者</b><br><br>240人                                                                                   | 訪問延べ件数:264件<br>子ども・子育て総合相談室、健康増進課、保育所・認定こども園・小規模保育事業所・幼稚園、学校、子育て支援サービス機関、医療機関等と連携し、家庭訪問による支援を実施。妊婦については母子手帳交付時全員にアンケート及び面接を実施し必要に応じて支援している。外国籍親子への対応も増えてきており、ケースごとに関係機関と連携しながら対応している。 | 訪問指導件数 | 多様なニーズに対し、関係機関と連携をとりながら支援の方向性を共有し、それぞれの役割分担に基づいて、子どもと家庭の支援を行っていく。 |
|                                                                                                           | 成果の内容                                                                                                                                                                                 |        | 6年度への反映計画                                                         |
|                                                                                                           | 家庭状況が不安定であったり、妊娠中からの経過や子育てに不安があるような家庭に対して、安心、安全、安定した生活を送ることができるよう支援ができた。                                                                                                              |        | 支援を要する家庭と子どもを把握し、関係機関と連携しながら訪問等により、必要な支援に結び付け、生活の安定を目指していく。       |
|                                                                                                           | 連携・協力・協働の内容                                                                                                                                                                           |        | 6年度への反映計画                                                         |
|                                                                                                           | 子ども・子育て総合相談室、健康増進課、保育所・認定こども園・小規模保育事業所・幼稚園、学校等、子育て支援サービス機関、医療機関、県児童相談所等関係機関との連携を充実させた。                                                                                                |        | 関係機関と支援の方向性を共有しながら連携をより一層強化する。                                    |

# 5-2 子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業

単位:実件数

| 事業内容<br>要保護児童対策地域協議会(子どもを守る地域ネットワーク)の機能強化を図るため、調整機関職員やネットワーク構成員(関係機関)の専門性強化と、ネットワーク機関間の連携強化を図る取組を実施する事業 |                                                                                                                     |      |                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------------------------------|
| 計画                                                                                                      | 実施状況・分析                                                                                                             | 指標   | 6年度への反映計画                                                |
| <b>■要保護児童対策地域協議会における新規相談件数</b><br><br>160件                                                              | 要保護児童対策地域協議会が調整機関となり、保育所、幼稚園、学校、地域等関係機関と連携した。また、庁内の関係各課との連携を強化して実施した。<br>新規相談実件数:72件 ケース会議の開催:380件<br>ケース進行管理会議:14回 | 相談件数 | 今後も、こども家庭センターが要保護児童対策地域協議会の調整機関として、関係機関と連携しながら実施する。      |
|                                                                                                         | 成果の内容                                                                                                               |      | 6年度への反映計画                                                |
|                                                                                                         | 関係機関が情報を共有し援助方針を確認した上で、役割分担のもと、支援の必要な子どもと家庭に対応することができた。                                                             |      | 今後も必要に応じて個別ケース会議を実施し、必要な支援につなげる。                         |
|                                                                                                         | 連携・協力・協働の内容                                                                                                         |      | 6年度への反映計画                                                |
|                                                                                                         | 関係機関が情報を共有し援助方針を確認した上で、役割分担のもと、支援の必要な子どもと家庭に対応することができた。                                                             |      | 今後も関係機関の連携を進め、母子保健分野との連携もさらに強化することで、支援を必要とする子どもと家庭に対応する。 |

6 子育て短期支援事業

単位:延べ人数

| 事業内容                            | ①ショートステイ事業:保護者が疾病等の理由により、家庭における児童の養育が一時的に困難となった場合に、当該児童を児童養護施設等において、一時的に養育又は保護する事業<br>②トワイライトステイ事業:保護者が仕事その他の理由により、夜間に不在となり、家庭において児童を養育することが困難となった場合等に児童養護施設等において、保護し、生活指導、食事の提供等を行う事業 |      |                                                                                 |  |
|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------|--|
| 計画                              | 実施状況・分析                                                                                                                                                                                | 指標   | 6年度への反映計画                                                                       |  |
| ■ショートステイ<br>施設数 2箇所<br>計画数 50人  | 実施施設 2箇所(済生会乳児院・児童養護施設一陽)<br>R5年度利用者数 ①ショートステイ 延べ人数:105人(実人数:18人)<br>②トワイライトステイ 延べ人数:4人(実人数:2人)<br>すみずみ子育てサポート事業、母子家庭等日常生活支援事業等のサービスと調整して利用している。                                       | 利用者数 | すみずみ子育てサポート事業、母子家庭等日常生活支援事業等のサービスの利用と調整して実施する。<br>必要としている人に必要なサービスが提供できるよう調整する。 |  |
| ■トワイライトステイ<br>施設数 2箇所<br>計画数 5人 | 成果の内容<br>一時的な預かりについて、保護者のニーズに応えることができた。<br>より家庭的な雰囲気での預かりを提供するために、児童養護施設一陽を通じて里親宅での預かりを実施することができ、利用者の増加につながった。<br>支援(サービス)を必要とする家庭と関わりながら、サービスの提供のみならず、子育て、家庭の安定等相談に応じることができた。         |      | 6年度への反映計画<br>今後も児童養護施設等実施機関等と連携を取りながら、支援する。                                     |  |
|                                 | 連携・協力・協働の内容<br>福井県済生会乳児院、児童養護施設一陽、児童家庭支援センター、その他子育て支援事業実施事業所と連携しながら子どもにとって最善の環境を考え実施した。                                                                                                |      | 6年度への反映計画<br>今後も実施事業所と連携を図りながら、支援する。                                            |  |



7-1 一時預かり事業

単位:延べ人数

| 事業内容                                                                                                   | 事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 事業                                                                                                                                                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業内容                                                                                                   | ①一般型:一時的に家庭での保育を受けることが困難な乳幼児について、認定こども園・保育所において、その開所時間の範囲で一時的に預かる事業<br>②幼稚園型:1号認定の児童について、認定こども園や施設型給付費を受ける幼稚園において、教育時間以降や長期休業期間の預かりを実施する事業                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                         |
| 計画                                                                                                     | 実施状況・分析                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 指標                                                                                                                                                      |
| ■施設数<br>公立保育所3箇所<br>公立認定こども園5箇所<br>民間保育所4箇所<br>民間認定こども園12箇所<br>民間小規模保育事業所1箇所<br>民間幼稚園3箇所<br>計画数 2,100人 | 認定こども園・保育所:公立・民間園全園で実施。R5年度利用者数 ①一般型:862人、②幼稚園型(認定こども園のみ):731人<br>幼稚園:民間園3箇所を実施し、週5日対応。R5年度利用者数 23,203人 内 訳:①一般型:708人、②幼稚園型:22,495人<br>R4年9月より県内一斉に開始した世帯第2子目以降(多胎児の場合は第1子目から)利用時の利用料軽減についても、市内全施設にて対応を継続している。<br>成果の内容<br>保護者の不定期な就労や疾病、育児疲れなど、家庭での保育が一時的に困難な場合に対応することができている環境を整えることで、安心して家庭での保育ができる。なお、施設型給付費を受ける幼稚園において、制度の周知が図られ、継続的に利用されている。<br>連携・協力・協働の内容<br>実施施設と密に連絡・連携を図り、受け入れを行った。 | 指標<br>利用者数<br>6年度への反映計画<br>保護者に対する育児支援、家庭で保育される児童の健全な育成及び福祉の向上を図るため、今後も市内の全ての園で実施していくよう働きかける。<br>6年度への反映計画<br>今後も継続して実施する。<br>6年度への反映計画<br>今後も継続して実施する。 |

7-2 一時預かり事業(すみずみ子育てサポート事業)

単位:延べ人数

| 事業内容                      | 事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 事業                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業内容                      | 就職活動や疾病、事故その他のやむを得ない事由により家庭での保育が困難な時に、子育て家庭と妊婦家庭(初産)に対し、一時預かりや家事援助のサービスを提供する事業(妊婦家庭(初産)は、家事援助のみ)                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                            |
| 計画                        | 実施状況・分析                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 指標                                                                                                                                                                                                                         |
| ■施設数<br>5箇所<br>計画数 2,000人 | 5実施施設(NPO法人子どもセンターピノキオ、ハーツきずたけふ、ハーツきずたけふ、県民せいきようきずめくらしサポート、(医)野尻医院)で実施。<br>R5年度利用実績数:3,103人、年間利用実績時間:14,343.75時間<br>R4年9月より県内一斉に開始した世帯第2子目以降(多胎児の場合は第1子目から)利用時の利用料軽減についても、市内全施設および市と契約施設にて対応。市民からのニーズは高く、利用者数・利用時間ともに大幅に増加傾向である。<br>成果の内容<br>保護者のニーズに応えることができた。<br>支援(サービス)を必要とする家庭と関わりながら、サービスの提供のみならず、子育て、家庭の安定等相談にも応じることができた。<br>連携・協力・協働の内容<br>実施施設とこども家庭課が密に連絡・連携を図り、支援の必要な家庭にサービス提供することができた。 | 指標<br>利用者数<br>6年度への反映計画<br>R5年12月から実施施設に子育てサポートセンターとらいあんぐるを追加し、6施設で実施。キッズ・ベビーシッター派遣事業であるかく育さん派遣事業の委託業者であるとらいあんぐるを加え、さらなるサービスの充実を図る。<br>6年度への反映計画<br>今後も継続して実施する。<br>6年度への反映計画<br>今後も継続して実施する。<br>6年度への反映計画<br>今後も継続して実施する。 |



# 8 延長保育

単位:延べ人数

| 事業内容                                                                                               | 認定こども園・保育所・小規模保育事業所において、保育認定を受けた児童の保育を、通常の利用以外の時間等に引き続き実施する事業                   |      |                                       |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|------|---------------------------------------|--|
| 計画                                                                                                 | 実施状況・分析                                                                         | 指標   | 6年度への反映計画                             |  |
| <b>■施設数</b><br>公立保育所3箇所<br>公立認定こども園5箇所<br>民間保育所3箇所<br>民間認定こども園132箇所<br>民間小規模保育事業所1箇所<br>計画数 4,250人 | 認定こども園・保育所・小規模保育事業所全25園にて、午後7時まで保育を実施。<br>R5年度延べ利用者数:保育標準時間 3,986人、保育短時間 1,837人 | 利用者数 | 保護者の就労形態は多様化している。今後も市内の全ての園での実施を維持する。 |  |
|                                                                                                    | 成果の内容                                                                           |      | 6年度への反映計画                             |  |
|                                                                                                    | 保育時間を延長して児童を預けられる環境を整えることで、保護者が安心して就労できた。                                       |      | 今後も継続して実施する。                          |  |
|                                                                                                    | 連携・協力・協働の内容                                                                     |      | 6年度への反映計画                             |  |
|                                                                                                    | 認定こども園・保育所・小規模保育事業所とこども家庭課が密に連絡・連携を図り、保育を実施している。                                |      | 今後も継続して実施する。                          |  |

# 9 休日保育

単位:延べ人数

| 事業内容                                  | 保育認定を受けた児童が、保護者の就労により日曜・祝日に家庭での保育が困難な時に、認定こども園・保育所において日曜・祝日の保育を実施する事業 |               |                                                                                                          |  |
|---------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 計画                                    | 実施状況・分析                                                               | 指標            | 6年度への反映計画                                                                                                |  |
| <b>■施設数</b><br>民間認定こども園1箇所<br>計画数 40人 | 認定こども園あわたたべで実施。市内の認定こども園・保育所の入園児童対象。<br>R5年度利用 実人数6人(延べ6人)            | 実施施設数<br>利用者数 | 多様化する保護者の就労形態に応えられるよう継続して実施。<br>・R6年4月開所のHAGUKUMU保育園で市内の入園児童を対象に休日保育を実施。<br>・認定こども園あわたたべでの休日保育はR6年9月で終了。 |  |
|                                       | 成果の内容                                                                 |               | 6年度への反映計画                                                                                                |  |
|                                       | 日曜・祝日の保育を実施する環境を整えることで、保護者が日曜・祝日も安心して就労できる。                           |               | 今後も継続して実施する。                                                                                             |  |
|                                       | 連携・協力・協働の内容                                                           |               | 6年度への反映計画                                                                                                |  |
|                                       | 実施施設とこども家庭課が連絡・連携を図り、保育を実施している。                                       |               | 今後も継続して実施する。                                                                                             |  |

# 10 病児・病後児保育事業

単位:延べ人数

| 事業内容                 |                                                                                                              | 病気の児童について、病院・保育所等に付設された専用スペース等において、看護師等が一時的に保育等を行う |                                                                                                            |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 計画                   | 実施状況・分析                                                                                                      | 指標                                                 | 6年度への反映計画                                                                                                  |
| <p>■計画数<br/>770人</p> | <p>・市内では、病児デイケア施設「ままのて(野尻医院)」で実施。<br/>・鯖江市、越前町、福井市、南越前町、池田町と広域契約している。<br/>R5年度延べ利用人数:市内 310人 市外(広域) 228人</p> | 利用者数                                               | <p>・市内では、病児デイケア施設「ままのて(野尻医院)」で実施。<br/>・鯖江市、越前町、福井市、南越前町、池田町と広域契約も継続して実施。<br/>・利用料助成対象者に対する支援を継続して実施する。</p> |
|                      | 成果の内容                                                                                                        |                                                    | 6年度への反映計画                                                                                                  |
|                      | 子どもが病気または病気回復期に保護者の仕事の都合、冠婚葬祭などの理由で看護できないときの支援ができた。                                                          |                                                    | 今後も、継続して実施する。                                                                                              |
|                      | 連携・協力・協働の内容                                                                                                  |                                                    | 6年度への反映計画                                                                                                  |
|                      | 実施施設と担当課が連携を取りながら対応                                                                                          |                                                    | 今後も、実施施設と担当課が連携を取りながら継続して対応する。                                                                             |

# 11 放課後児童クラブ

単位:実人数

| 事業内容                   |                                                                                                   | 保護者が就労等により昼間家庭にいない小学生に対し、授業の終了後や休業日に小学校の余裕教室、児童館等を利用して適切な遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図る。 |                                                                                |
|------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 計画                     | 実施状況・分析                                                                                           | 指標                                                                               | 6年度への反映計画                                                                      |
| <p>■対象者<br/>1,081人</p> | <p>実施施設数 30箇所(児童館・児童センター15箇所、保育所・認定こども園10箇所、幼稚園2箇所、医療法人1箇所、自治振興会1箇所、保護者会1箇所)<br/>利用児童数:943人</p>   | 利用者数                                                                             | <p>放課後子ども教室との連携を進めるとともに、特に飽和状態にある小学校区においては、引き続き既存施設等の活用を基本とした定員拡充の方策を検討する。</p> |
|                        | 成果の内容                                                                                             |                                                                                  | 6年度への反映計画                                                                      |
|                        | 共働きなどの理由により、子どもの放課後等の時間を監護できない家庭において、保護者が安心して労働等に従事することができた。また、異年齢間の子ども同士の交流を通じ、子どもの社会性を育むことができた。 |                                                                                  | 今後も継続して実施していく。                                                                 |
|                        | 連携・協力・協働の内容                                                                                       |                                                                                  | 6年度への反映計画                                                                      |
|                        | クラブの運営は各運営主体や地域ごとに特色を活かして実施している。また、気がかりな子どもや外国籍児童について、必要に応じ子ども・子育て総合相談室や学校とも連携を取りながら受入れを行った。      |                                                                                  | 今後も、関係機関と連携をより一層強化し、継続して実施していく。                                                |

## 12 放課後子ども教室

単位:実人数

| 事業内容               | 実施状況・分析                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 指標   | 6年度への反映計画                                                                                                                |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 計画<br>■計画数<br>220人 | ・市内全小学校区で実施(17地区)<br>・子どもの1日あたりの参加人数225人(17地区合計)<br><br>成果の内容<br><br>地域住民の協力を得て、定期的に行う文化・スポーツ活動のほか、新幹線開業に向けた活動や地域の伝統に触れる活動など様々な教室を開催した。また、外国人の児童が多い地区では、日本語や勉強補助の教室を開催するなど、地区の特徴に応じて様々な子どもたちが参加できるように活動の幅を広げている。<br><br>連携・協力・協働の内容<br><br>地域によって指導者数や教室の内容・回数に差異があるため、地域の指導者が少ない地域では、リーダーバンクの人材活用を勧めるなど、学習センターと連携して地域間での差異を減らすよう努めている。 | 利用者数 | 放課後児童クラブとの連携を図り、子ども教室と児童クラブの一体型事業を支援する。<br><br>6年度への反映計画<br><br>今後も継続していく。<br><br>6年度への反映計画<br><br>今後も関係機関と協力して継続して実施予定。 |

越前市子ども条例に関する調査  
結果報告書

令和 6 年 5 月

越前市市民福祉部こども未来課

## I 調査の概要

### 1. 調査の目的

こども・若者の育成と問題解決に関するさまざまな施策を推進するために策定する「越前市こども計画」並びに「越前市子ども条例」を改正する予定であり、今後のこども・若者支援施策を検討するうえでの基礎資料とするために実施。

### 2. 調査の名称

「越前市こども・子育て支援、こどもの生活に関するニーズ調査（就学前児童保護者、就学児童保護者）」「越前市こども・若者の意識に関する調査」

### 3. 調査方法と調査期間

|      |                        |                                        |
|------|------------------------|----------------------------------------|
| 調査対象 | ①就学前児童（0歳～5歳）の保護者      | 900人                                   |
|      | ②就学児童（小学1年生・小学3年生）の保護者 | 300人                                   |
|      | ③小学5年生・中学2年生の保護者       | 小学5年生 673人<br>中学2年生 715人               |
|      | ④小学3年生、小学5年生、中学2年生のこども | 小学3年生 699人<br>小学5年生 673人<br>中学2年生 715人 |
|      | ⑤市内15歳～39歳の若者          | 1,200人                                 |

|      |                                                          |
|------|----------------------------------------------------------|
| 調査方法 | ①就学前児童の保護者及び②就学児童の保護者には、郵送による配布・回収。                      |
|      | ③及び④小学5年生、中学2年生の保護者・こどもには、学校を通してQRコード付きの依頼文を送付し、WEB上で回答。 |
|      | ⑤市内15歳～39歳の若者には、QRコード付きハガキを調査対象者に郵送し、WEB上で回答。            |

|      |                                 |
|------|---------------------------------|
| 調査期間 | ③及び④<br>令和6年2月14日（水）～2月29日（木）   |
|      | ①、②及び⑤<br>令和6年2月28日（水）～3月13日（水） |

#### 4. 調査回収状況

|                        | 配付数   | 有効回答数 | 回収率   |
|------------------------|-------|-------|-------|
| ①就学前児童（0歳～5歳）の保護者      | 900   | 398   | 44.2% |
| ②就学児童（小学1年生・小学3年生）の保護者 | 300   | 140   | 46.7% |
| ③小学5年生の保護者             | 673   | 341   | 50.7% |
| ③中学2年生の保護者             | 715   | 271   | 37.9% |
| ④小学3年生の子ども             | 699   | 500   | 71.5% |
| ④小学5年生の子ども             | 673   | 445   | 66.1% |
| ④中学2年生の子ども             | 715   | 415   | 58.0% |
| ⑤15歳～39歳の子ども・若者        | 1,200 | 252   | 21.0% |

## Ⅱ 調査の結果

### 1. こども基本法の認知度

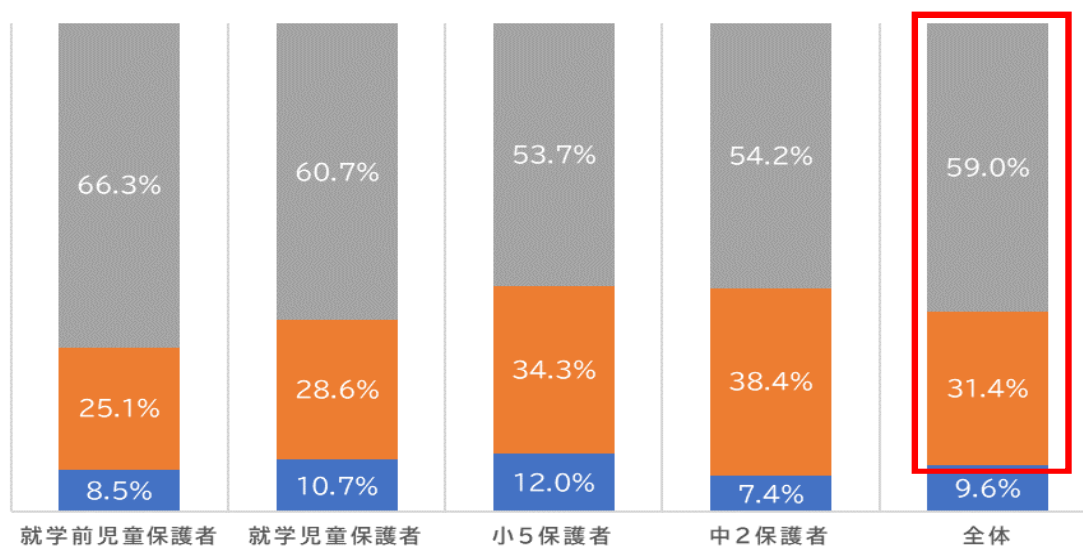
●こども基本法の認知度について、「知らなかった」「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合が保護者の90.4%、児童・生徒・若者の95.4%となり、9割以上が内容を知らないという結果になった。

●児童・生徒・若者については、年代が上がるに伴い、「こども基本法」の名称を聞いたことがある割合は増加傾向にある。

#### 保護者

就学前児童保護者n=398、就学児童保護者n=140、小5保護者n=341、中2保護者n=271、全体n=1,150

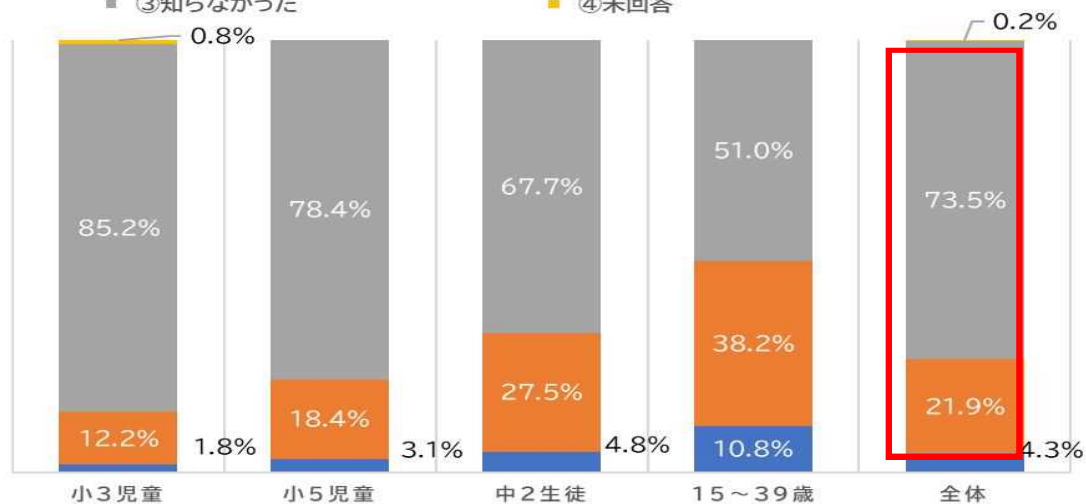
- ①聞いたこともあり、内容も知っている ■ ②聞いたことはあるが、内容は知らない
- ③知らなかった



#### 児童・生徒・15～39歳の若者

小3児童n=500、小5児童n=445、中2生徒n=415、15～39歳の若者n=252

- ①聞いたこともあり、内容も知っている ■ ②聞いたことはあるが、内容は知らない
- ③知らなかった ■ ④未回答

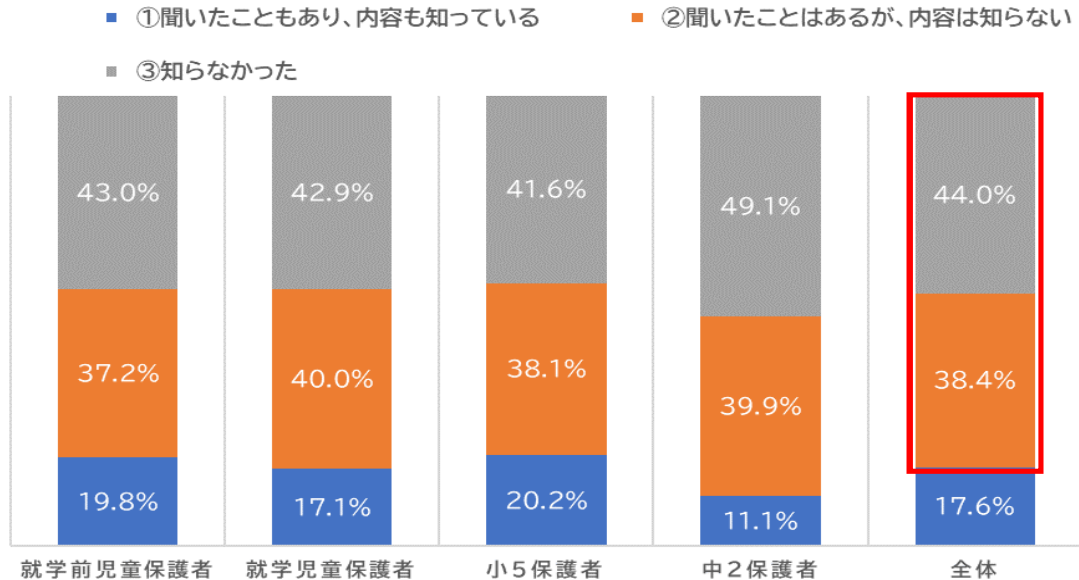


## 2. こどもの権利の認知度

●こどもの権利の認知度について、「知らなかった」「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答した割合が保護者の82.4%、児童・生徒・若者の90.8%となり、8割以上が内容を知らないという結果になった。

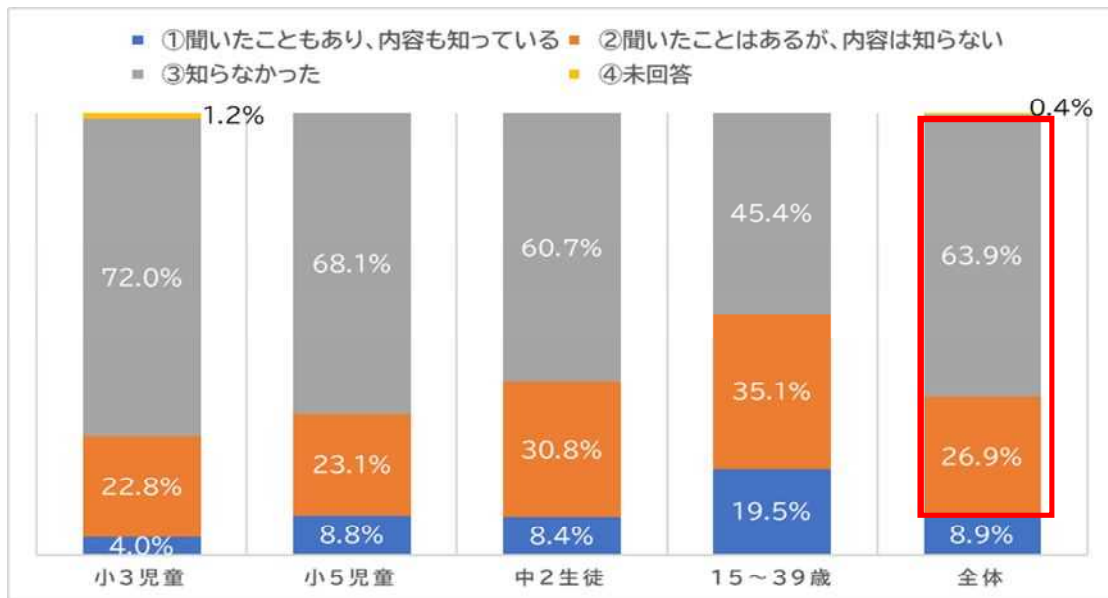
### 保護者

就学前児童保護者n=398、就学児童保護者n=140、小5保護者n=341、中2保護者n=271、全体n=1,150



### 児童・生徒・15～39歳の若者

小3児童n=500、小5児童n=445、中2生徒n=415、15～39歳の若者n=252



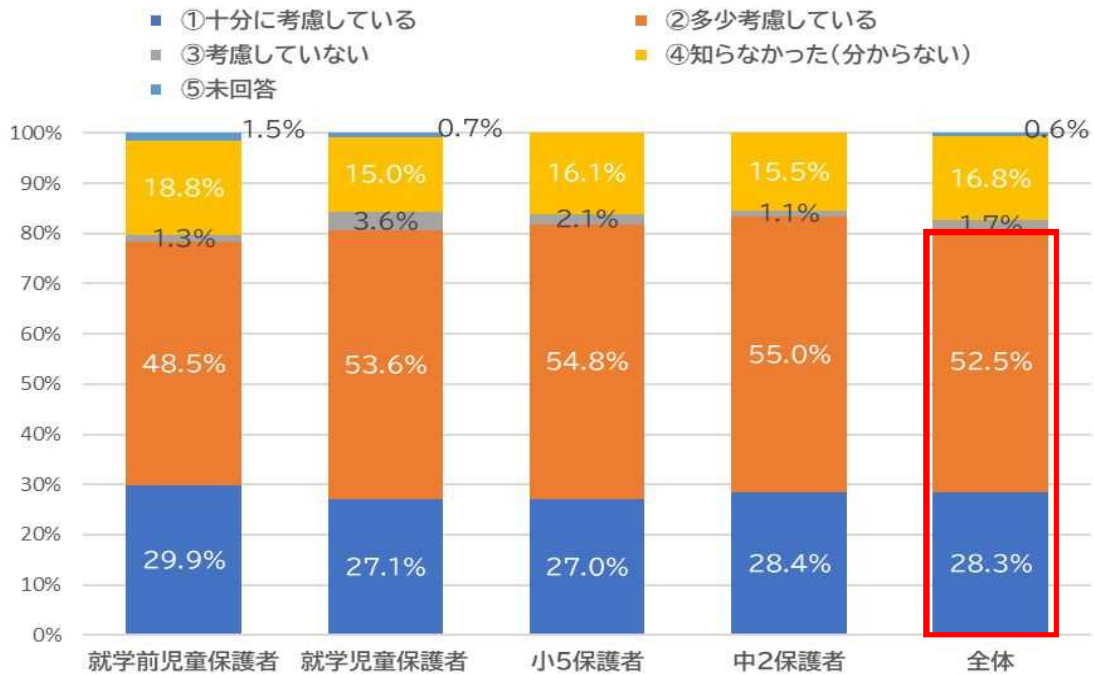


### 3. こどもの発達に応じて「こどもの権利」を考慮しているか。

●保護者では「十分に考慮している」「多少考慮している」と回答した割合が80.8%となったのに対し、児童・生徒・若者では、73.4%となっており、意識の差があった。

#### 保護者

就学前児童保護者n=398、就学児童保護者n=140、小5保護者n=341、中2保護者n=271、全体n=1,150

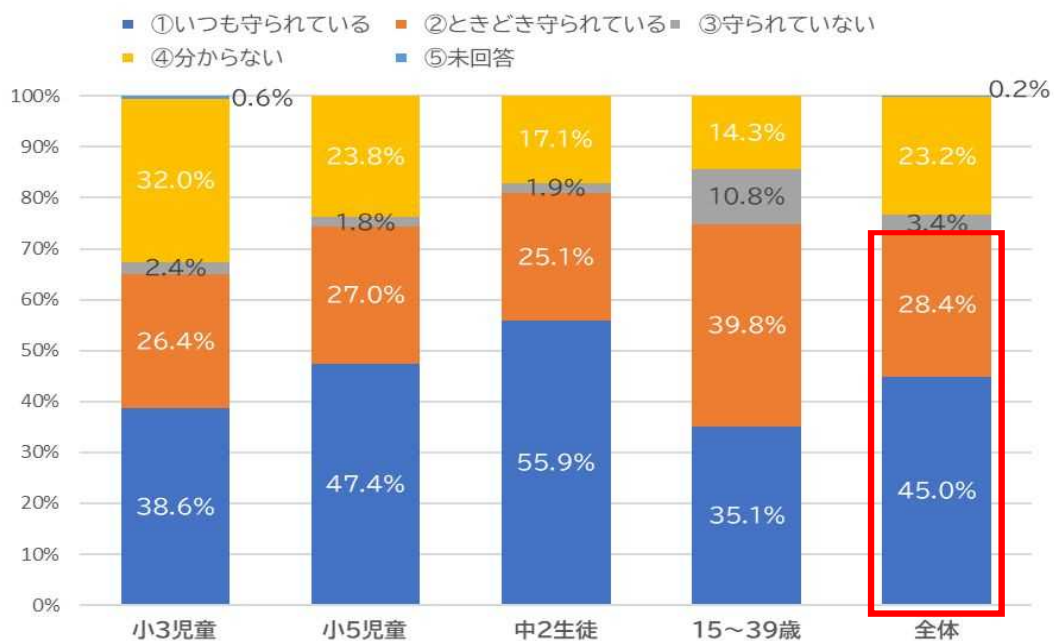


#### 児童・生徒・15～39歳の若者

小3児童n=500、小5児童n=445、中2生徒n=415、15～39歳の若者n=252

#### ○こどもの権利が守られていると思うか。

※15～39歳の若者には、こどもの権利が守られていたと思いますか。という設問



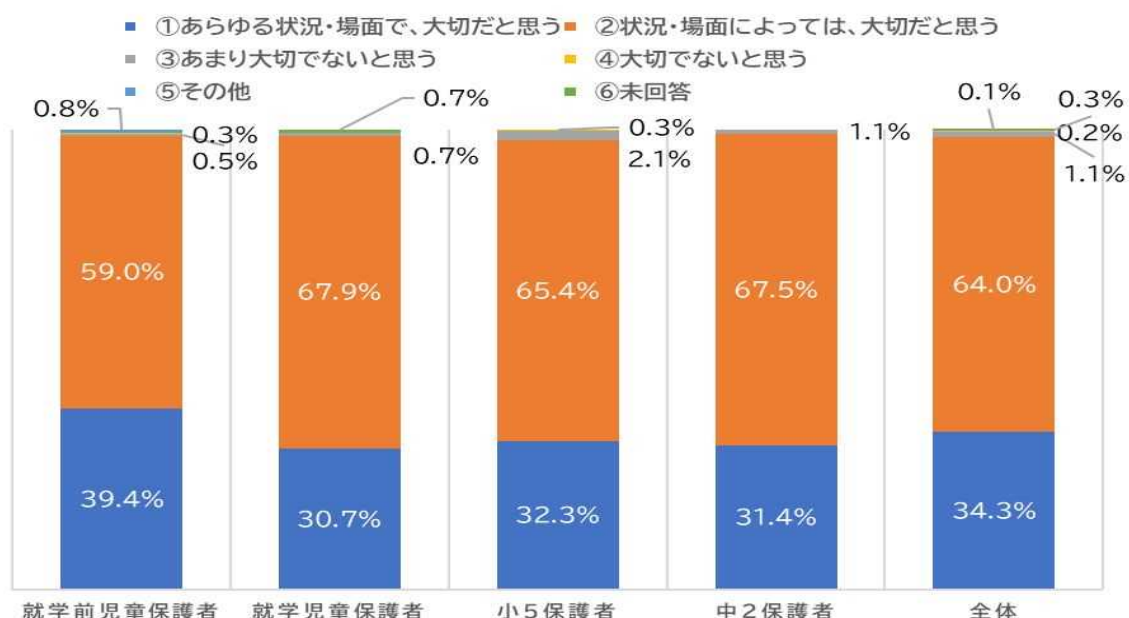
## 4. こどもの意見表明権

### 保護者

就学前児童保護者n=398、就学児童保護者n=140、小5保護者n=341、  
中2保護者n=271、全体n=1,150

◇ 地域活動や市政運営において、子どもの意見を聞くことは大切であると思うか。

●ほとんどの保護者が、子どもの意見を聞くことは大切であると考えている。



### 児童・生徒・15～39歳の若者

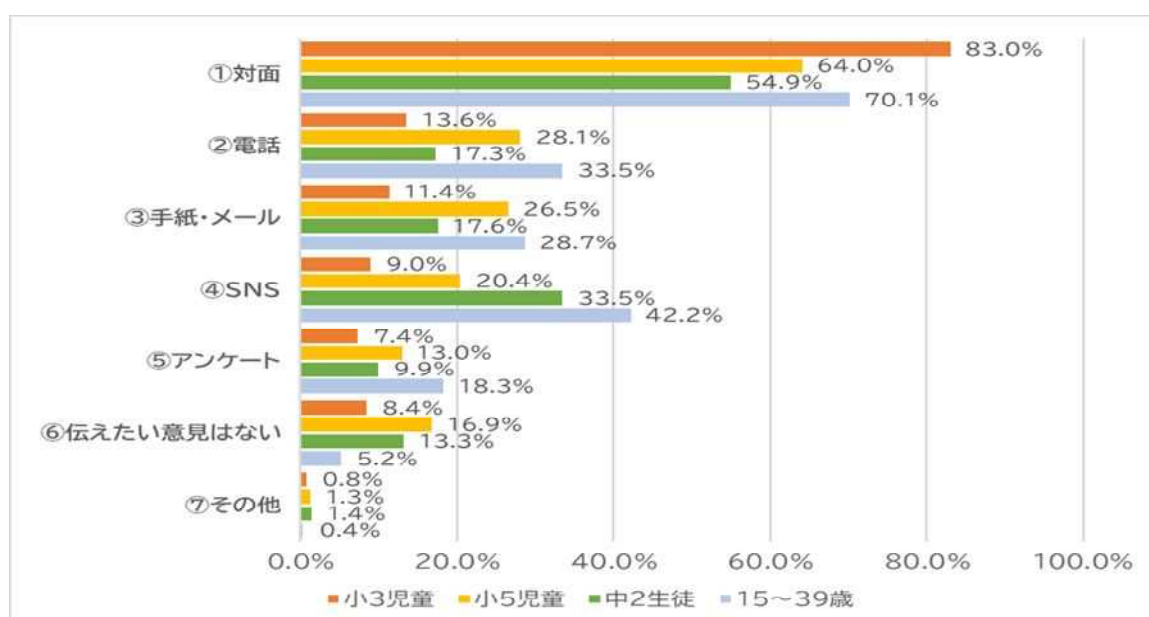
小3児童n=500、小5児童n=445、中2生徒n=415、15～39歳の若者n=252

◇ 意見を相手に伝える時にどのような方法・手段であれば伝えやすいか。

(複数回答)

●各年代とも①対面と回答した割合が一番多くなっている。

●年齢が上がるに伴い、④SNSと回答した割合が多くなっている。



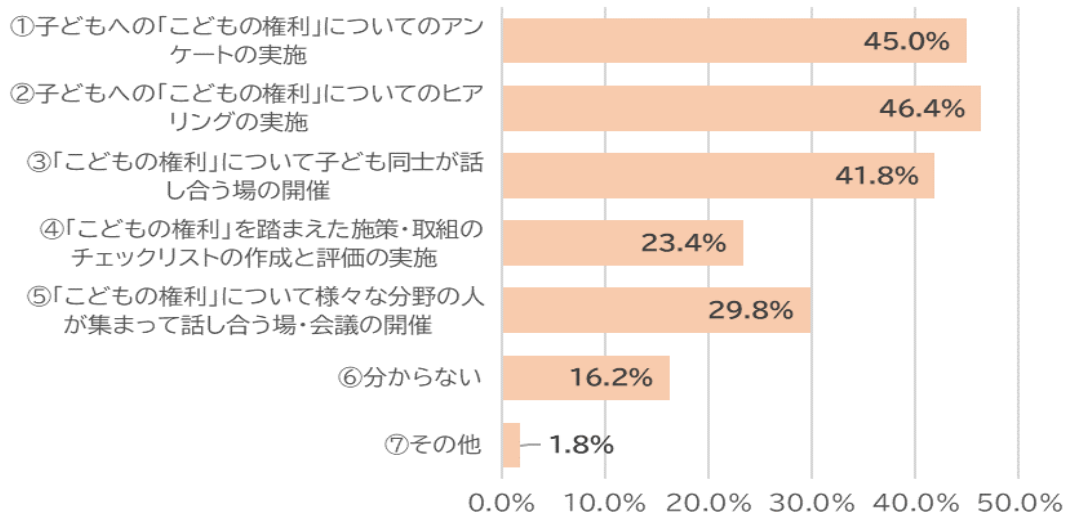
## 5. こどもの権利が守られているか確認するには、何が必要だと思うか。

(3つまで)

●こどもの権利が守られているか確認する手段としては、ヒアリング・アンケート・話し合いといった直接こどもが意見を表明できる手段が多くなっている。

### 保護者

全体n=1,150



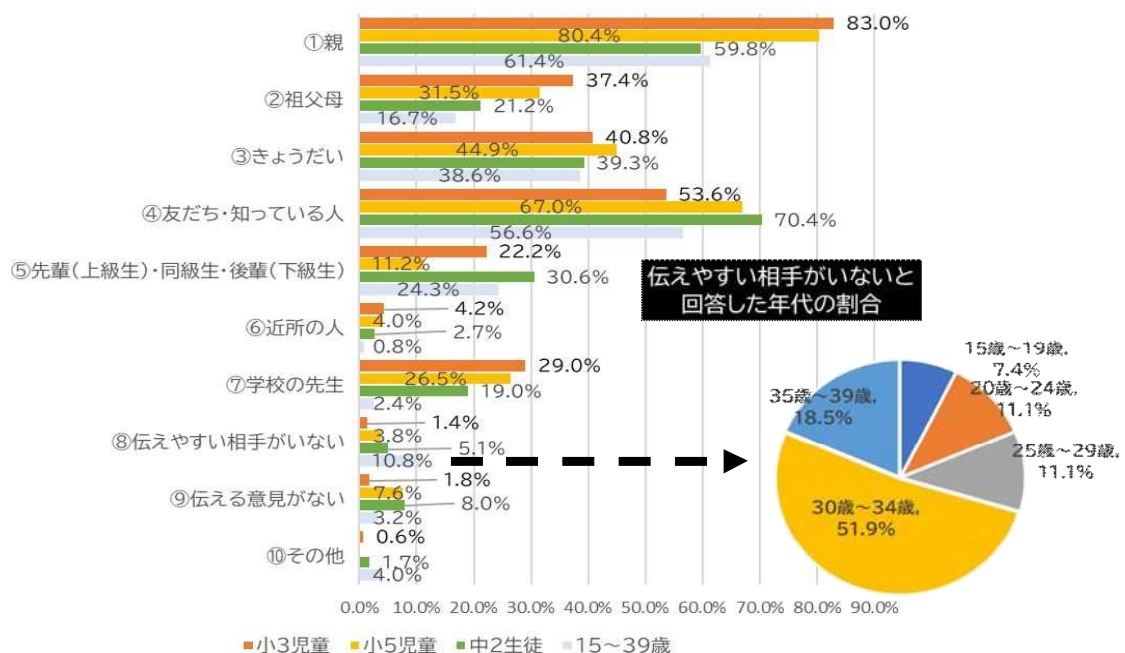
## 6. あなたは、どのような相手（関係性）であれば、あなたの意見を伝えやすいですか。（複数回答）

●小学生は親と回答した割合が最も多く、中学生は友だち・知人と回答した割合が最も多くなっている。

●若者の約1割が「伝えやすい相手がいない」となっている。

### 児童・生徒・15～39歳の若者

小3児童n=500、小5児童n=445、中2生徒n=415、15～39歳の若者n=252



越前市こども・子育て支援に関する調査  
結果報告書

令和 6 年 5 月

越前市市民福祉部こども未来課

## ■ 子育て支援に関するニーズ調査の概要

### 1 調査方法と調査期間

- ・ 郵送による配布・回収
- ・ 2月28日発送～3月13日

### 2 対象者

令和5年11月1日現在、越前市に住民登録のある児童の保護者

| 対象                | 日本国籍 | 外国籍 | 合計   |
|-------------------|------|-----|------|
| 就学前児童（0歳～5歳）      | 840人 | 60人 | 900人 |
| 就学児童（小学1年生、小学3年生） | 280人 | 20人 | 300人 |

《参考》 ※前回調査状況

- ・ 調査期間 平成30年11月16日発送～12月28日

| 対象             | 日本国籍   | 外国籍 | 合計     |
|----------------|--------|-----|--------|
| 就学前児童（0歳～5歳）   | 1,770人 | 80人 | 1,850人 |
| 就学児童（小学1年～4年生） | 620人   | 30人 | 650人   |

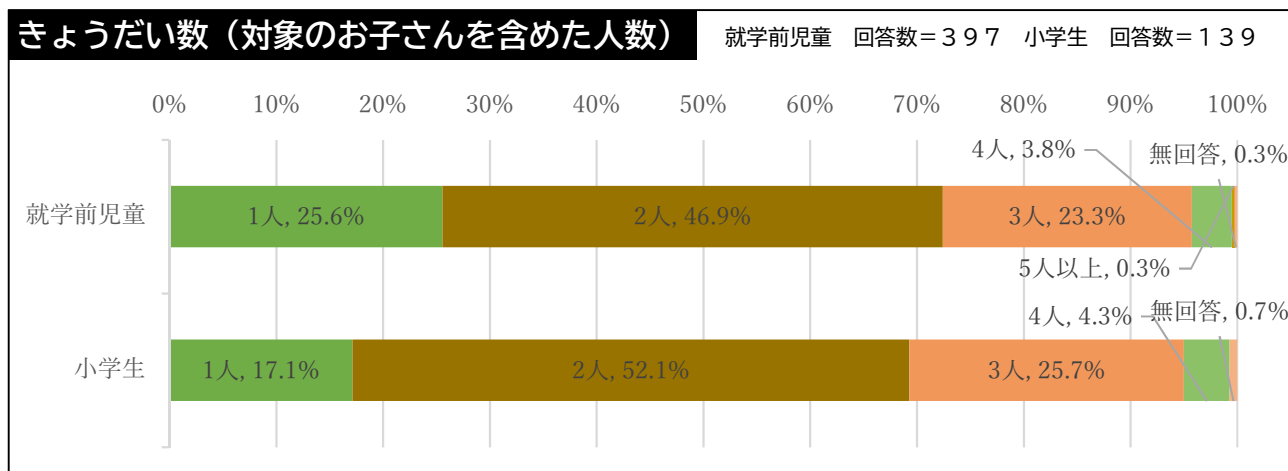
### 3 調査の回収状況

| 対象    | 有効回答数<br>(うち外国籍) | 回収率   | 回収率<br>(外国籍) | H30回収率<br>(回答数)   |
|-------|------------------|-------|--------------|-------------------|
| 就学前児童 | 399人<br>(8人)     | 44.3% | 13.3%        | 68.0%<br>(1,258人) |
| 就学児童  | 140人<br>(1人)     | 46.7% | 5.0%         | 66.9%<br>(435人)   |
| 合 計   | 539人<br>(9人)     | 44.9% | 11.3%        | 67.7%<br>(1,693人) |

## ■ 越前市のこどもや家庭の現状と潜在ニーズ

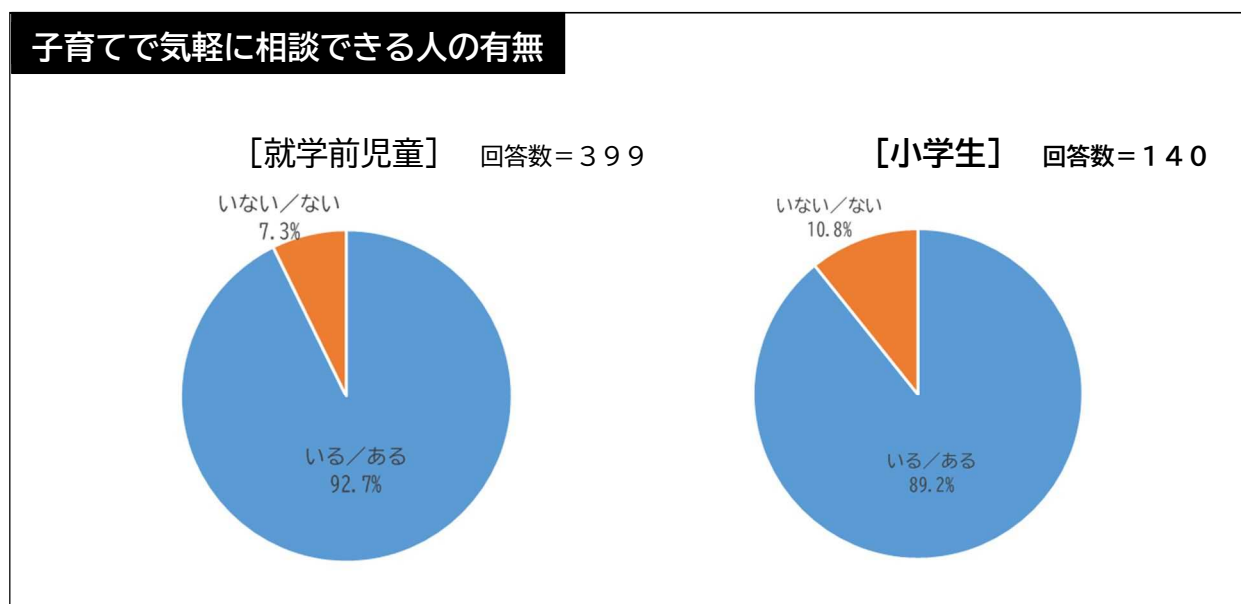
### (1) 対象児童を含めたきょうだい数

- 就学前児童について、きょうだい数が「2人」と回答した割合が前回は3.5ポイント上回り、「3人」と回答した割合が前回は3.2ポイント上回っている。
- 小学生について、きょうだい数が「1人」と回答した割合が前回は1.9ポイント上回り、「2人」と回答した割合が前回は7.5ポイント上回っている。



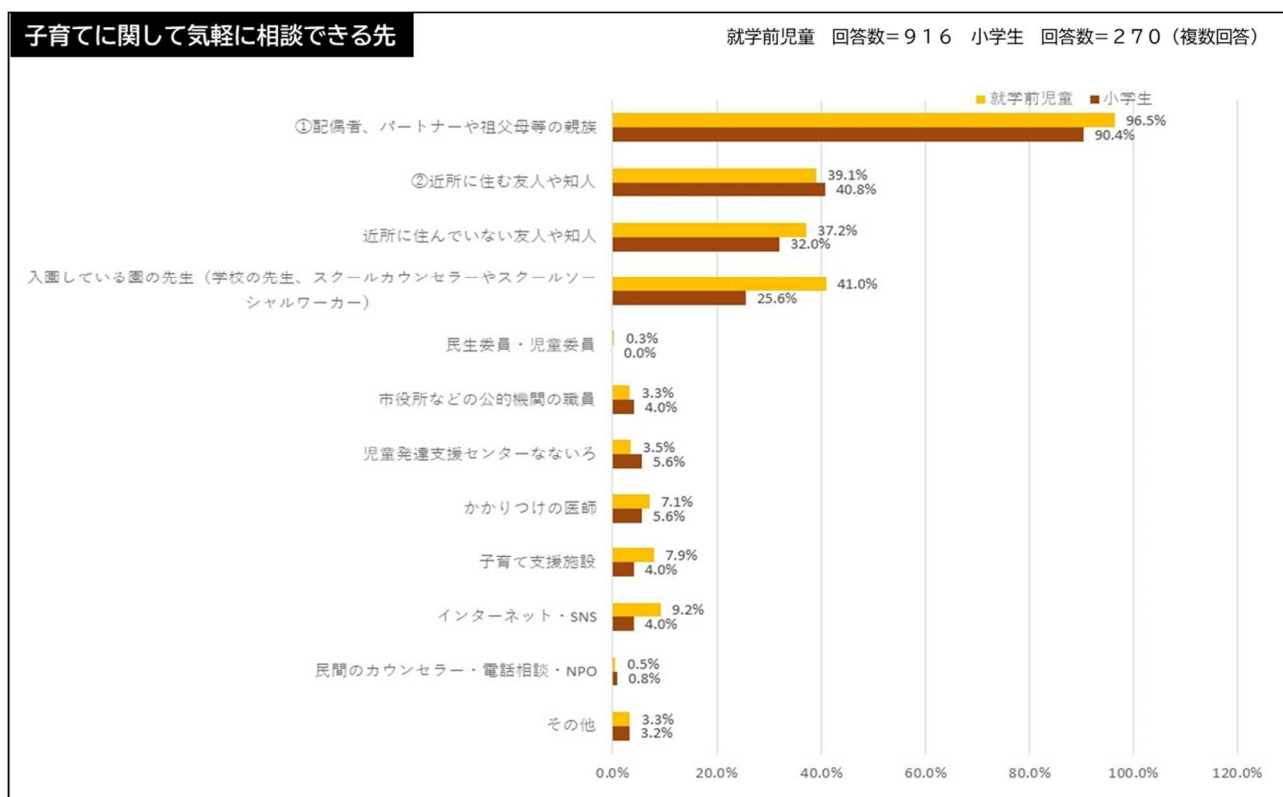
### (2) 子育てで気軽に相談できる相手

- 就学前児童、小学生ともに、子育てをする上で、気軽に相談できる人が「いる/ある」と回答している割合は、それぞれ前回は3.2ポイント、4.4ポイント下回っている。



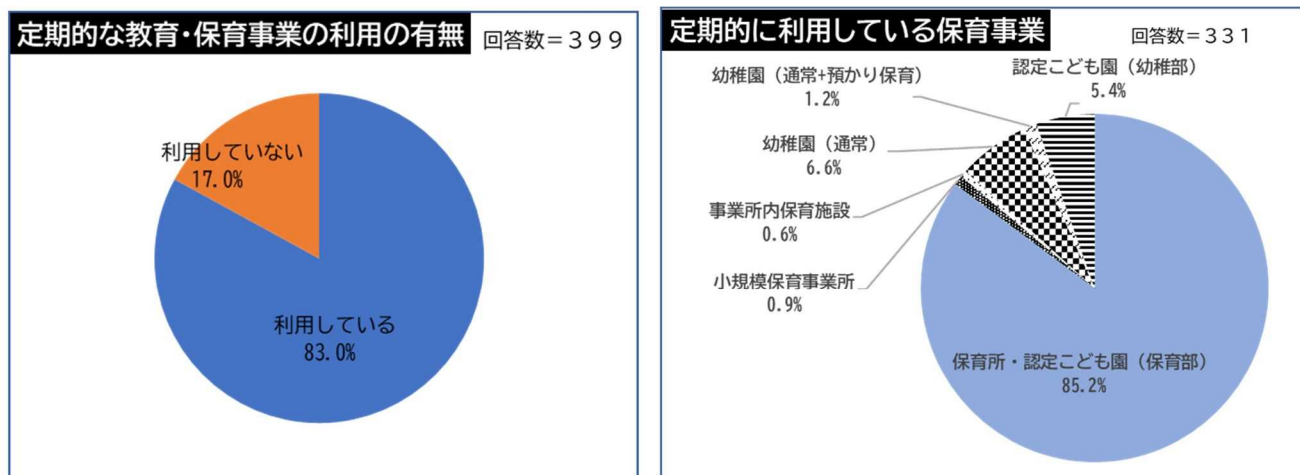
### (3) 子育てに関して気軽に相談できる先

- 就学前児童、小学生ともに、「配偶者、パートナーや祖父母等の親族」と回答した割合が、それぞれ96.5%、90.4%と最も高くなっている。



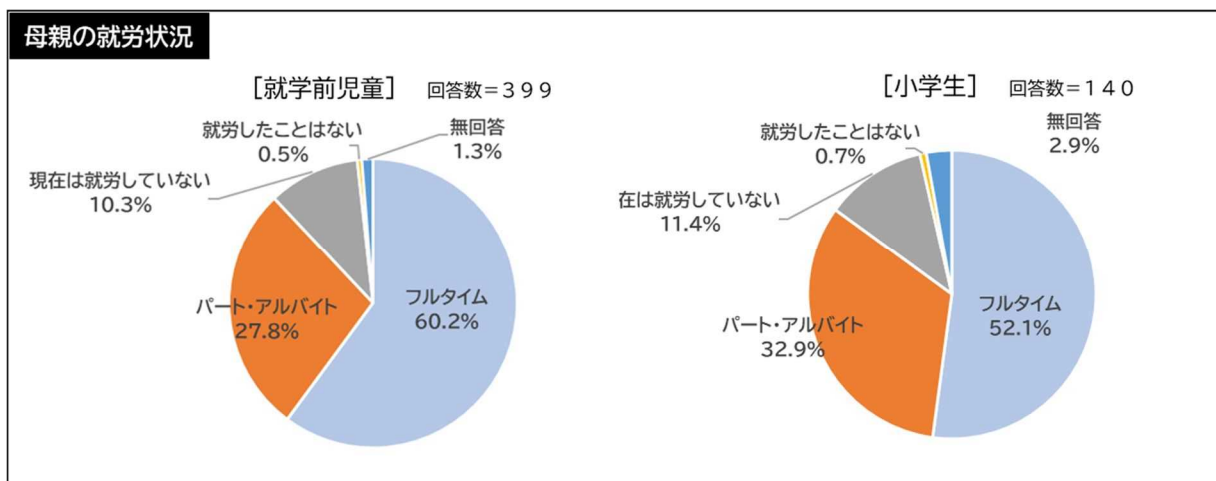
### (4) 定期的な教育・保育事業の利用

- 定期的な教育・保育事業を「利用している」と回答した割合は、前回は4.6ポイント上回っている。定期的にご利用している保育事業は、保育所・認定こども園 (保育部)、事業所内保育施設、小規模保育事業所を合わせると、前回は4.1ポイント上回っており、保育ニーズが高まっていることが分かる。



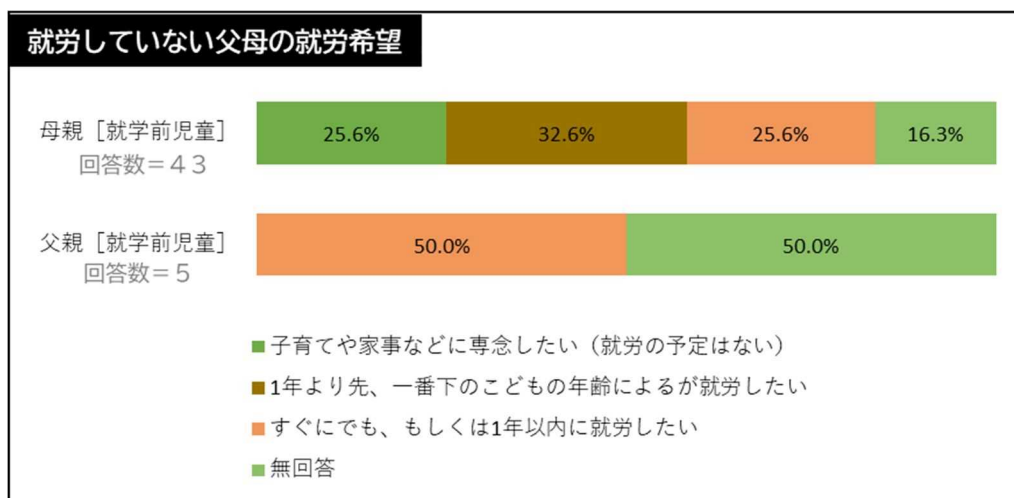
## (5) 母の就労状況

- 就学前児童、小学生ともに、「フルタイム」「パート・アルバイト」と就労している母親は8割を超えている。就学前児童の「フルタイム」就労については、前回は9.3ポイント上回っており、保育ニーズの高まりとの関係が強いことが分かる。



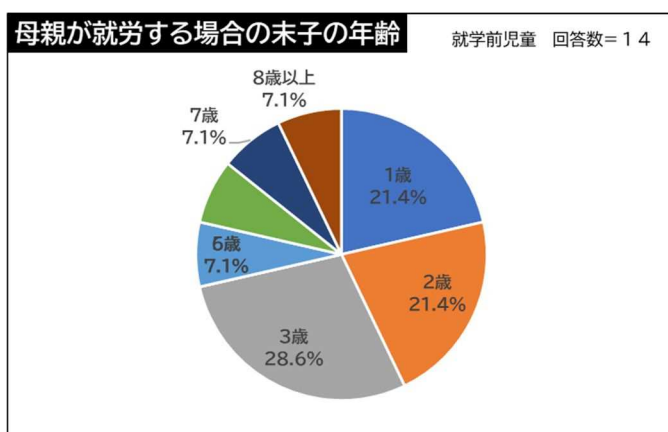
## (6) 就労していない父母の就労希望

- 1年より先、一番下の子どもの年齢によるが就労したい」、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した割合が58.2%いるが、前回は17.9ポイント下回っている。



## (7) 母親が就労する場合の末子の年齢

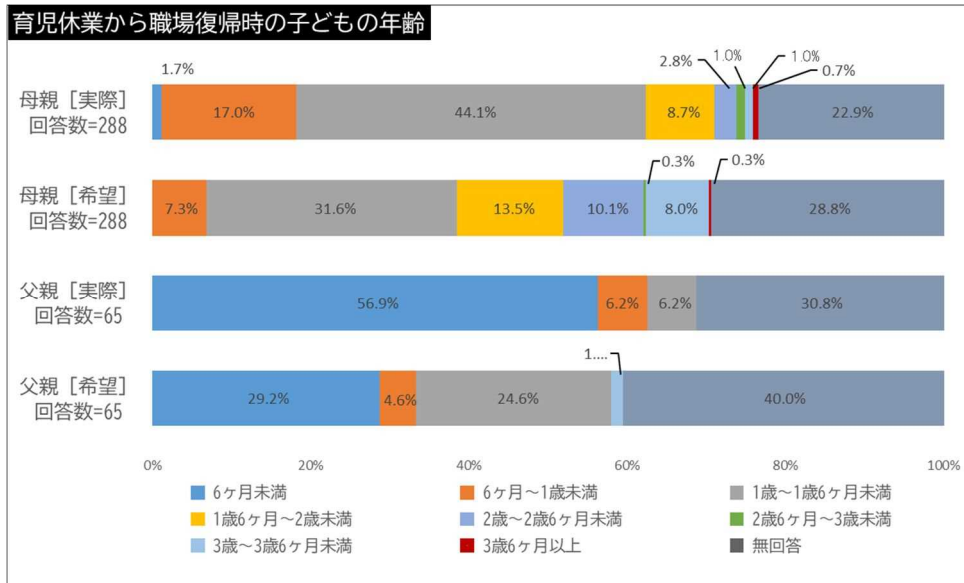
- 「1歳」と回答した割合は、前回は9.5ポイント上回っている。





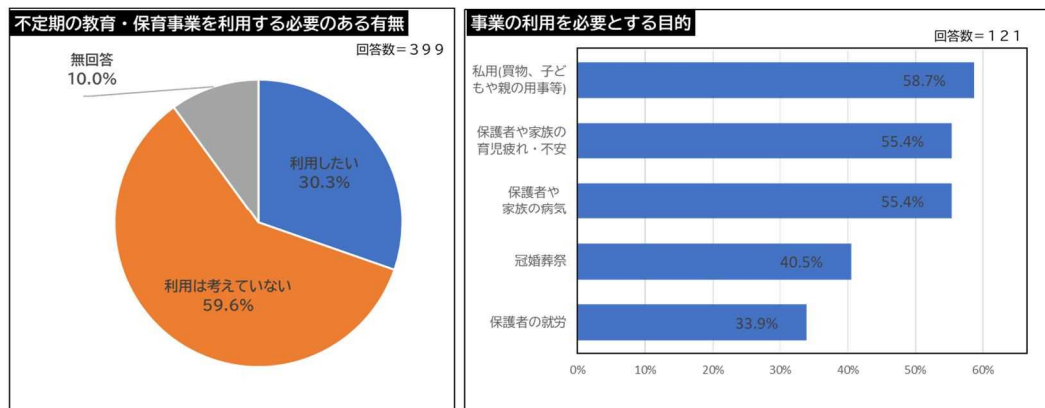
## (8) 育児休業から職場復帰時の子どもの年齢

- 母親の職場復帰時の子どもの年齢は、「希望」は、1歳6か月以上が32.2%となっているが、「実際」は1歳6か月未満が62.8%となっている。(7)、(8)により低年齢児の保育ニーズが高いことが分かる。



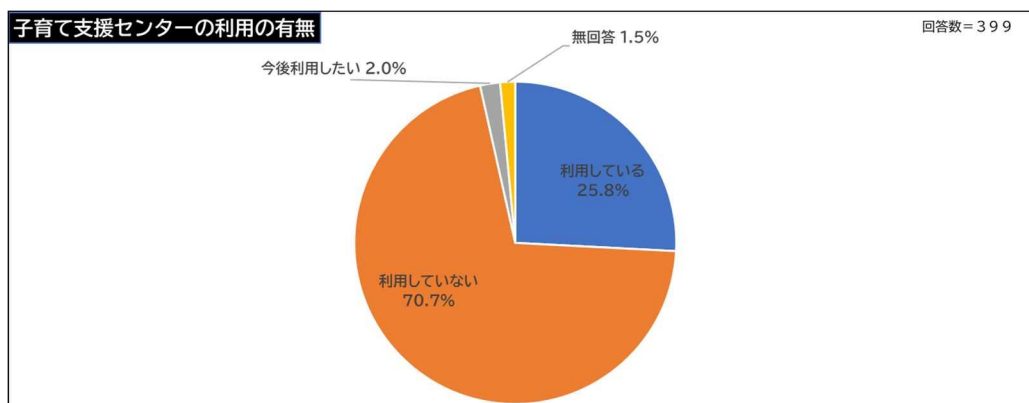
## (9) 一時預かり等の利用希望について

- 一時預かり事業等を「利用したい」は前回は8.4ポイント下回っているが、一定数の利用ニーズがある。



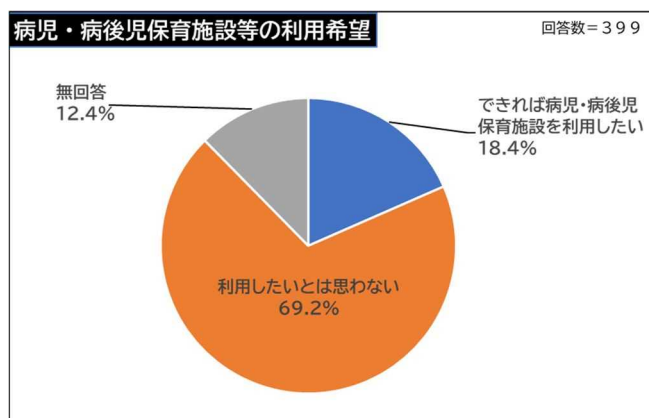
## (10) 子育て支援センターの利用の有無について

- 子育て支援センターを「利用している」は、前回は14.2ポイント上回っており、利用ニーズが高いことが分かる。



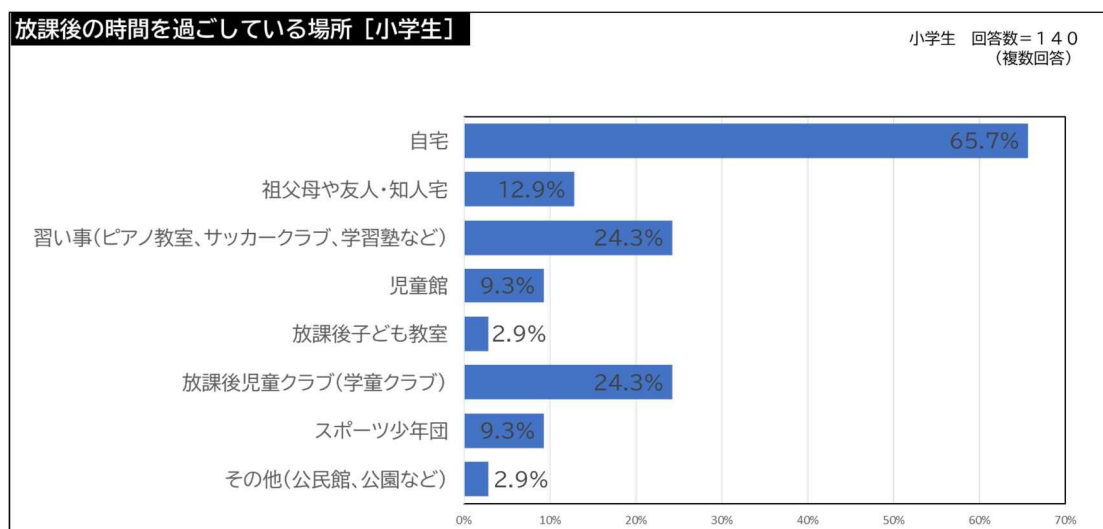
### (1 1) 病児・病後児保育施設等の利用について

- 病児・病後児保育施設等を「利用したいとは思わない」が、前回とほぼ同数である。



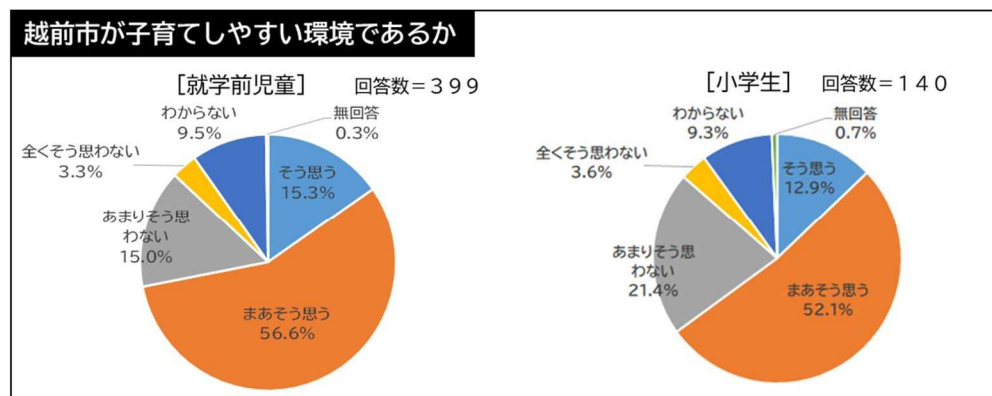
### (1 2) 放課後の時間を過ごしている場所について

- 小学生が放課後過ごしている場所は、「自宅」が最も高く、次いで「習い事」、「放課後児童クラブ」となっている。「放課後児童クラブ」については、前回は3.1ポイント下回っている。



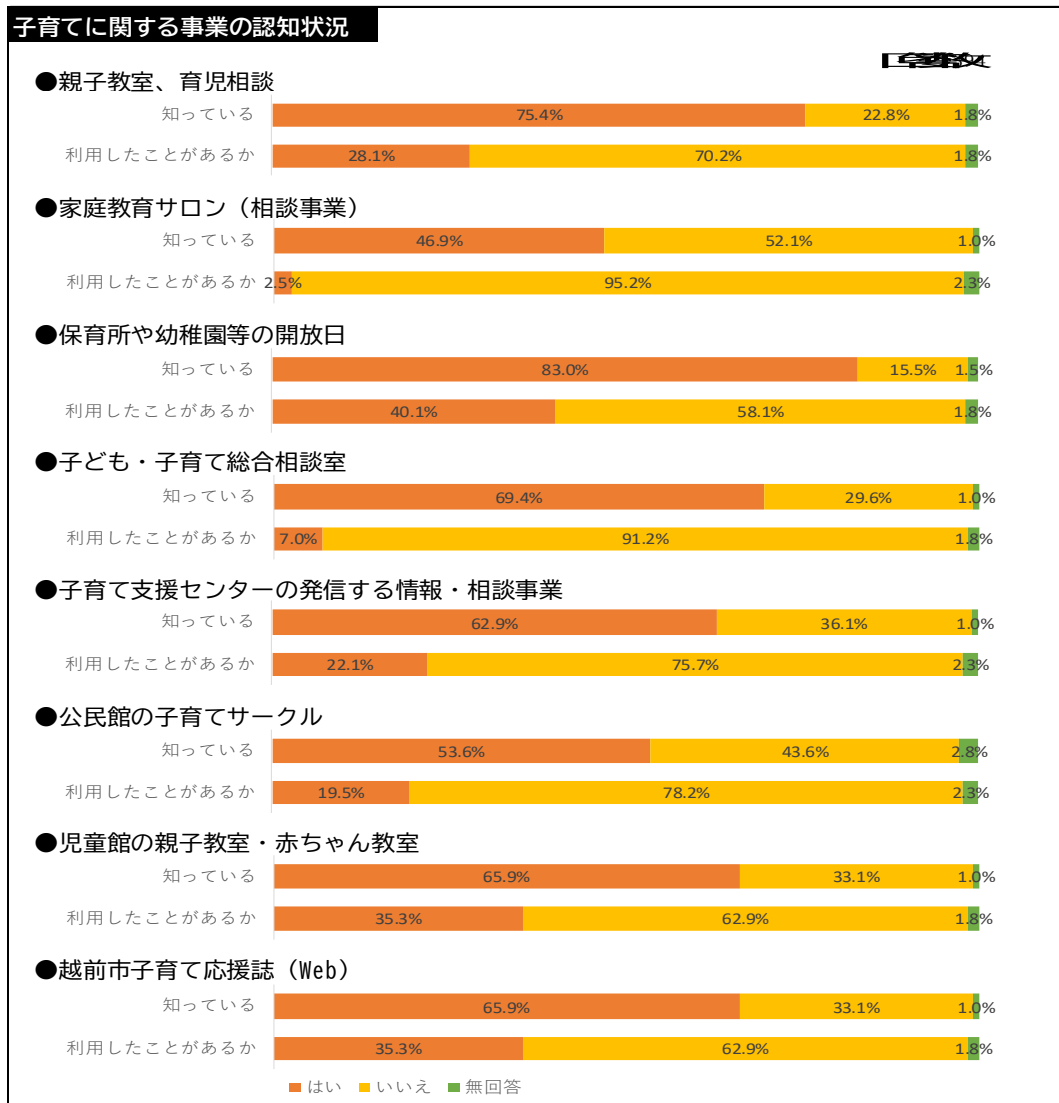
### (1 3) 越前市が子どもを育てやすい環境であるかについて

- 子どもを育てやすい環境にあるかについて、就学前児童、小学生ともに「そう思う」、「まあそう思う」を合わせると、それぞれ71.9%、65%が満足している結果となった。



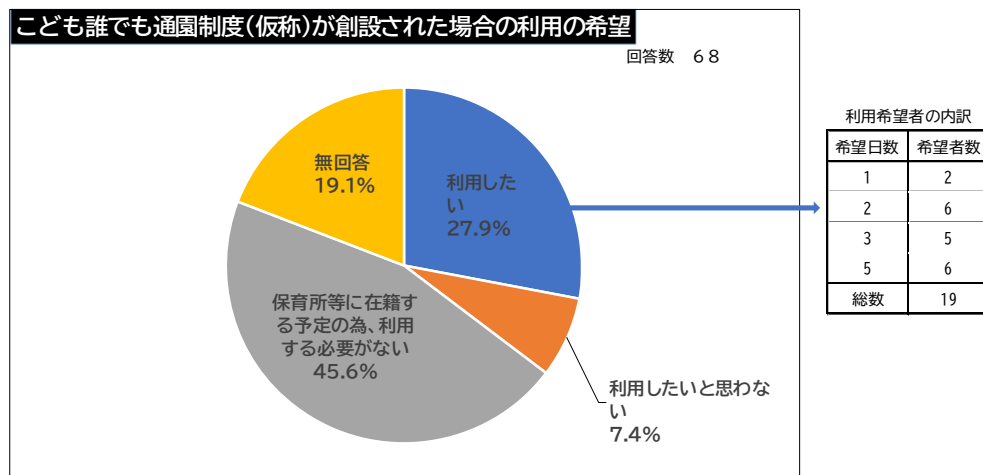
#### (14) 子育てに関する事業の認知状況について

- 「家庭教育サロン（相談事業）」と「越前市子育て応援誌（Web）」を知っていると回答した割合が、それぞれ前回は 9.1 ポイント、19.7 ポイント上回った。そのほかの認知度は前回と大きく変わっていなかった。



#### (15) こども誰でも通園制度(仮称)が創設された場合の利用の希望

- 「利用したい」と回答した割合は、27.9%であった。



## 【資料３－２の参考資料】 前回調査結果（H30年度実施）

### 「子育て支援に関するニーズ調査」結果

#### ■ 子育て支援に関するニーズ調査の概要

##### 1 調査方法と調査期間

- ・ 郵送による配布・回収
- ・ 11月16日発送～12月28日

##### 2 対象者

平成30年10月1日現在、越前市に住民登録のある児童の保護者

| 対象             | 日本国籍   | 外国籍 | 合計     |
|----------------|--------|-----|--------|
| 就学前児童（0歳～5歳）   | 1,770人 | 80人 | 1,850人 |
| 就学児童（小学1年～4年生） | 620人   | 30人 | 650人   |

《参考》 ※前回調査状況（外国籍なし）

- ・ 調査期間 平成25年12月18日～12月27日

| 対象             |        |
|----------------|--------|
| 就学前児童（0歳～5歳）   | 1,500人 |
| 就学児童（小学1年～4年生） | 465人   |

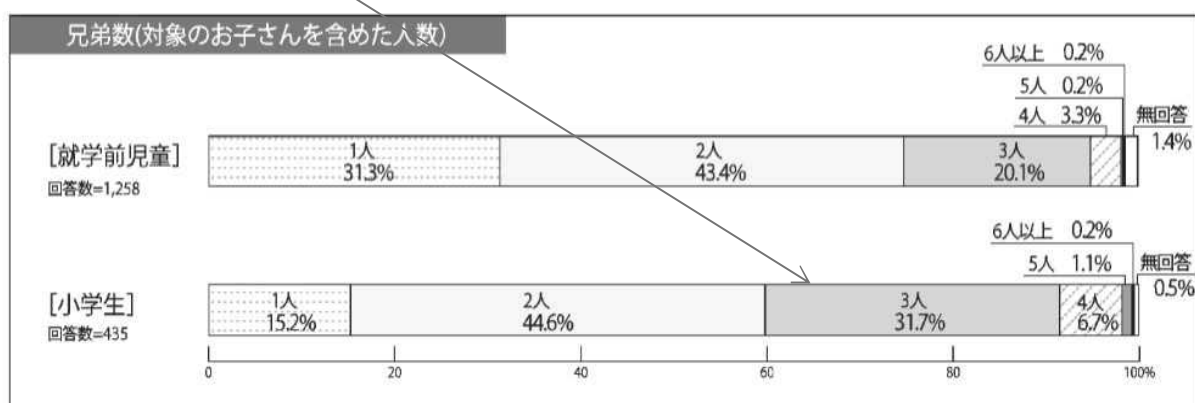
##### 3 調査の回収状況

| 対象    | 有効回答数（うち外国籍） | 回収率   | 回収率（外国籍） | H25回収率      |
|-------|--------------|-------|----------|-------------|
| 就学前児童 | 1,258人（39人）  | 68.0% | 48.7%    | 44.7%（670人） |
| 就学児童  | 435人（16人）    | 66.9% | 53.7%    | 43.7%（203人） |
| 合 計   | 1,693人（55人）  | 67.7% | 50.0%    | 44.4%（873人） |

#### ■ 越前市の子どもや家庭の現状と潜在ニーズ（子育て支援に関するニーズ調査より抜粋）

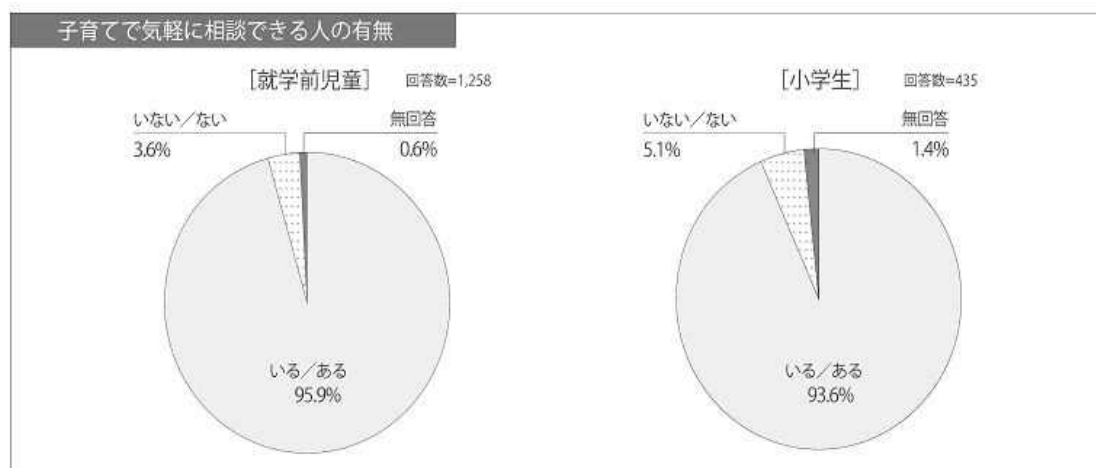
##### （１）対象児童を含めた兄弟数

小学生について、兄弟数が「3人」と回答した割合が、前回を4.1ポイント上回っている。



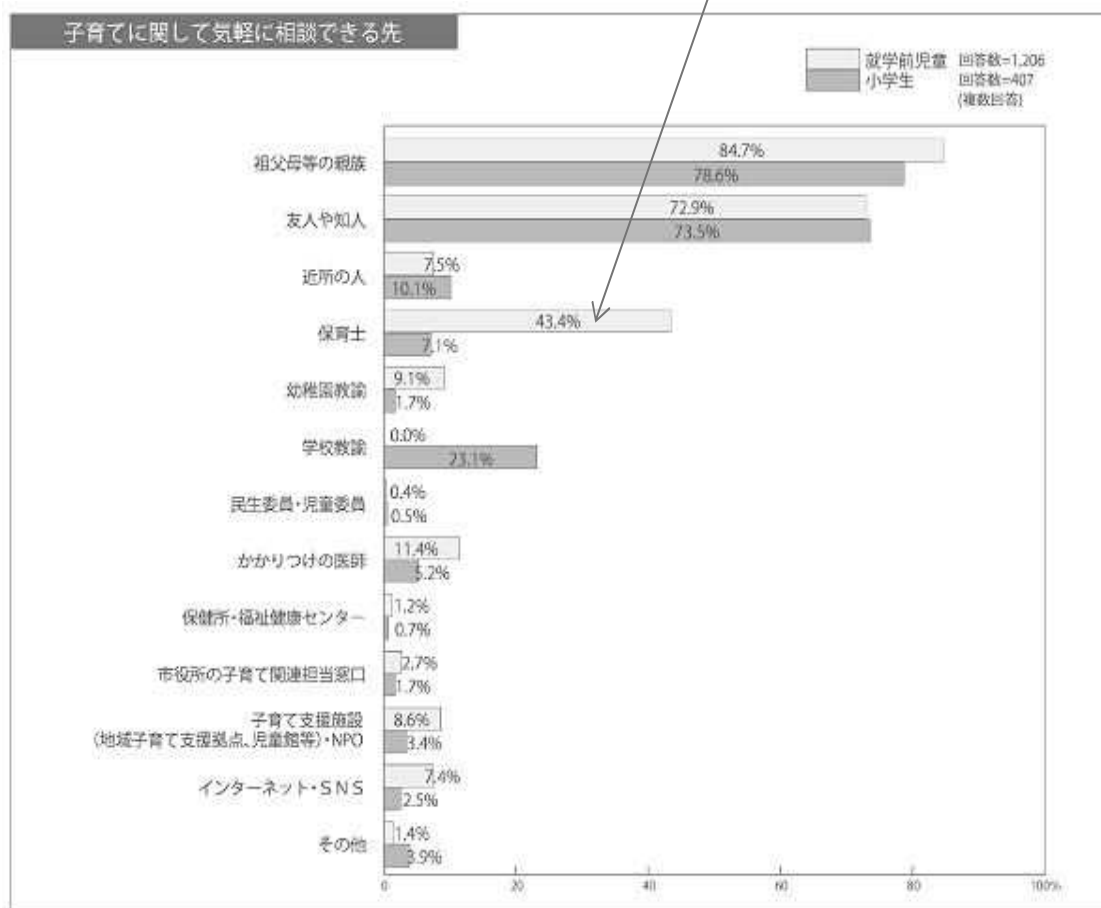
## (2) 子育てで気軽に相談できる相手

子育てをする上で、気軽に相談できる人が、「いる/ある」と回答している割合は、それぞれ前回は5.3ポイント、3ポイント上回っている。



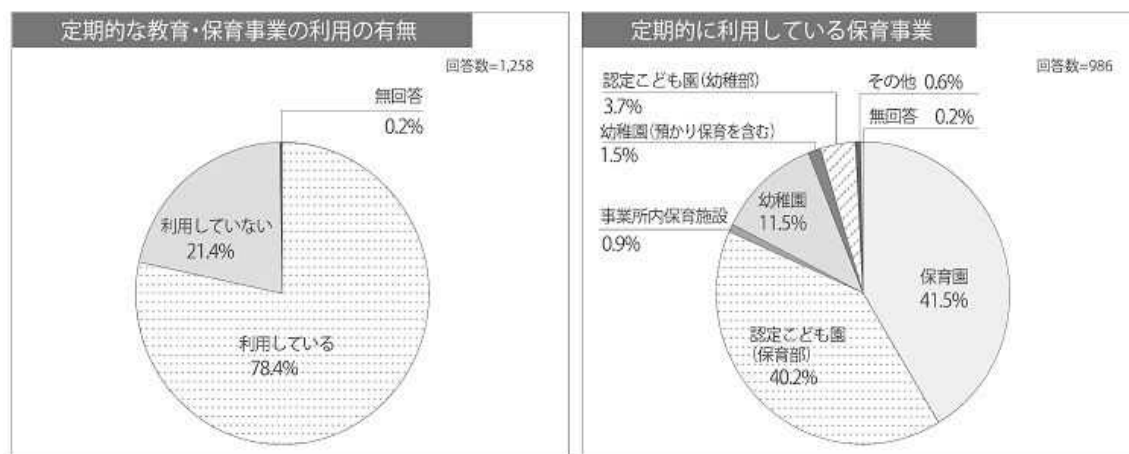
## (3) 子育てに関して気軽に相談できる先

就学前児童、小学生ともに、「祖父母等の親族」と回答した割合がそれぞれ84.7%、78.6%と最も高く、次いで「友人や知人」がそれぞれ、72.9%、73.5%となっている。また、就学前児童については、「保育士」が前回は8.6ポイント上回っている。このことから、保護者と保育所、認定こども園（保育部）が関わりが大きいことがわかる。



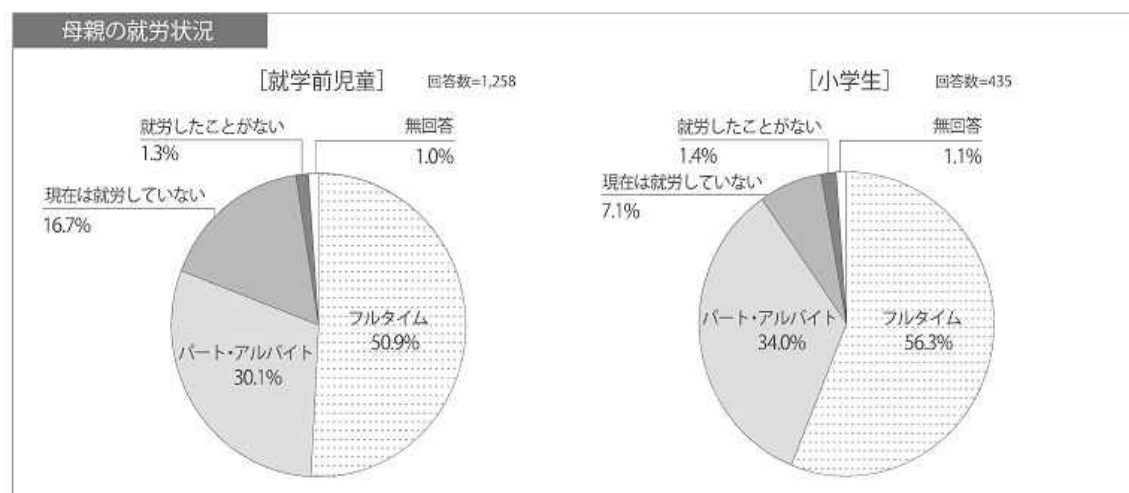
#### (4) 定期的な教育・保育事業の利用

定期的な教育・保育事業を「利用している」と回答した割合は78.4%と最も高く、「保育園」、「認定こども園（保育部）」、「事業所内保育」を合わせると、前回は10.9ポイント上回っているため、保育ニーズが高まっていることがわかる。



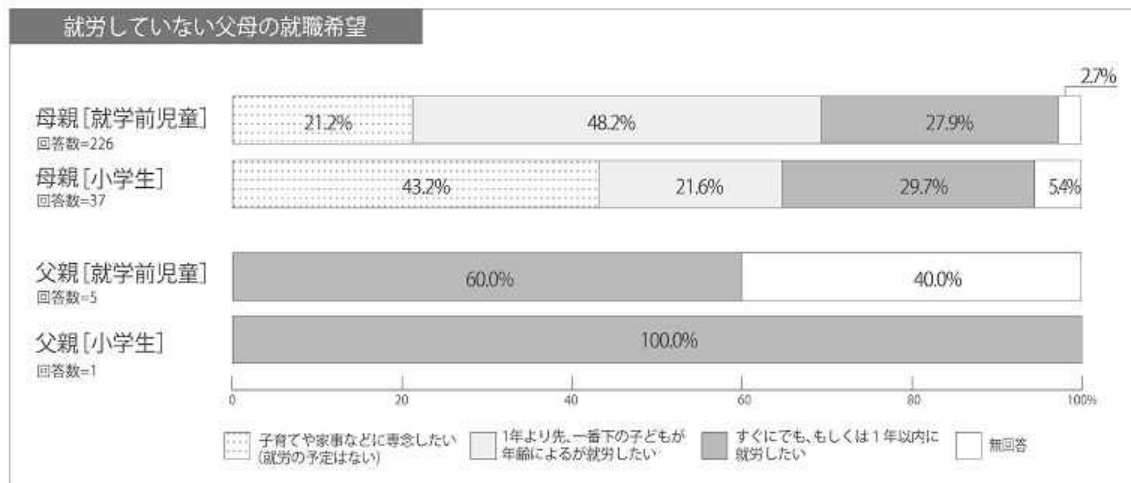
#### (5) 母の就労状況

就学前児童、小学生ともに、「フルタイム」「パート・アルバイト」と就労している母親は8割を超えており、「フルタイム」については、それぞれ前回は4.6ポイント、13.9ポイント上回っている。



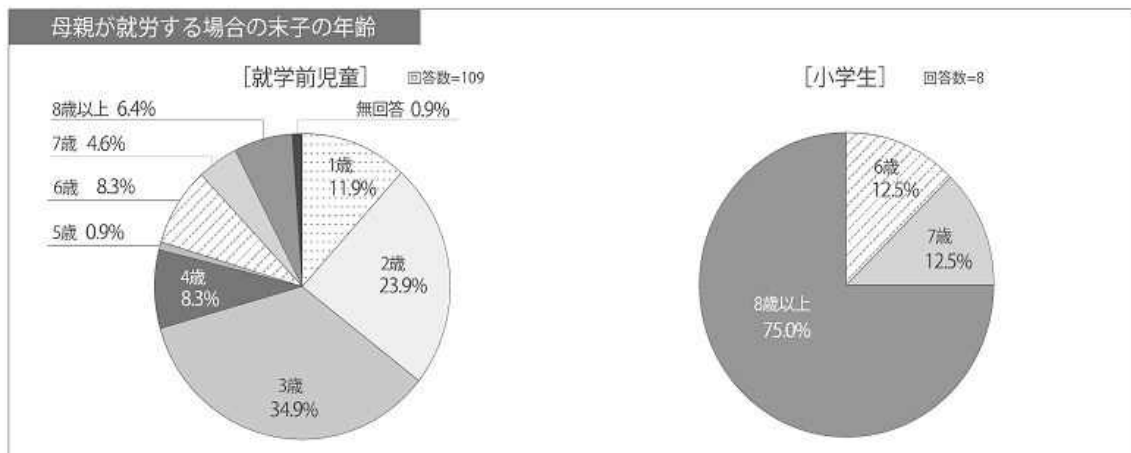
## (6) 就労していない父母の就労希望

就学前児童の母親は、「1年より先、一番下の子どもの年齢によるが就労したい」と回答した割合が48.2%と最も高く、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」を合わせると、前回は5.3ポイント上回っている。これにより、母親の社会参画の意識が高まってきていることがわかる。



## (7) 母親が就労する場合の末子の年齢

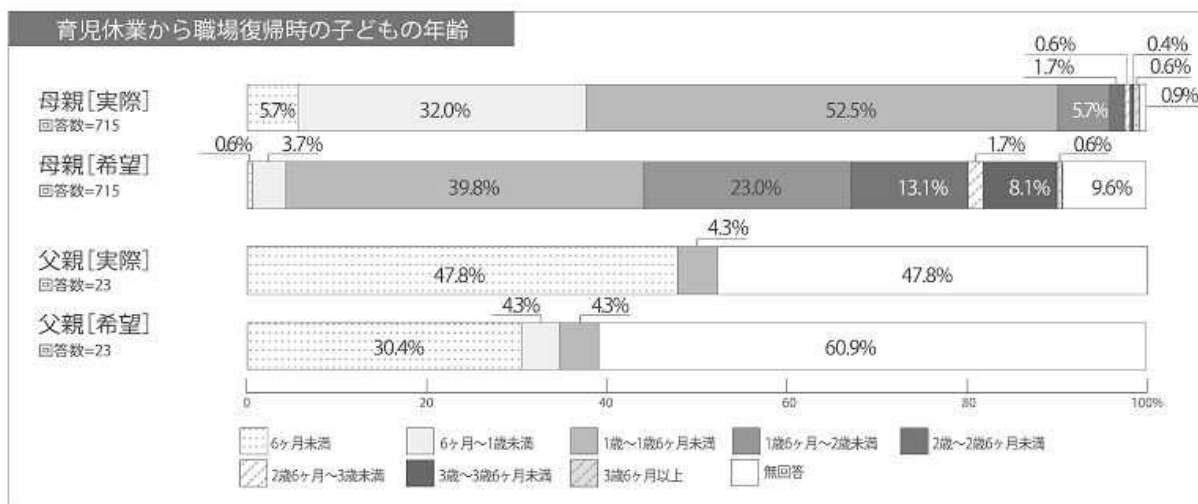
就学前児童の母親が、「1歳」、「2歳」と回答した割合は、前回は9.5ポイント上回っている。



## (8) 育児休業から職場復帰時の子どもの年齢

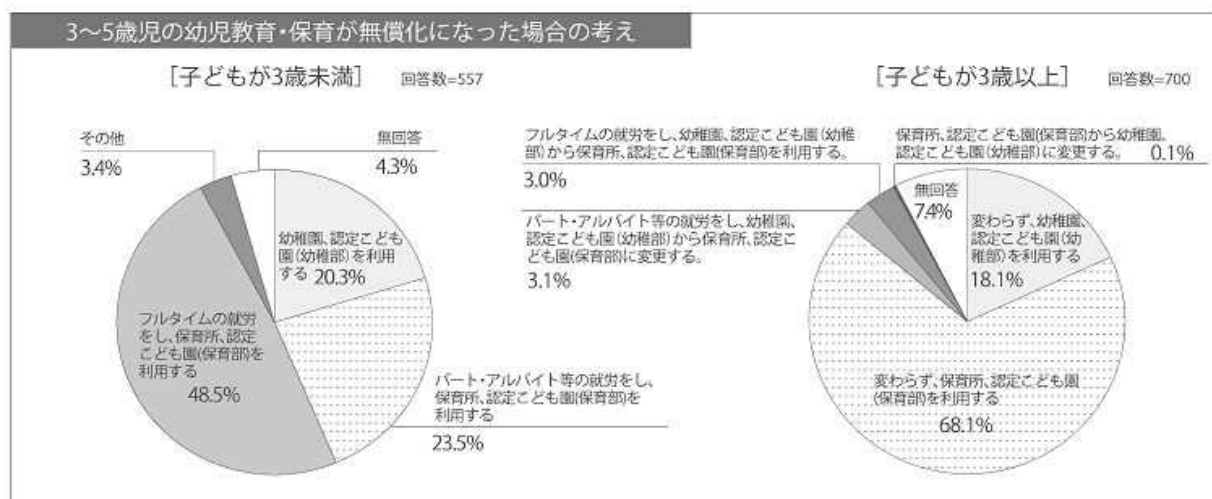
母親の職場復帰時の子どもの年齢は、「希望」は1歳6箇月以上が46.5%となっているが、「実際」は1歳6箇月未満が90.2%となっている。

(7)、(8)により低年齢児の保育ニーズが高いことが分かる。



## (9) 3～5歳児の幼児教育・保育が無償化になった場合

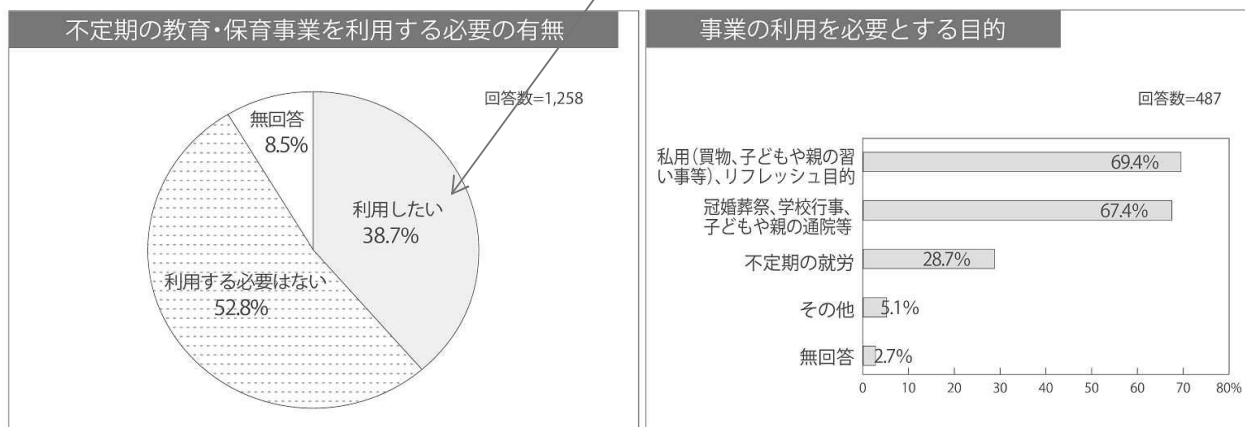
3歳以上の子どもについて、「変わらず現在の事業を利用する。」と回答した割合が、86.2%と高く、10月から開始される無償化による影響は、ニーズ調査結果からはほとんど感じられなかった。しかしながら、幼児教育の無償化が実施され、実際に実感すると影響が出る可能性はあると考えられる。





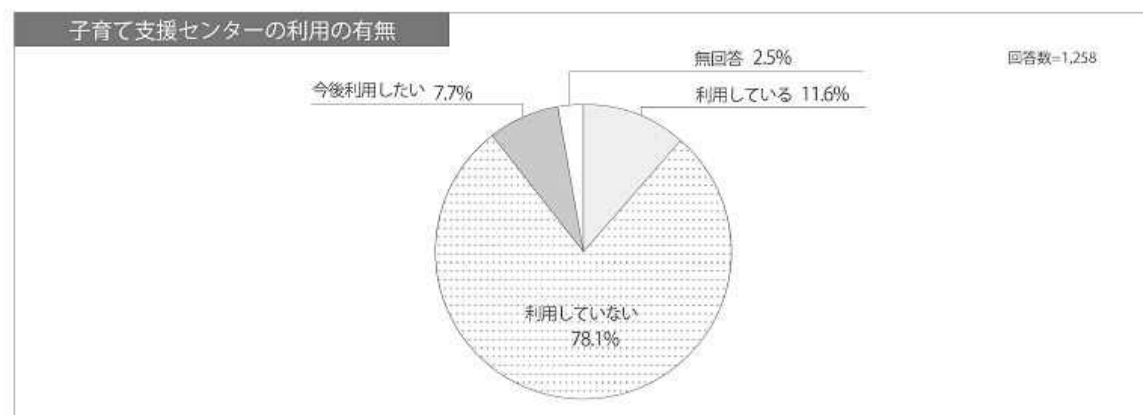
## (10) 一時預かり等の利用希望について

一時預かり事業等を「利用する必要はない」が52.8%と、「利用したい」を上回っているが、前回の調査と比較すると、「利用したい」のニーズが14.1ポイント上回っているため、引き続き推進していく必要がある。



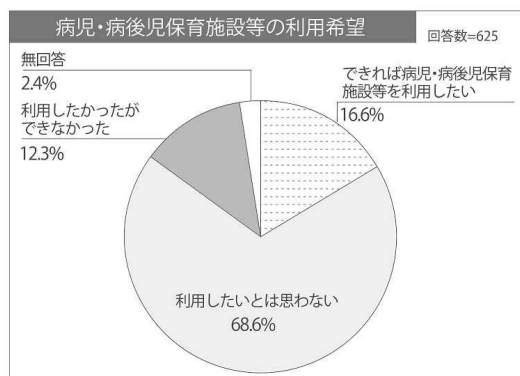
## (11) 子育て支援センターの利用の有無について

子育て支援センターを「利用していない」は78.1%と非常に高かったものの、「利用している」、「利用したい」が19%あり、これを年齢別に分析すると、3歳未満が73%を占めている。就学前の子育て家庭に対する相談、育児支援の場として、引き続き推進していく必要がある。



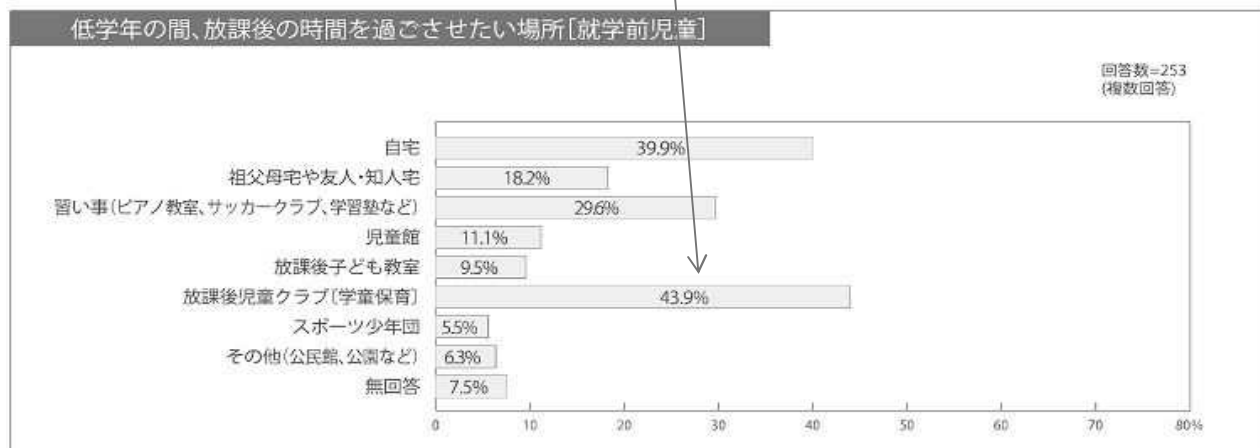
## (12) 病児・病後児保育施設等の利用について

病児・病後児保育施設等を「利用したいとは思わない」が68.6%で、前回は5.5ポイント上回っている。主な理由については、「他人に看てもらうのは不安」、「親が仕事を休んで対応する」となっている。



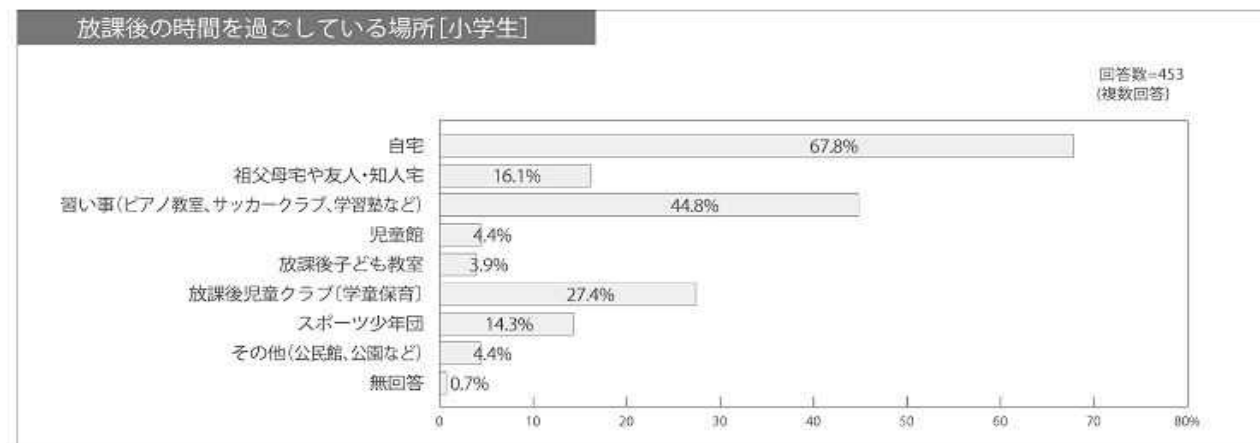
### （１３）低学年の間、放課後の時間を過ごさせたい場所について（５歳児）

就学前児童を対象に、小学校高学年になってから放課後の時間を過ごさせたい場所について希望を聞いたところ、「放課後児童クラブ」が43.9%と最も高く、前回は16.3ポイント上回っている。今後、低学年のニーズが増えていくことが想定されるため、推進方策を検討していく必要がある。



### （１４）放課後の時間を過ごしている場所について（小学１～４年生）

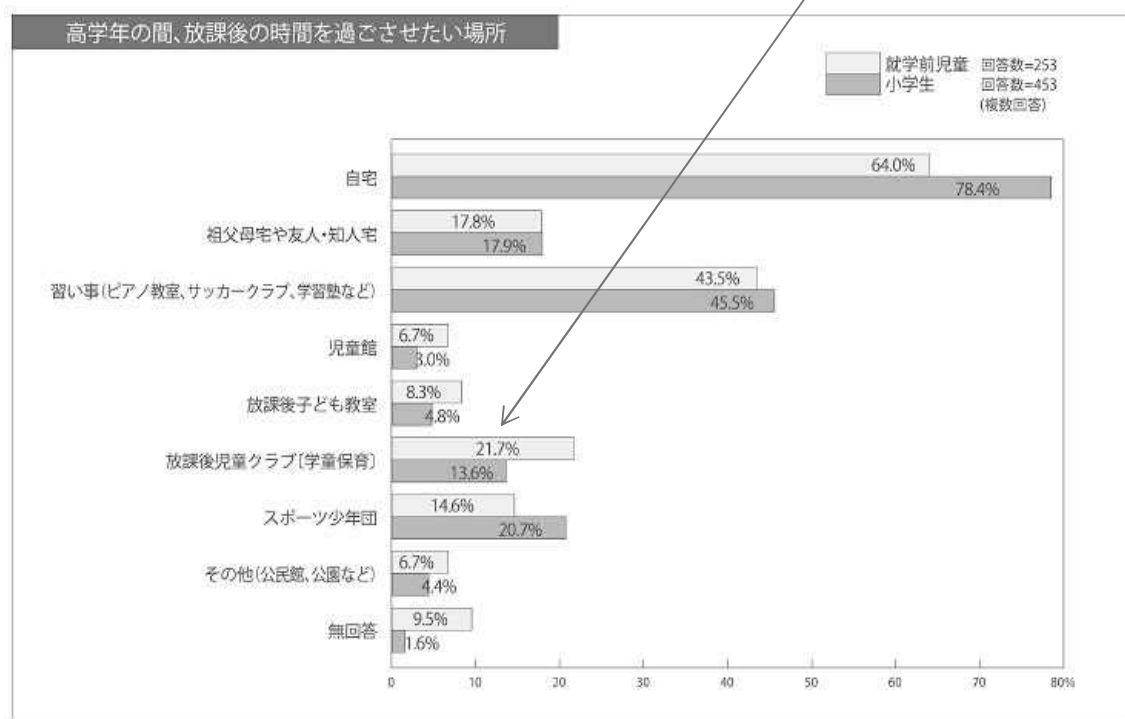
小学生が過ごしている場所では、「自宅」が67.8%と最も高く、次いで習い事が44.8%となっている。「放課後児童クラブ」については、前回は0.3ポイント上回っているが、ほとんど状況は変わっていないことが分かる。



### (15) 高学年の間、放課後の時間を過ごさせたい場所について

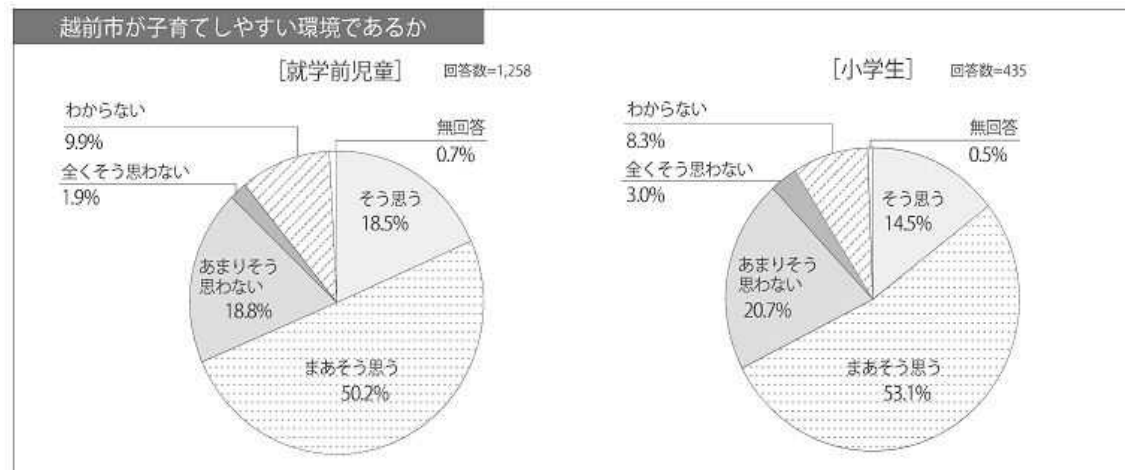
就学前児童、小学生ともに「自宅」がそれぞれ64.0%、78.4%と最も高く、次いで「習い事」がそれぞれ43.5%、45.5%となっている。「自宅」については、前回は6.4ポイント、10.9ポイント上回っている。

「放課後児童クラブ」については、就学前児童が、前回より6.5ポイント上回っているが、小学生は12.5ポイント下回っている。



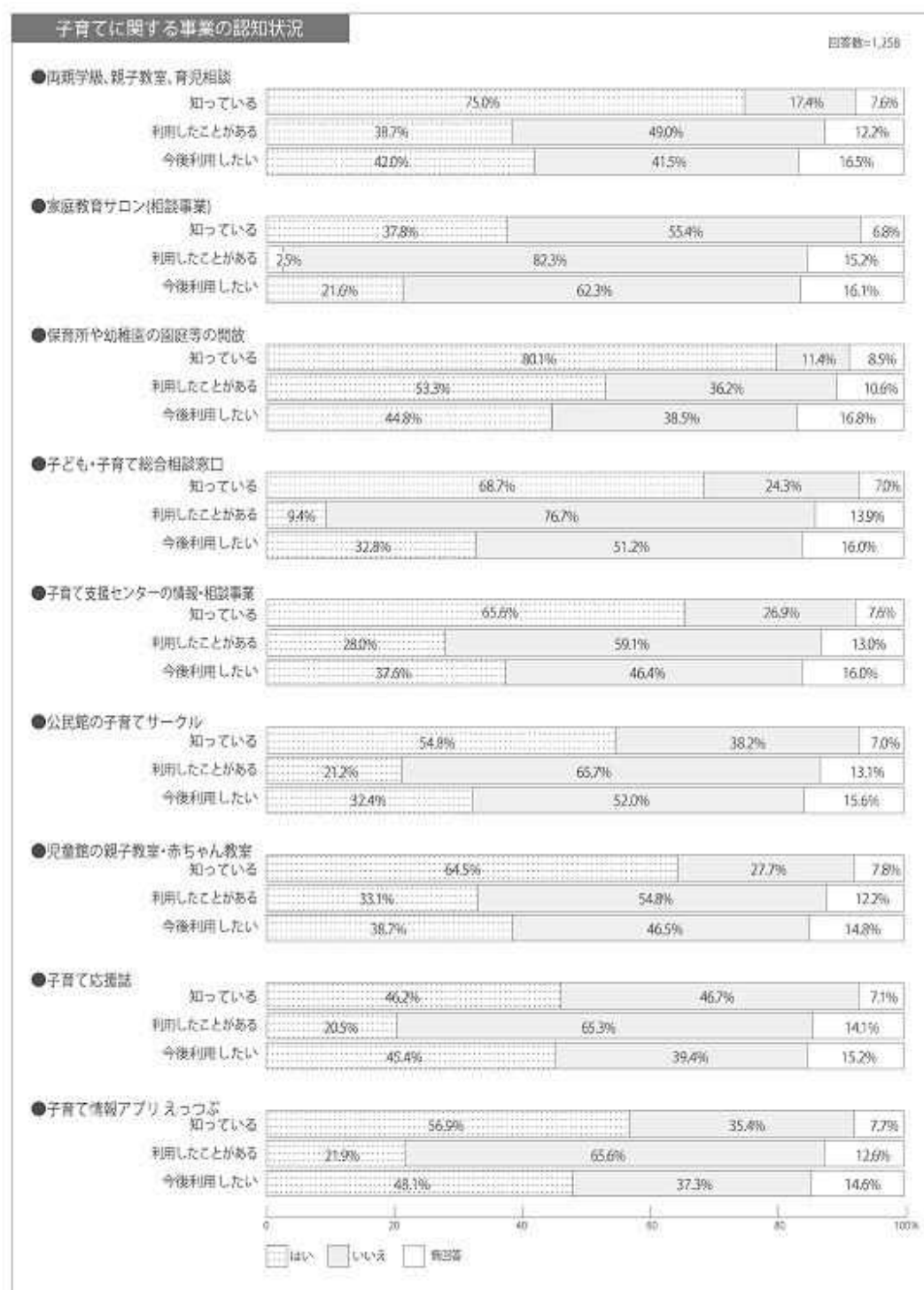
### (16) 越前市が子どもを育てやすい環境であるかについて

子どもを育てやすい環境であるかについて、就学前児童、小学生ともに「そう思う」と回答した割合がそれぞれ18.5%、14.5%となっており、「まあそう思う」を合わせると、越前市はそれぞれ、68.7%、67.6%が満足している結果となった。



## (17) 子育てに関する事業の認知状況について

「知っている」と回答した割合が高いのは、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」が80.1%、「両親学級、親子教室、育児相談」が75.0%となっている。また、「今後利用したい」と回答した割合が高いのは、「子育て情報アプリ えつつぶ」が48.1%と最も高かったことから、周知と内容の更新・充実が必要である。



※子育て支援に関するニーズ調査結果、自由意見については、市ホームページにて全文を公開しています。

越前市こどもの生活（貧困）に関する調査  
結果報告書

令和 6 年 5 月

越前市市民福祉部こども未来課

# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

こどもの生活実態を把握し、すべてのこどもがその生まれ育った環境によって左右されることなく、健やかに成長していけるよう子育て政策を総合的に推進するための検討を行ううえでの基礎資料とするために実施。

## 2. 調査の名称

「越前市こどもの生活（貧困）に関する調査」

## 3. 調査方法と調査期間

|      |                        |            |
|------|------------------------|------------|
| 調査対象 | ①就学前児童（0歳～5歳）の保護者      | 900人       |
|      | ②就学児童（小学1年生・小学3年生）の保護者 | 300人       |
|      | ③小学5年生・中学2年生の保護者       | 小学5年生 673人 |
|      |                        | 中学2年生 715人 |
|      | ④小学3年生、小学5年生、中学2年生のこども |            |
|      |                        | 小学3年生 699人 |
|      |                        | 小学5年生 673人 |
|      |                        | 中学2年生 715人 |

### 調査方法

①就学前児童の保護者及び②就学児童の保護者には、郵送による配布・回収。

③及び④には、学校を通してQRコード付きの依頼文を送付し、WEB上で回答。

### 調査期間

①及び②

令和6年2月28日（水）～3月13日（水）

③及び④

令和6年2月14日（水）～2月29日（木）

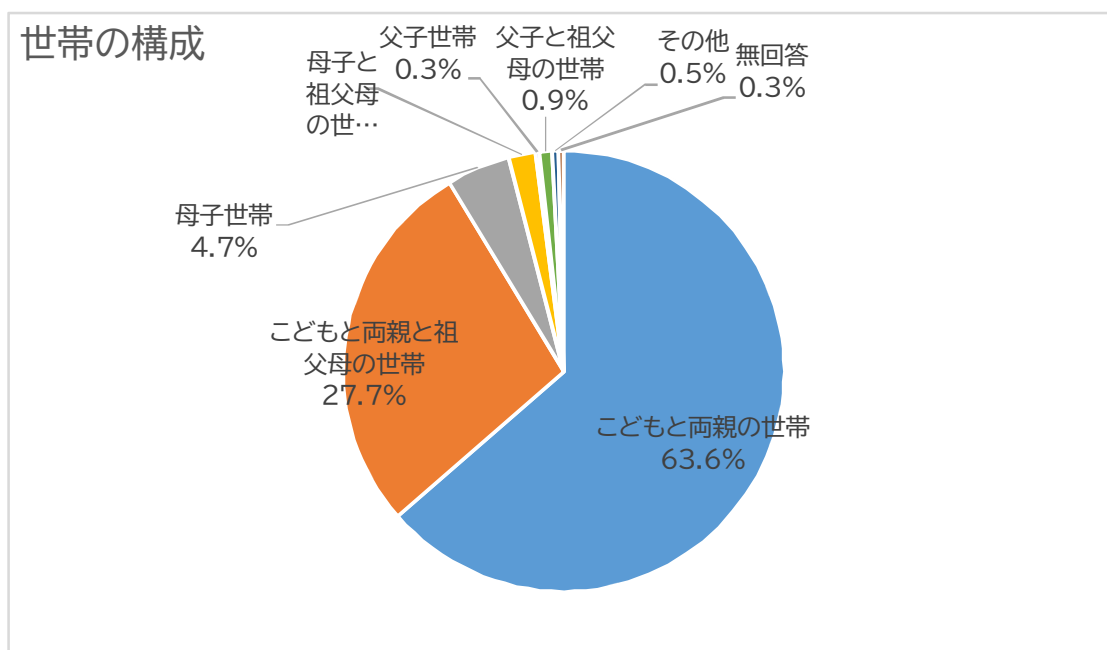
## 4. 調査回収状況

|                 | 配付数   | 有効回答数 | 回収率   |
|-----------------|-------|-------|-------|
| 就学前児童の保護者       | 900   | 399   | 44.3% |
| 就学児童（小1・小3）の保護者 | 300   | 140   | 46.7% |
| 小5の保護者          | 673   | 341   | 50.7% |
| 中2の保護者          | 715   | 271   | 37.9% |
| 小3・小5・中2のこども    | 2,087 | 1,360 | 65.2% |

## Ⅱ 調査の結果

### 1. 調査世帯の状況

- 世帯構成は「子どもと両親の世帯」が63.6%と最も高く、次いで「子どもと両親と祖父母の世帯」が27.7%である。
- 母子または父子のひとり親の世帯は、祖父母との同居世帯をあわせて7.8%である。
- 前回と比較し、「子どもと両親の世帯」が8.8ポイント上回っており、「子どもと両親と祖父母の世帯」が4.4ポイント下回っている。「ひとり親世帯」は増減なし。



## Ⅱ 調査の結果

### 2. 経済状況

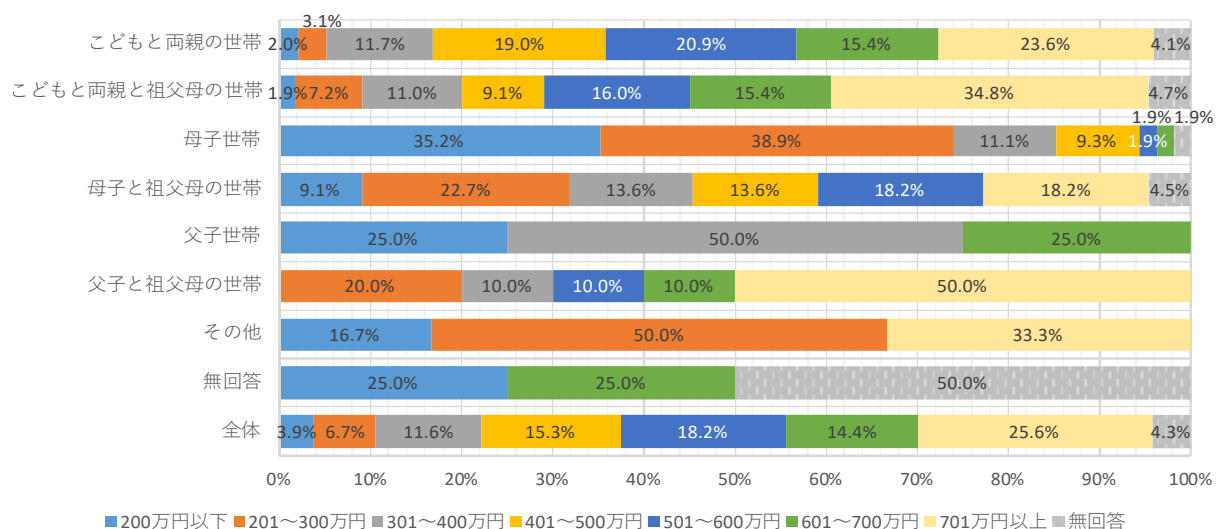
#### (1) 前年(2023年)の世帯全員の手取り収入の合計額

※株式運用などの副収入、児童手当や年金など公的な援助や養育費・仕送りがあれば合計。

●全体では「701万円以上」が25.6%と最も高く、次いで「501万～600万円」が18.2%となっている。

●前回は「501万円以上」32.1%でひとくくりだった上、「無回答」も35.5%を占めたので比較はしづらいが、「501万円以上」は58.2%。

#### 年間の手取り収入

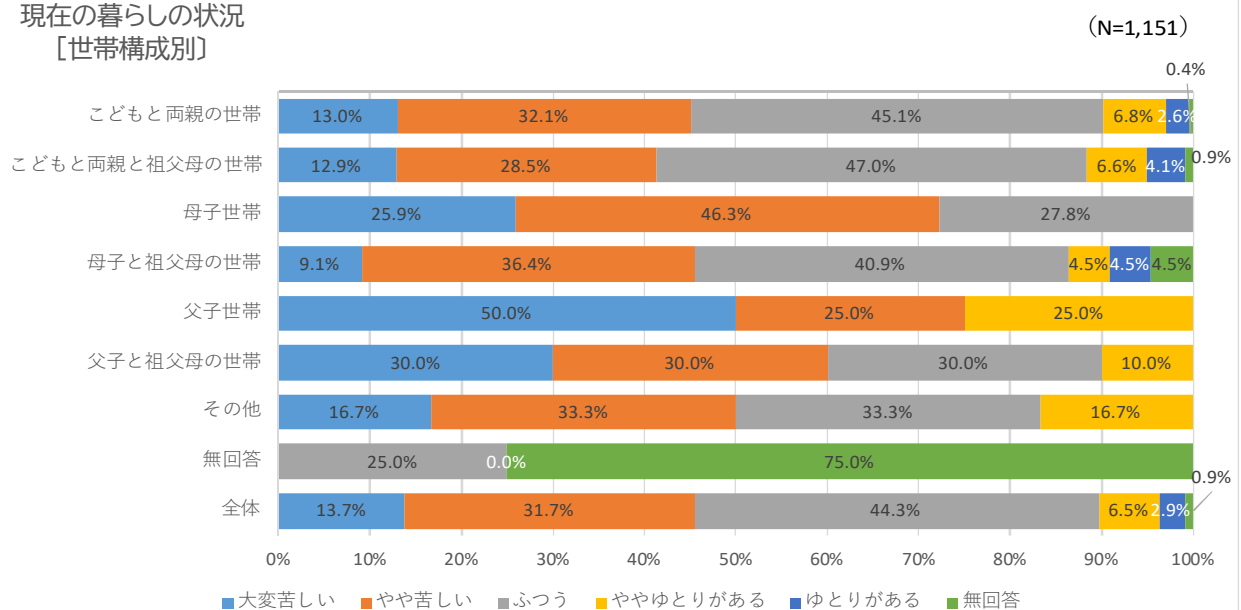


#### (2) 現在の暮らしの状況

●全体では「ふつう」が44.3%、次いで「やや苦しい」が31.7%で前回とほぼ同じ割合である。

●世帯構成別では、母子世帯や父子世帯で「大変苦しい」と回答した割合が高く、「やや苦しい」も含めると7割以上を占めることになる。

#### 現在の暮らしの状況 [世帯構成別]





## Ⅱ 調査の結果

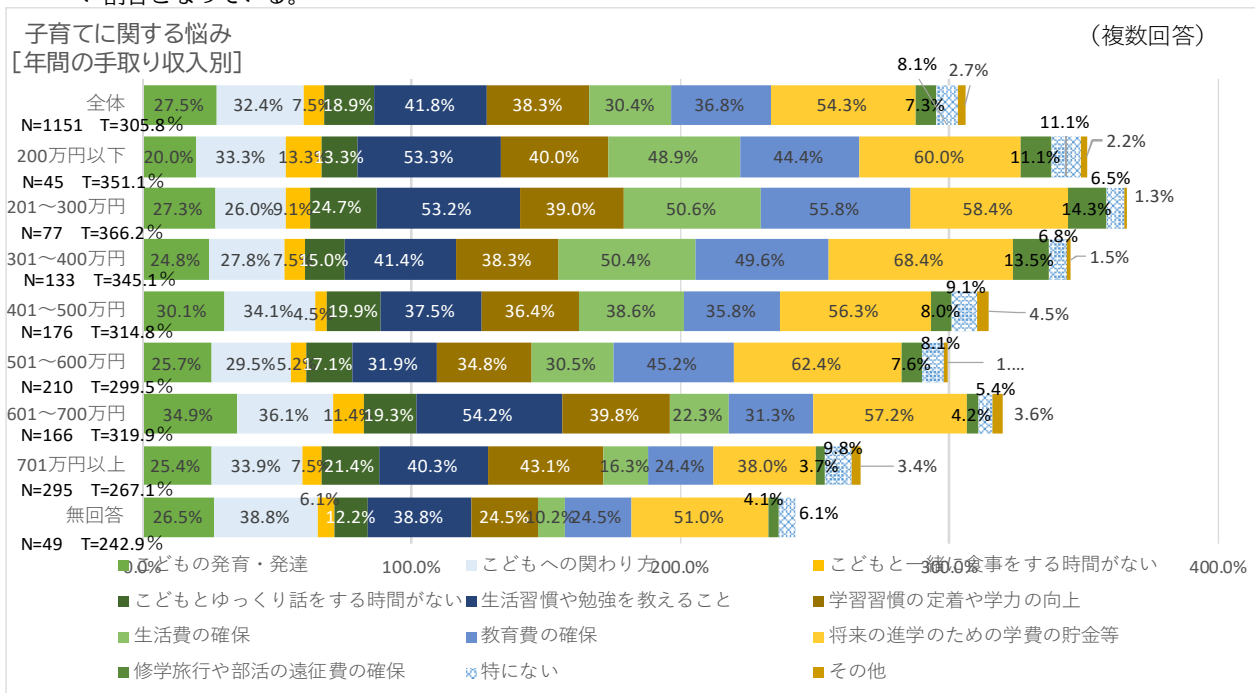
### 3. 相談の状況

#### (1) 子育てに関する悩み

●全体では「将来の進学のための学費の貯金等」が54.3%と一番高く、前回と割合ほぼ変わらないが、次いで「生活習慣や勉強を教えること」が41.8%となっており、前回より10.3ポイント上回り、「教育費の確保」も36.8%で前回より12ポイント上回る結果となっている。

●「こどもの発育・発達」や「こどもへの関わり方」を今回新たに質問を加えた結果、27.5%、32.4%。

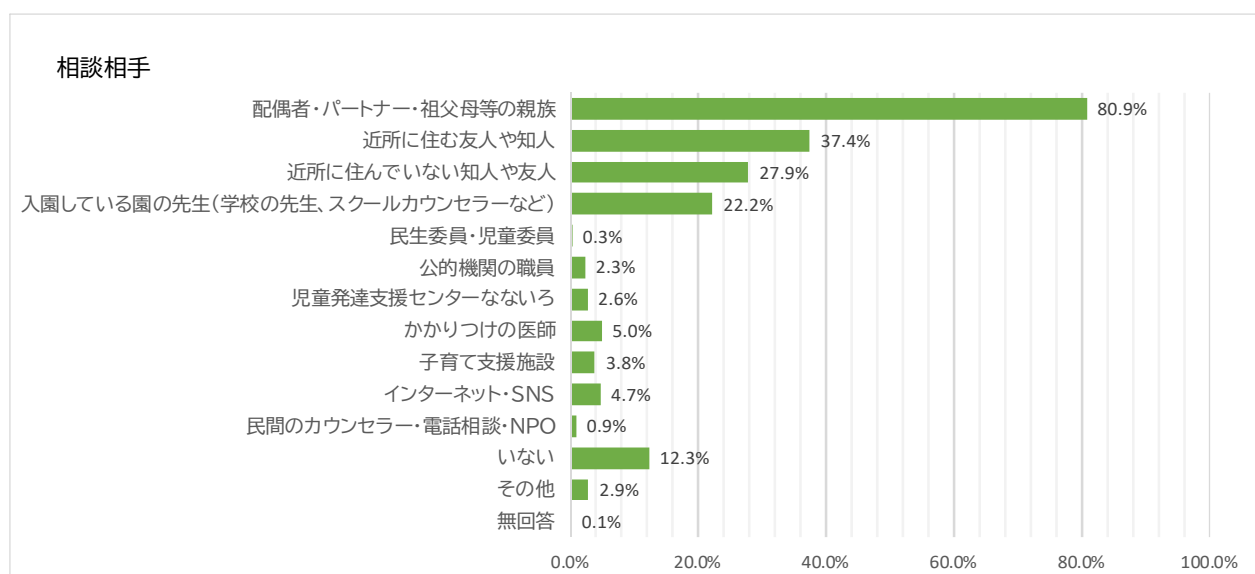
●手取り収入別で見ると、前回同様、収入が低いほど「生活費の確保」と「教育費の確保」など金銭面の悩みが高い割合となっている。



#### (2) 相談相手

●全体では「配偶者・パートナー・祖父母等の親族」80.9%が最も高くなっている。

●一方で「いない」の回答も12.3%あり、前回の3.6%から8.7ポイント上回っている。

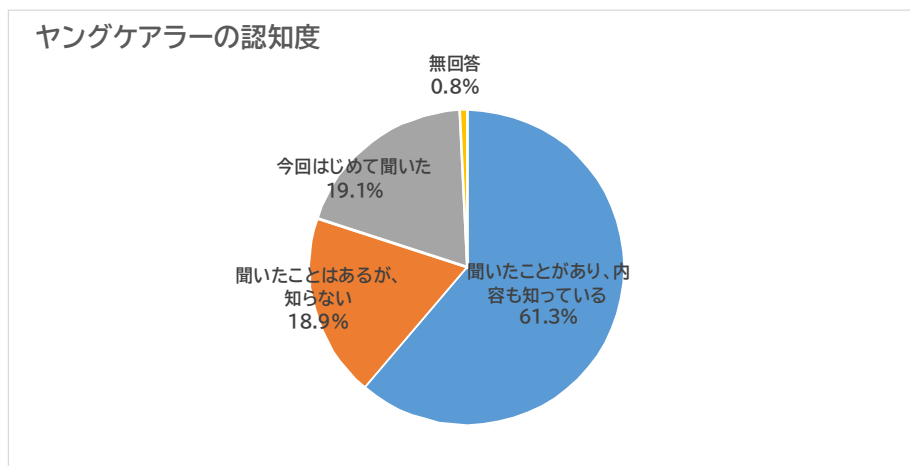


## Ⅱ 調査の結果

### 4. ヤングケアラーの状況

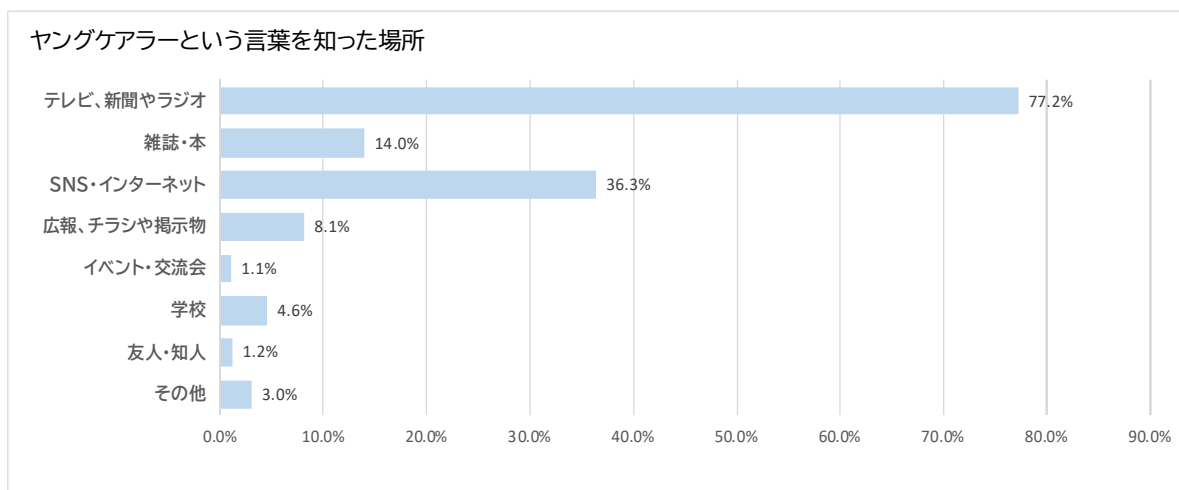
#### (1) ヤングケアラーの認知度

●「聞いたことがあり、内容も知っている」は61.3%であり、「聞いたことはあるが、よく知らない」18.9%、「今回はじめて聞いた」19.1%であり4割近くの人には認知されていない。



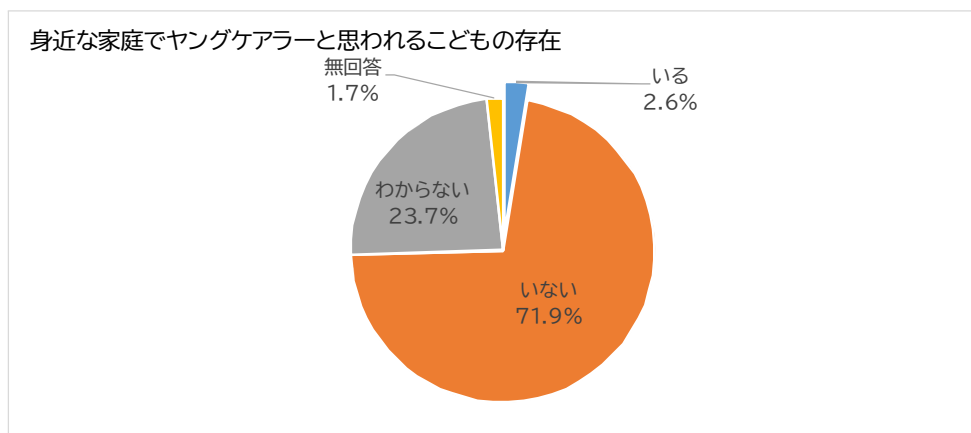
#### (2) ヤングケアラーという言葉を知った場所

●「テレビ、新聞やラジオ」が77.2%最も高く、次いで「SNS・インターネット」が36.3%となっている。



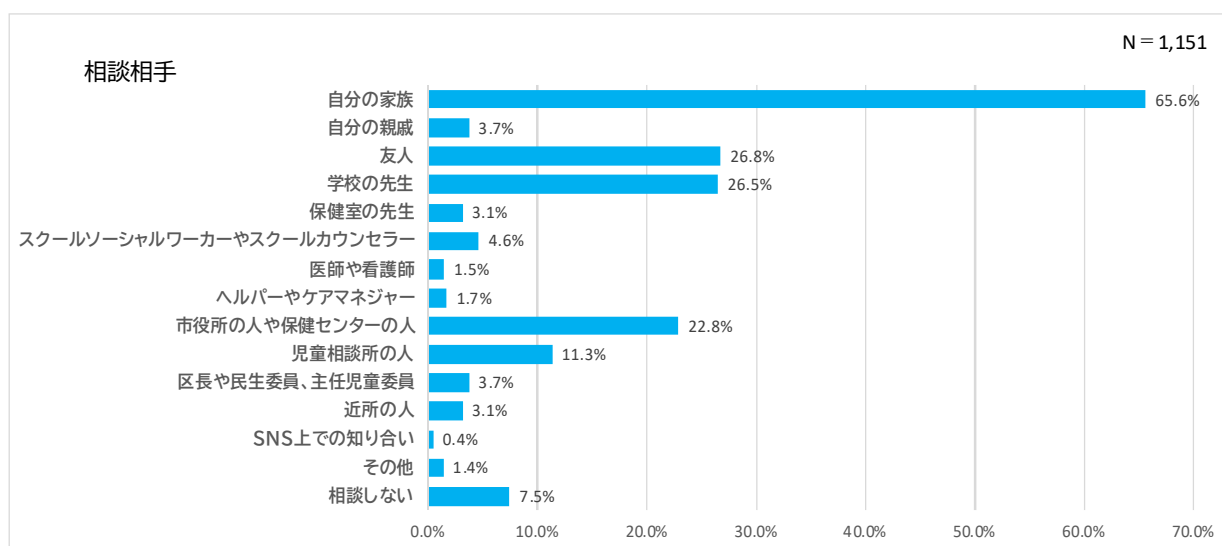
### (3) 身近な家庭でヤングケアラーと思われるこどもの存在

- 「いない」が71.9%、「分からない」が23.7%、「いる」が2.6%となっている。



### (4) 身近な家庭でヤングケアラーと思われる存在を知った場合の相談相手

- 「自分の家族」が65.6%と突出して多く「相談しない」が7.5%いる。



【資料 3－3 の参考資料】 前回調査結果（H30年度実施）

---

越前市子どもの生活に関する実態調査  
結果報告書

---

[ダイジェスト版]

平成30年10月

越前市 市民福祉部 子ども福祉課

# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

子どもの生活実態をしっかりと把握し、すべての子どもがその生まれ育った環境によって左右されることなく、健やかに成長していけるよう、より効果的な子育て支援策を検討するために実施。

## 2. 調査の名称

「越前市子どもの生活に関する実態調査」

## 3. 調査方法と調査期間

調 査 対 象 ●保護者…越前市小学5年生、中学3年生の保護者  
越前市内幼稚園、保育園、認定こども園の年長児の保護者  
●子ども…越前市小学5年生、中学3年生

調 査 方 法 ●公立幼稚園、小学5年生、中学3年生の家庭は郵送にて配布、子どもは専用の封筒に封印して、保護者の回答用紙とともに、返信用封筒に入れて、ポストへ投函。  
●私立幼稚園、保育園、認定こども園は、園を通じて、保護者へ配布、返信用封筒に入れて、園へ提出。ただし、公立の幼稚園はポストへ投函。

調 査 期 間 平成30年5月28日(月)～6月11日(月)

## 4. 調査の回収状況

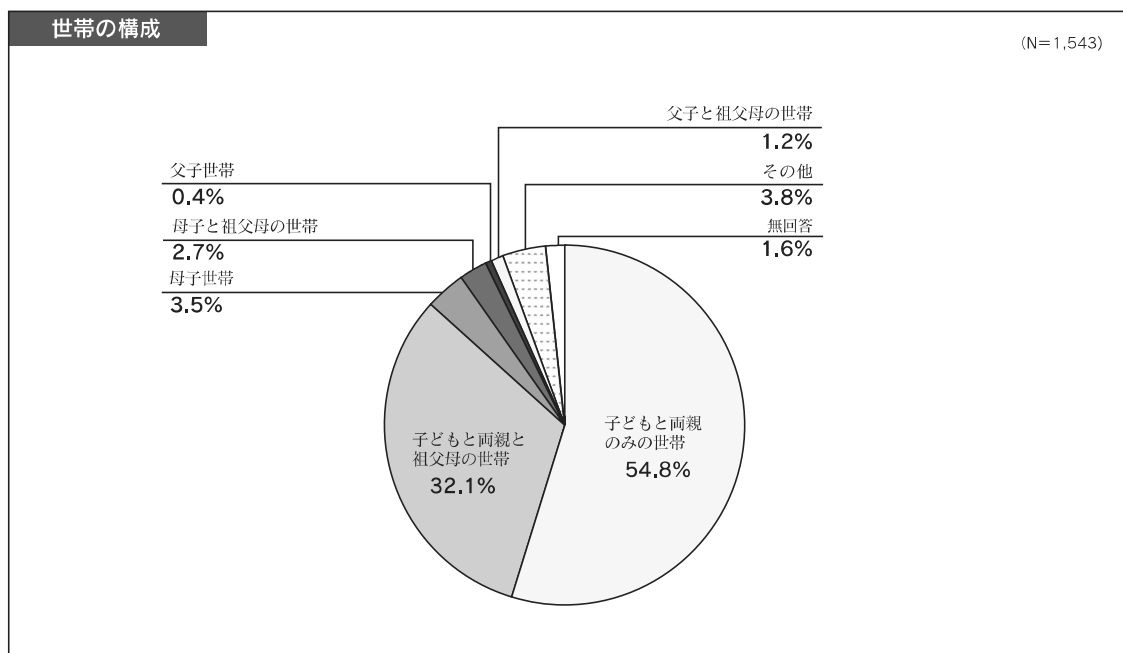
|     |       | 配布数   | 有効回答数 | 回収率   |
|-----|-------|-------|-------|-------|
| 保護者 | 年長    | 678   | 562   | 82.9% |
|     | 小学5年生 | 763   | 489   | 64.1% |
|     | 中学3年生 | 835   | 492   | 58.9% |
| 子ども | 小学5年生 | 763   | 486   | 63.7% |
|     | 中学3年生 | 835   | 492   | 58.9% |
| 合 計 | 保護者   | 2,276 | 1,543 | 67.8% |
|     | 子ども   | 1,598 | 979   | 61.3% |

※保護者と子どもの両方の回答があった世帯の総数は941件。  
(小学5年生470件+中学3年生471件=941件=その保護者)

## II 調査の結果

### 1. 調査世帯の状況

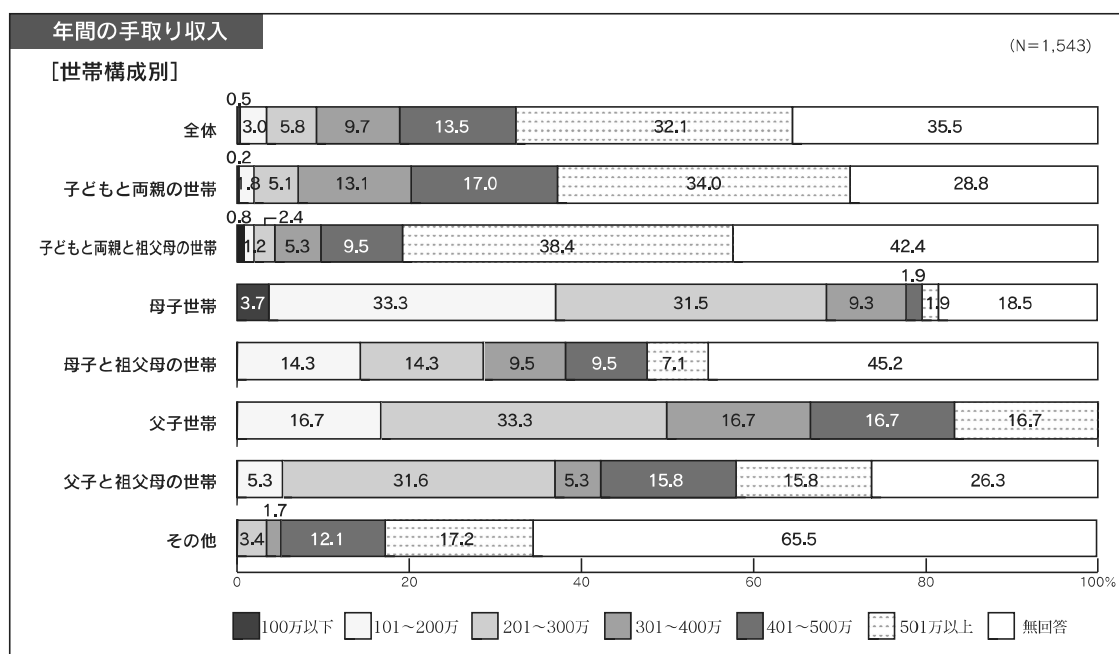
- 家族の人数は、全体では平均5.0人となっている。
- 18歳未満の子どもの人数は、全体では平均2.2人となっている。
- 世帯構成では、「子どもと両親のみの世帯」が54.8%と最も高く、次いで「子どもと両親と祖父母の世帯」が32.1%である。母子または父子のひとり親の世帯は、祖父母との同居世帯をあわせて7.8%である。



## 2. 経済状況

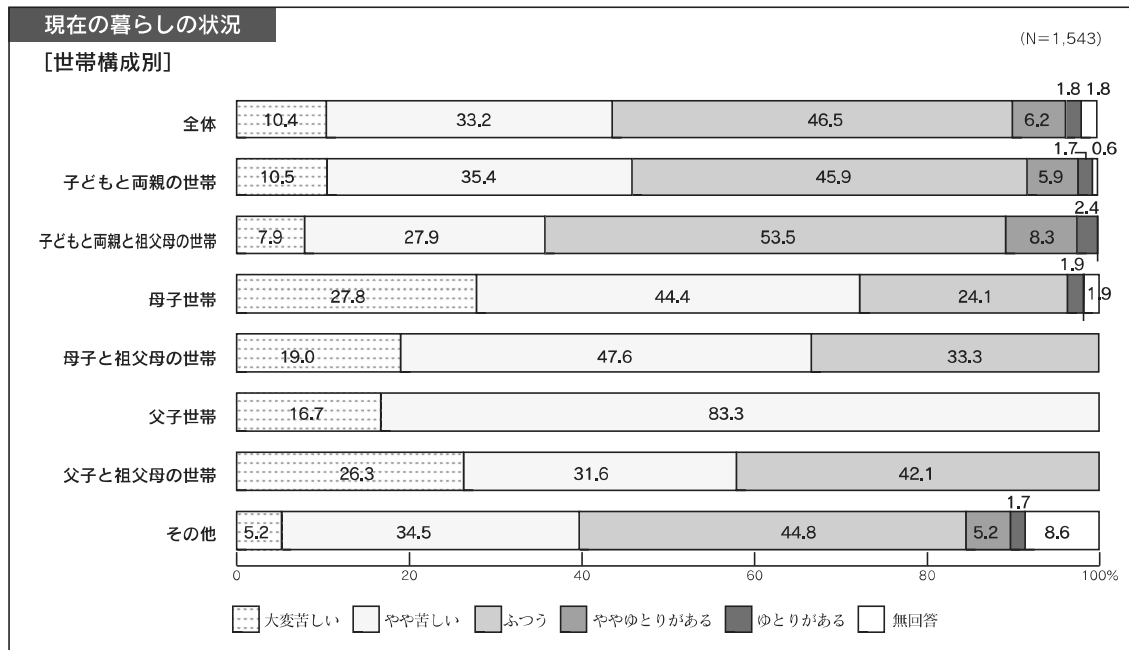
### (1) 前年(2017年)の年間の手取り収入

- 全体では「501万以上」が32.1%と最も高く、次いで「401～500万」が13.5%となっている。
- 世帯構成別でみると、「101～200万」と回答した割合は母子世帯が非常に高く、「201～300万」と回答した割合でも、母子世帯、父子世帯、父子と祖父母の世帯といったひとり親世帯で非常に高くなっている。



## (2) 現在の暮らしの状況

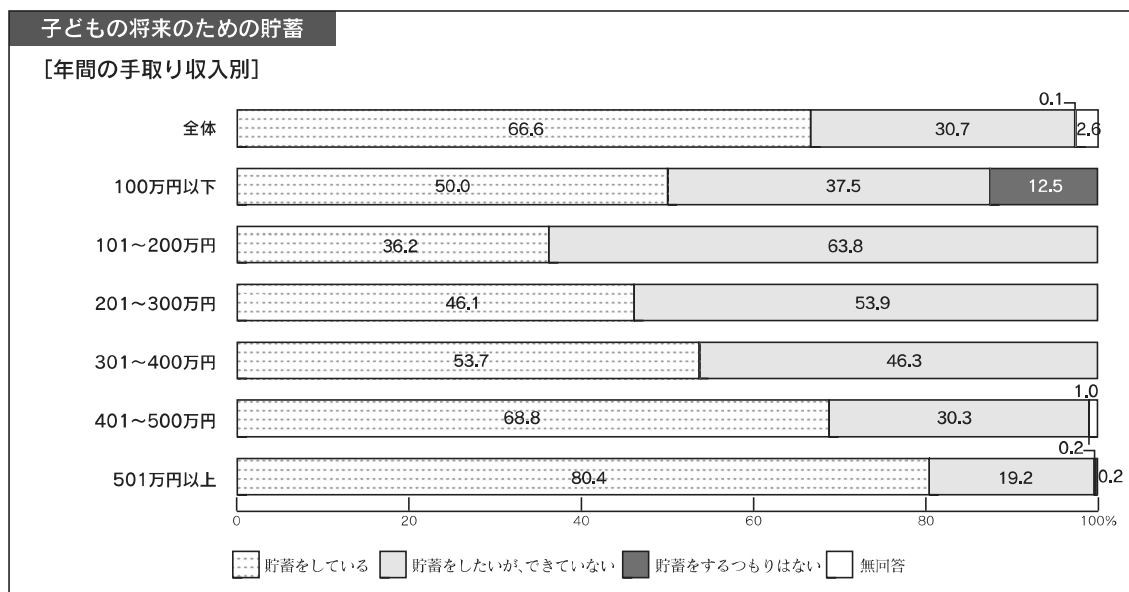
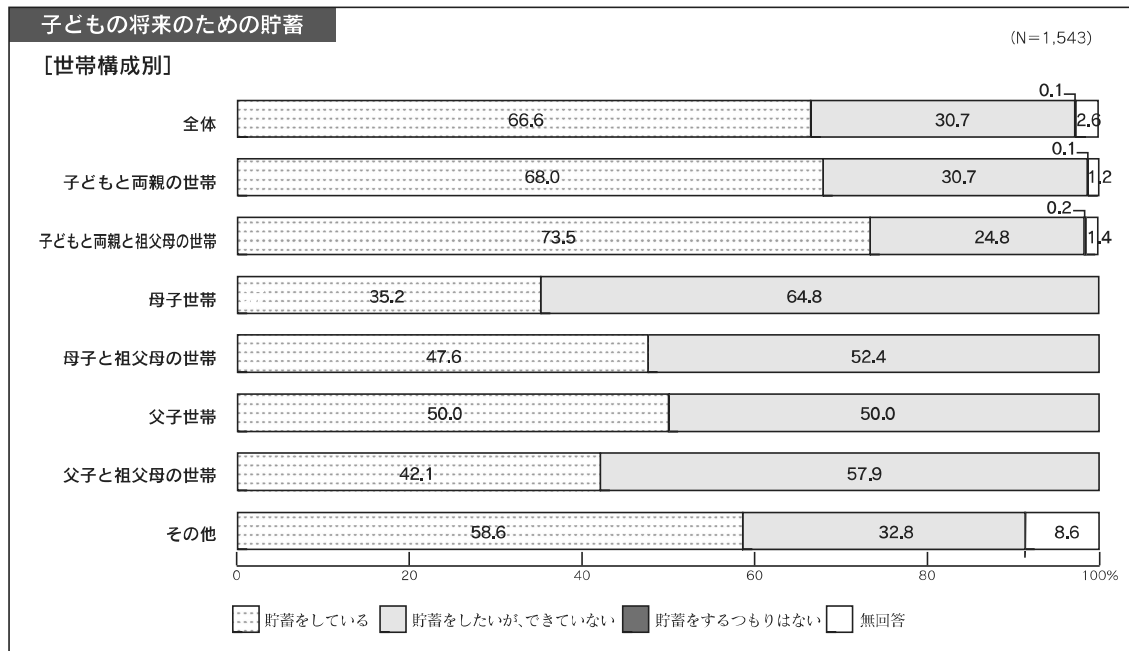
- 全体では、「ふつう」が46.5%と最も高く、次いで「やや苦しい」が33.2%となっている。
- 世帯構成別でみると、「大変苦しい」と回答した割合は母子世帯、父子と祖父母の世帯でやや高く、「やや苦しい」と回答した割合は父子世帯で非常に高くなっている。母子世帯、父子世帯では「大変苦しい」または「やや苦しい」と回答した割合が7割を越えている。





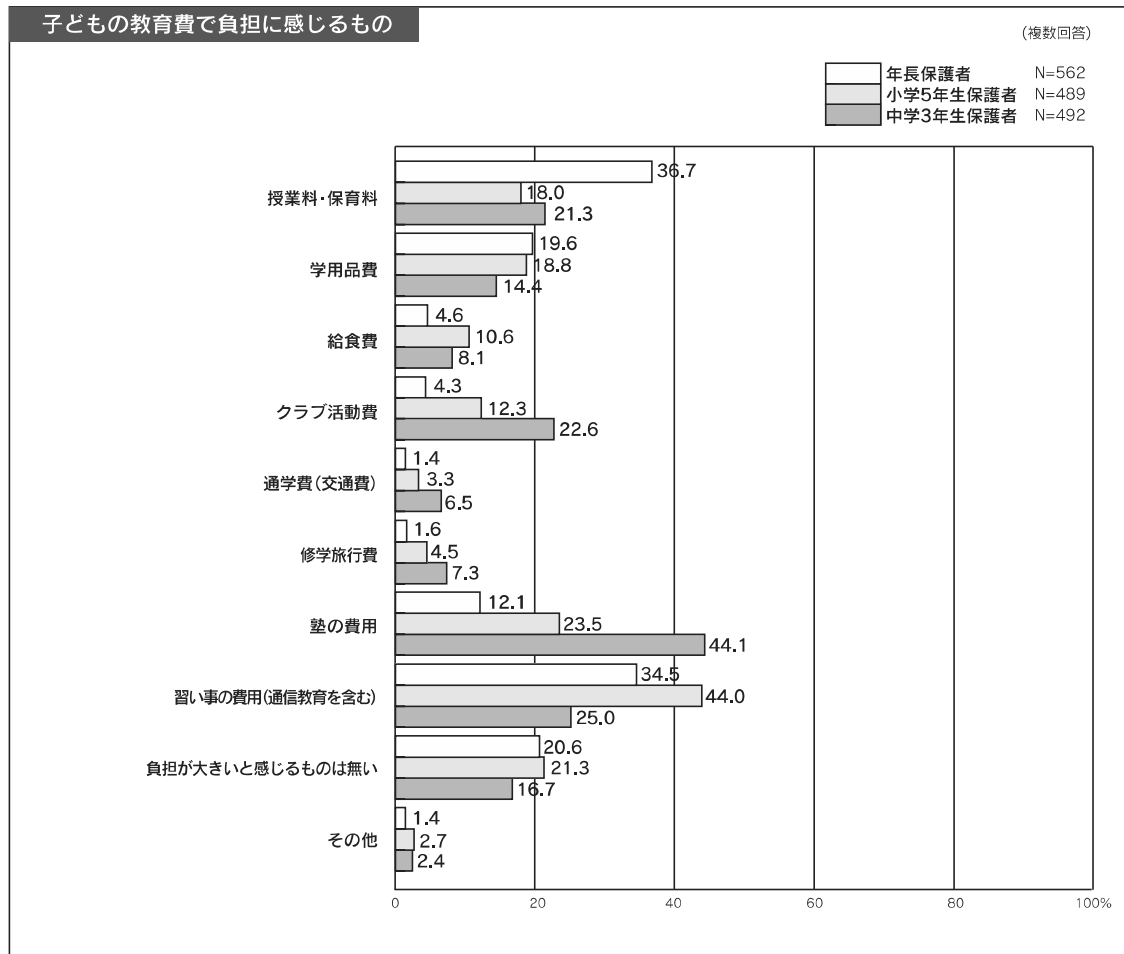
### (3) 子どもの将来のための貯蓄

- 世帯構成別でみると、「貯蓄したいができない」と回答した割合は、祖父母との同居を含めたひとり親世帯で非常に高くなっている。
- 年間の手取り収入別でみると、「貯蓄している」と回答した割合は年収が上がるほど高くなっており、逆に年収が下がるほど「貯蓄したいができない」と回答した割合が高くなっている。



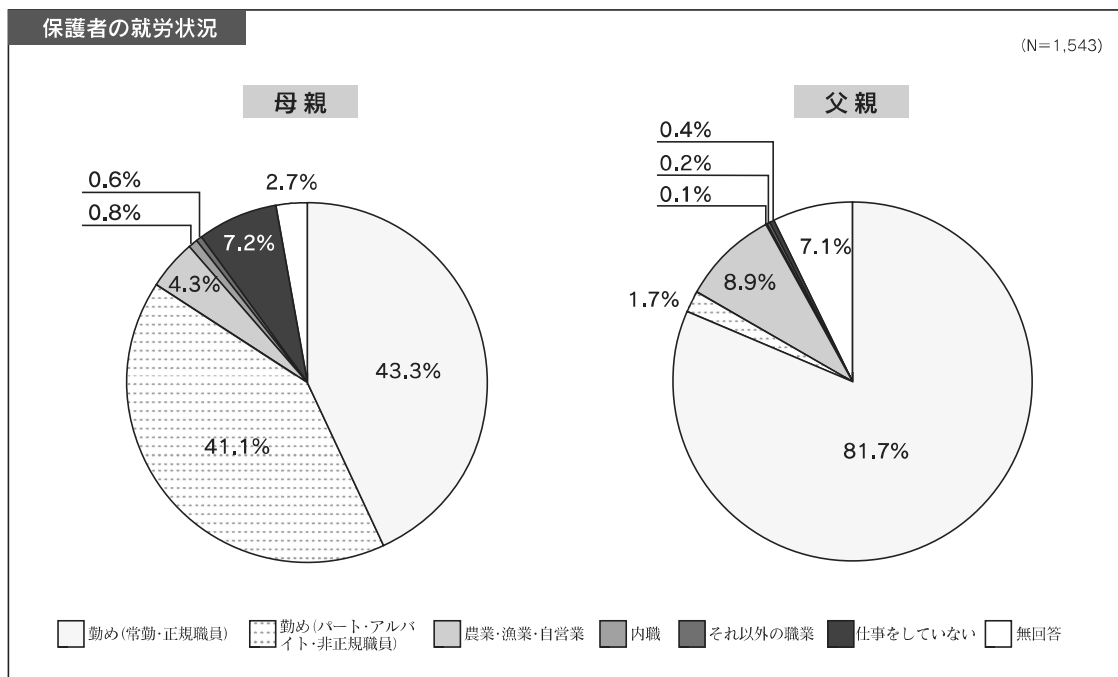
#### (4) 子どもの教育費で負担が大きいと感じるもの

- 年長保護者では、「授業料・保育料」と回答した割合が36.7%と最も高く、次いで「習い事の費用(通信教育を含む)」が34.5%となっている。
- 小学5年生の保護者は「習い事の費用(通信教育を含む)」と回答した割合が44.0%と最も高くなっている。
- 中学3年生の保護者は「塾の費用」と回答した割合が44.1%と最も高くなっている。



### 3. 就労の状況

- 母親は「常勤、正規職員」が43.3%と最も高く、次いで「パート、アルバイト、非正規職員」が41.1%となっている。
- 父親は「常勤、正規職員」が81.7%と最も高くなっている。

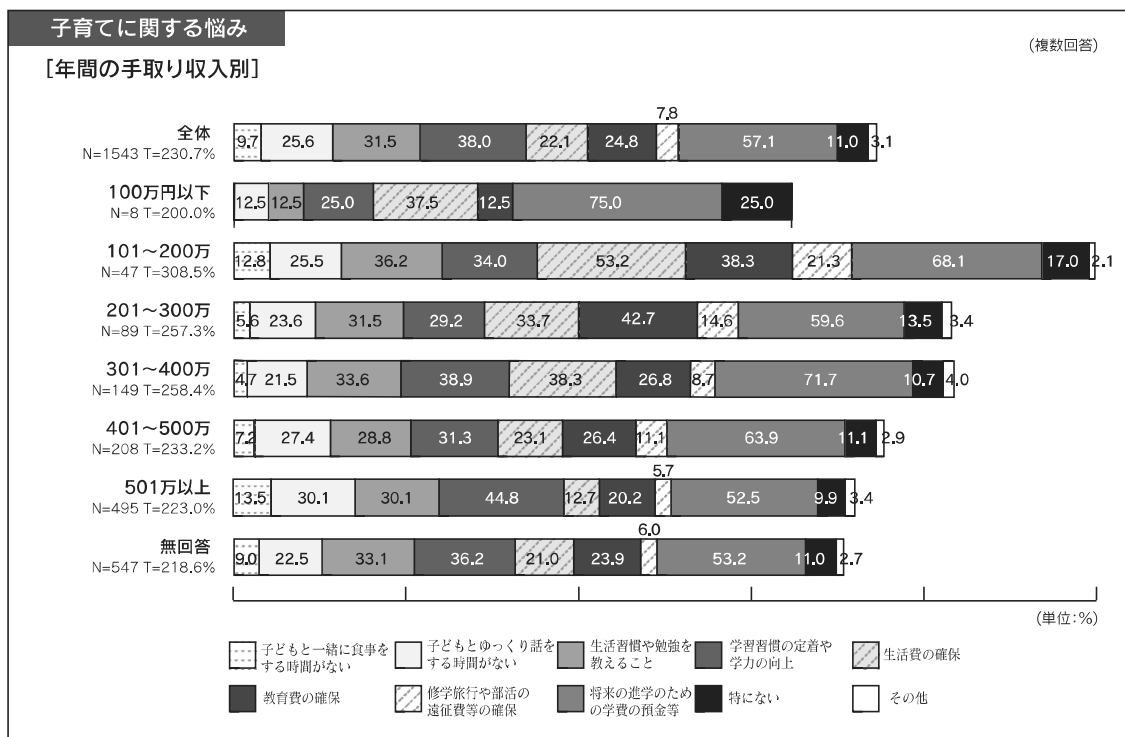


## 4. 相談の状況

### (1) 保護者の相談の状況

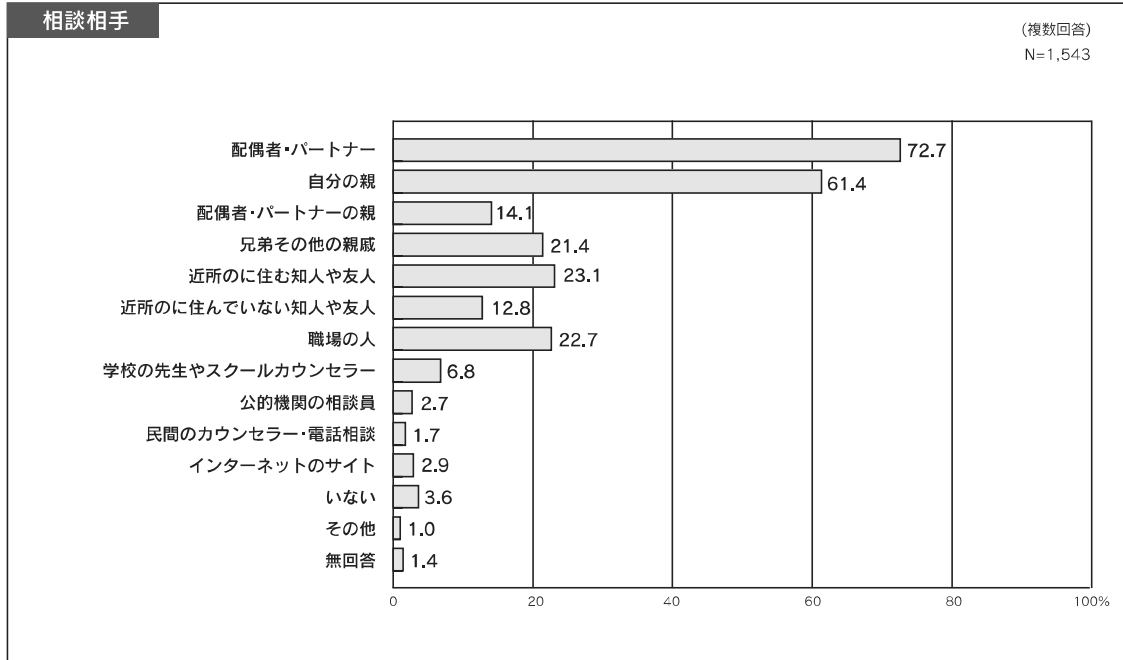
#### ① 子育てに関する悩み

- 全体では「将来の進学のための学費の預金等」が57.1%と非常に高くなっている。
- 年間手取り収入別でみると、収入が低いほど「生活費の確保」、「教育費の確保」など金銭面の悩みが高い割合となっている。



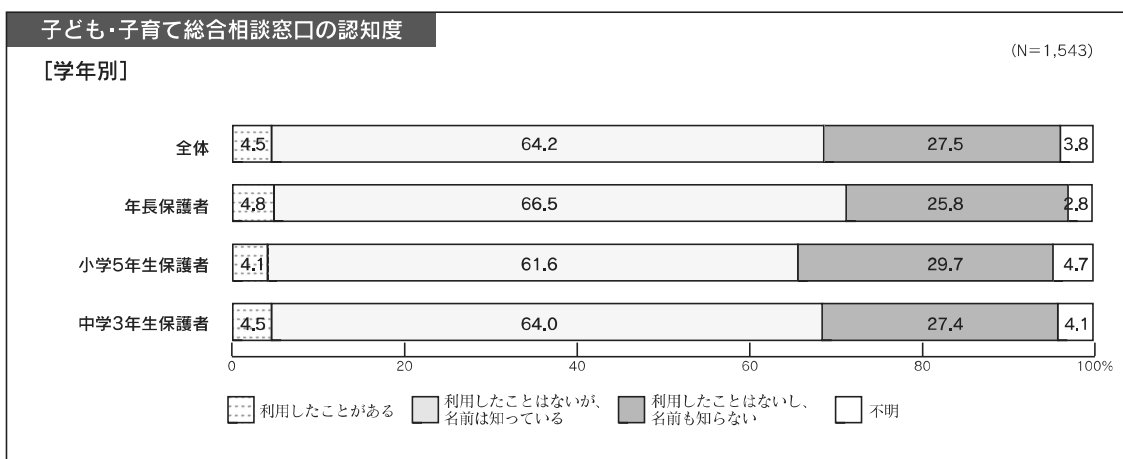
## ② 相談相手

- 全体では、「配偶者・パートナー」が72.7%と最も高く、次いで「自分の親」が61.4%となっている。



## ② 子ども・子育て総合相談窓口の認知度

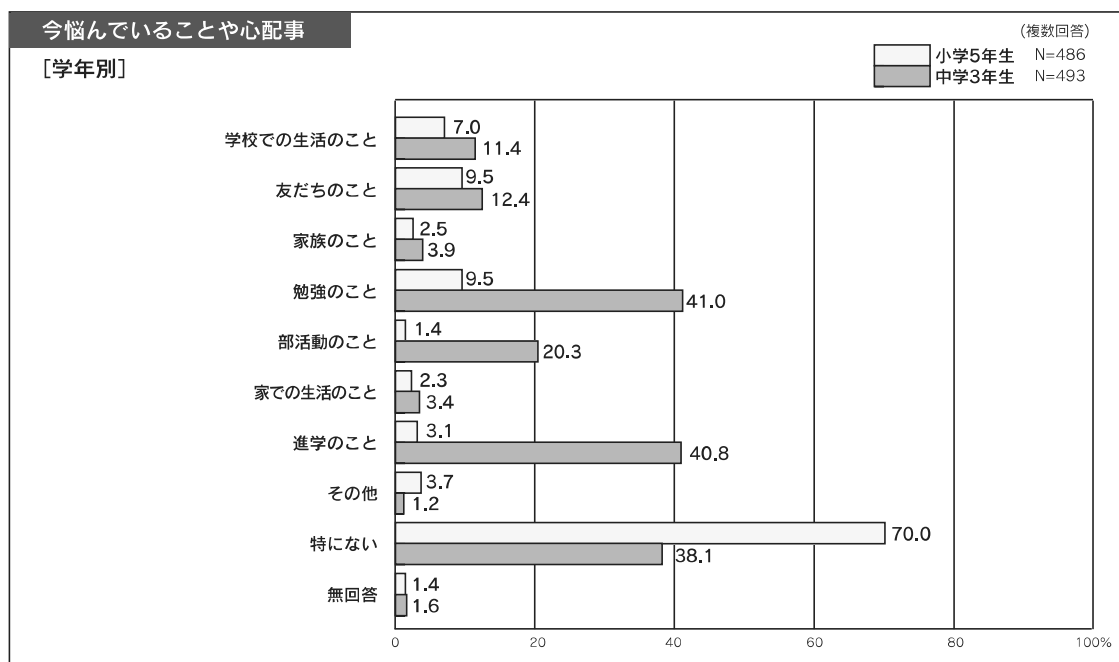
- どの年齢においても、「利用したことはないが、名前は知っている」と回答した割合が6割を越えている。



## (2) 子どもの相談の状況

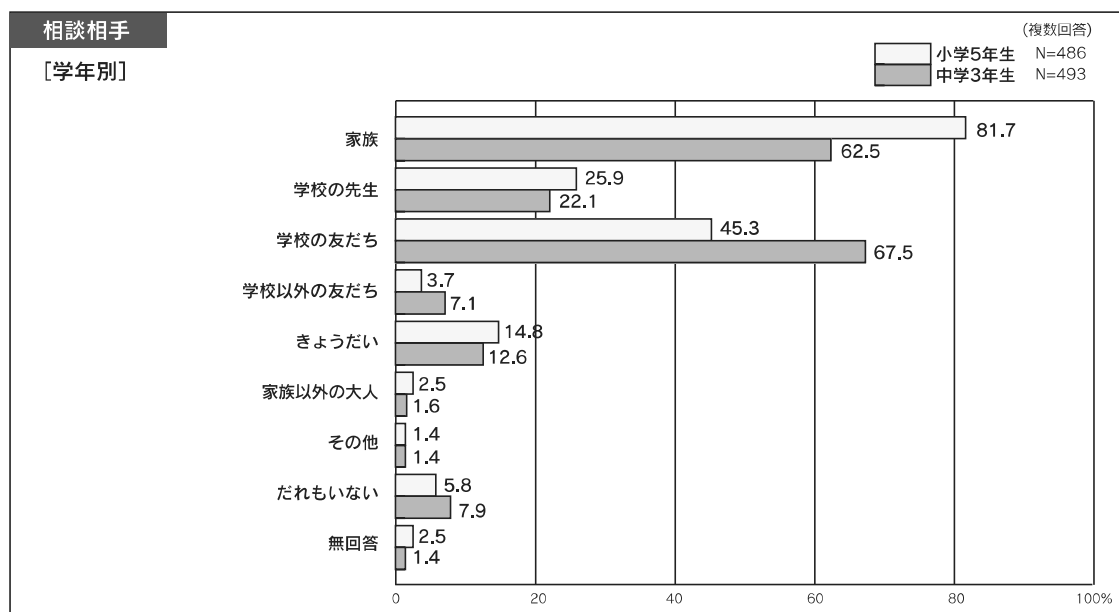
### ① 今悩んでいることや心配事 子どもの回答

- 小学5年生では「特にない」が70.0%と最も高くなっている。
- 中学3年生では「勉強のこと」が41.0%と最も高く、次いで「進学のこと」が40.8%、「特にない」が38.1%となっている。



### ② 相談相手 子どもの回答

- 小学5年生では「家族」が81.7%と最も高く、次いで「学校の友だち」が45.3%となっている。
- 中学3年生では「学校の友だち」が67.5%、次いで「家族」が62.5%となっている。

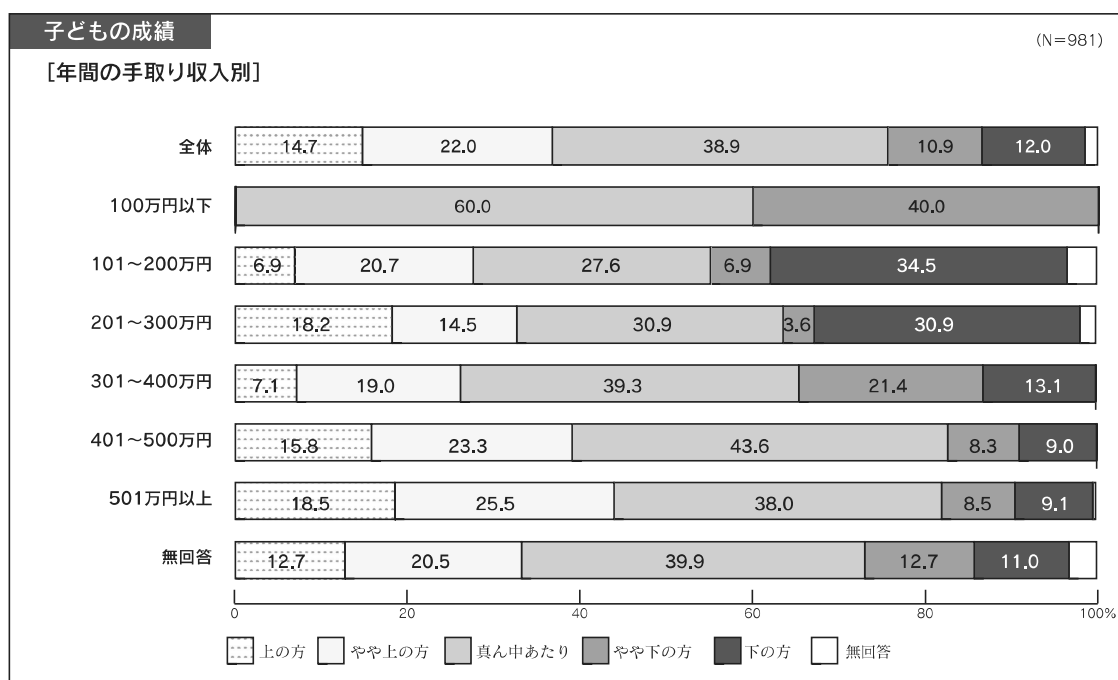
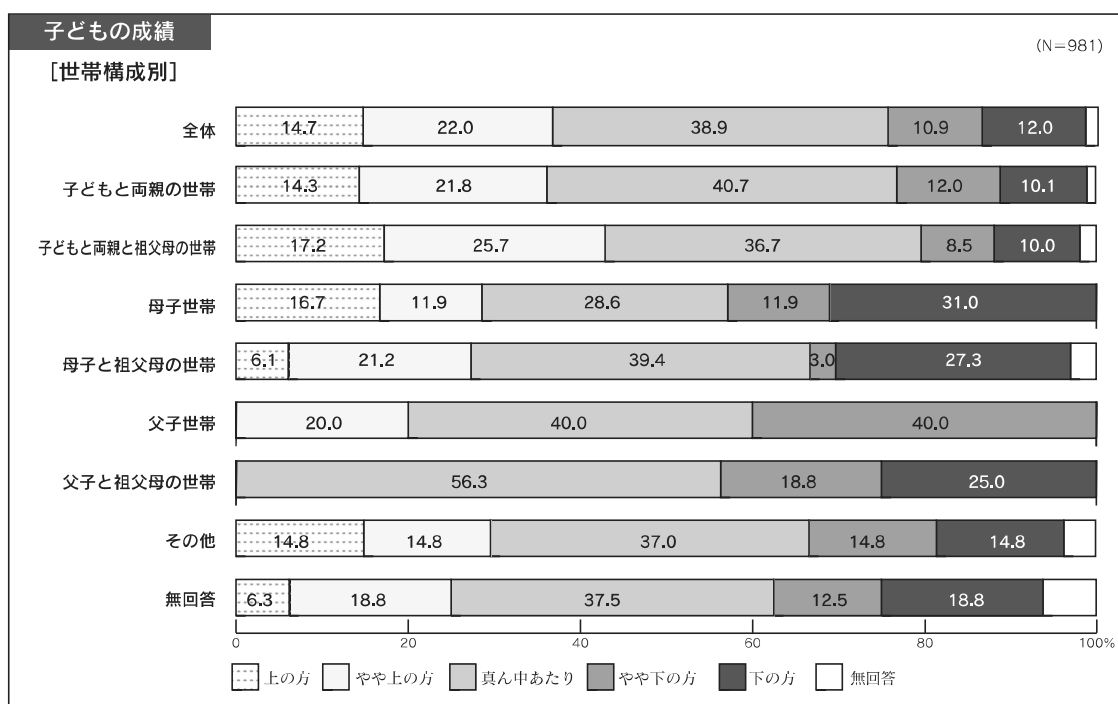


## 5. 子どもの状況

### (1) 学校での教育について

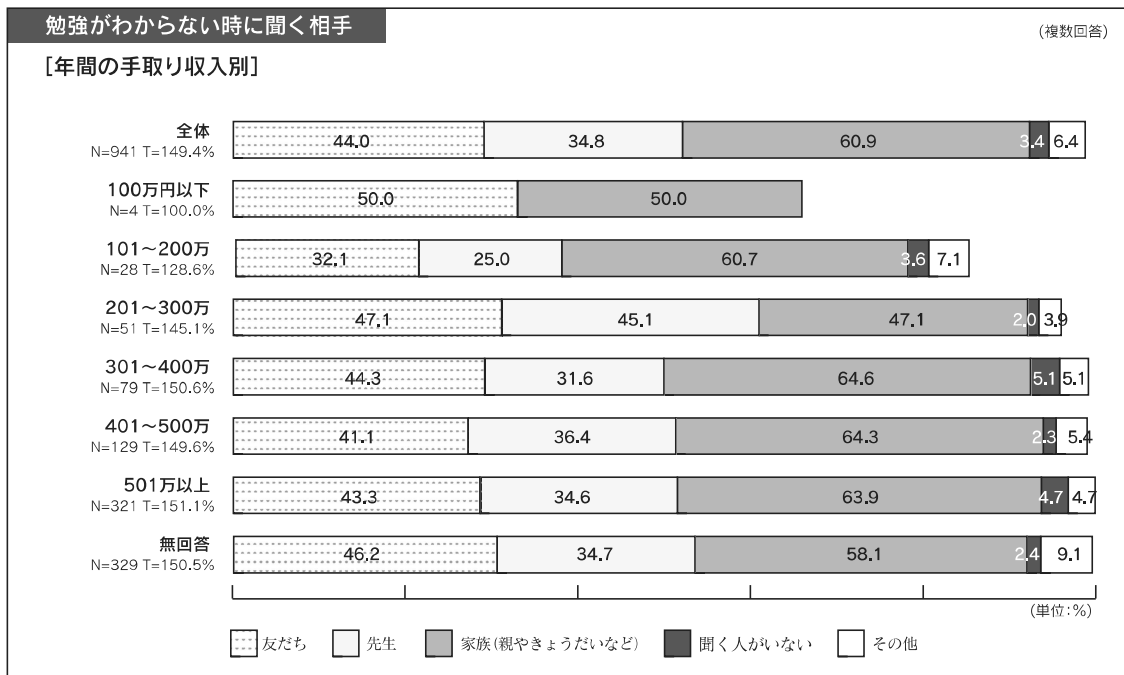
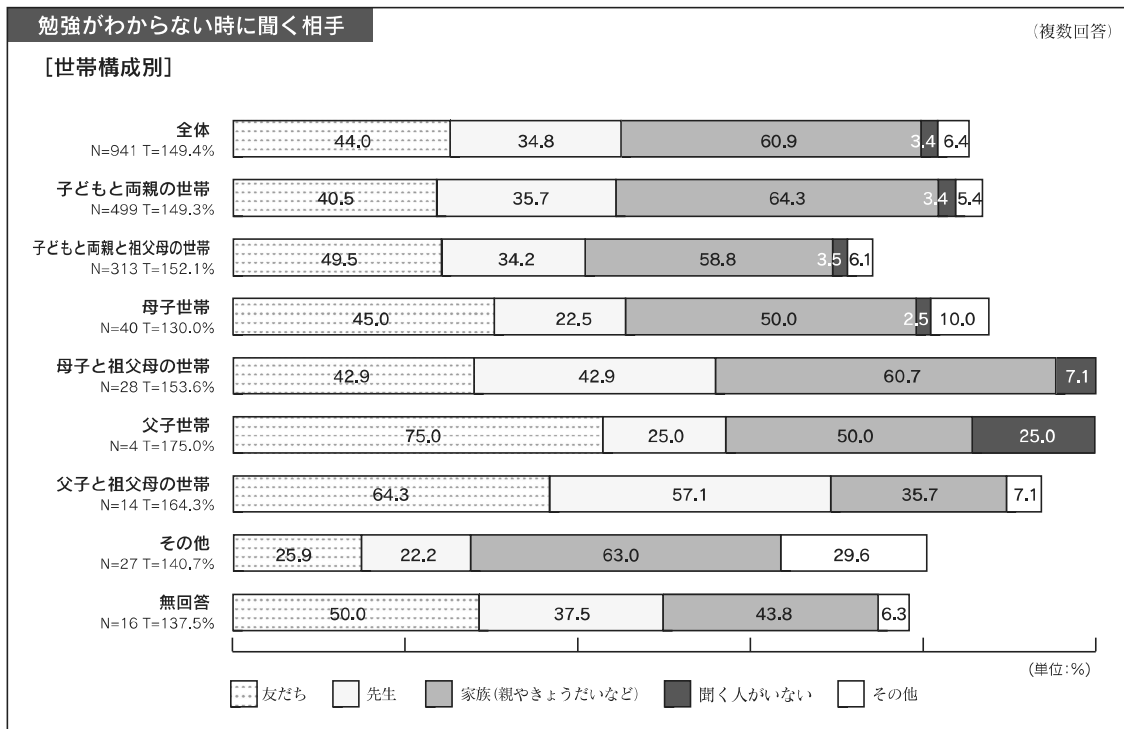
#### ① 子どもの成績

- 世帯構成別でみると、祖父母と同居を含めたひとり親の世帯で、成績が「下のほう」「やや下のほう」と回答した割合が高くなっている。
- 年間の手取り収入別でみると、年収が300万以下の世帯では子どもの成績が「下のほう」と回答した割合が高くなっている。逆に年収が401万以上の世帯では「上のほう」「やや上のほう」と回答した割合が高くなっている。



② 勉強がわからない時に聞く相手 子どもの回答

- 世帯構成別でみると、「家族(親やきょうだいなど)」と回答した割合は、父子と祖父母の世帯で低くなっている。また、父子世帯では、「聞く人がいない」と回答した割合が高くなっている。
- 年間の手取り収入別でみると、年収額に関係なく「家族(親やきょうだいなど)」と回答した割合が高くなっている。

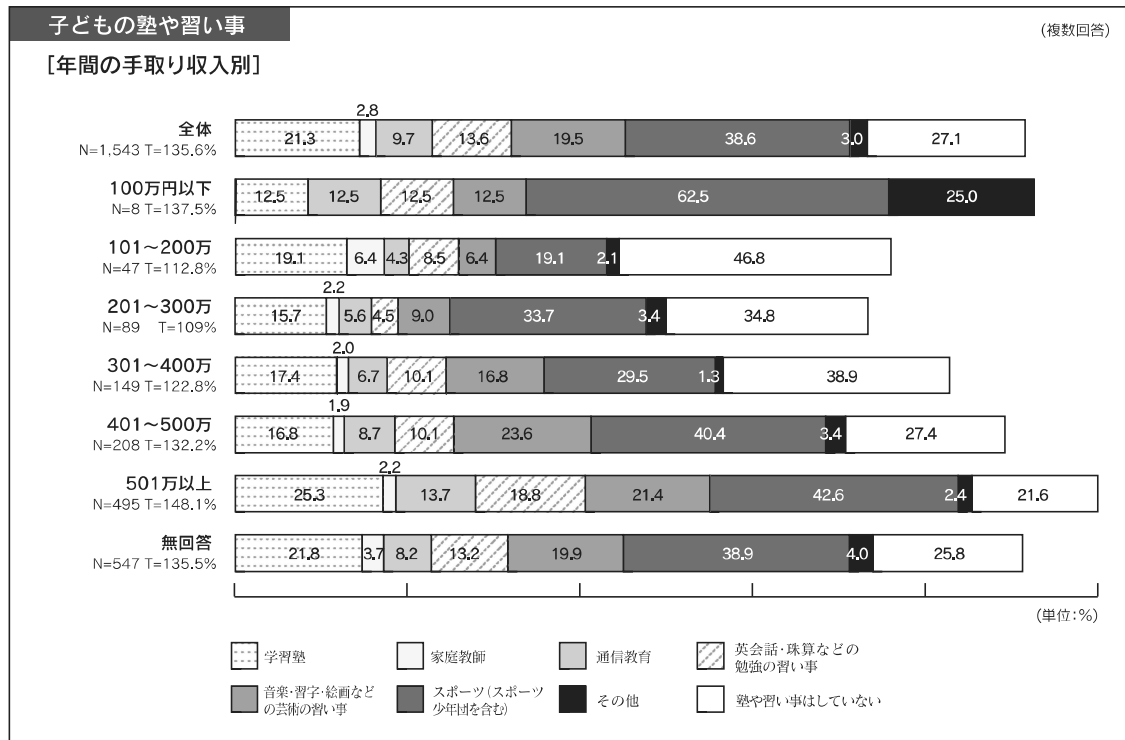




## (2) 家庭での教育について

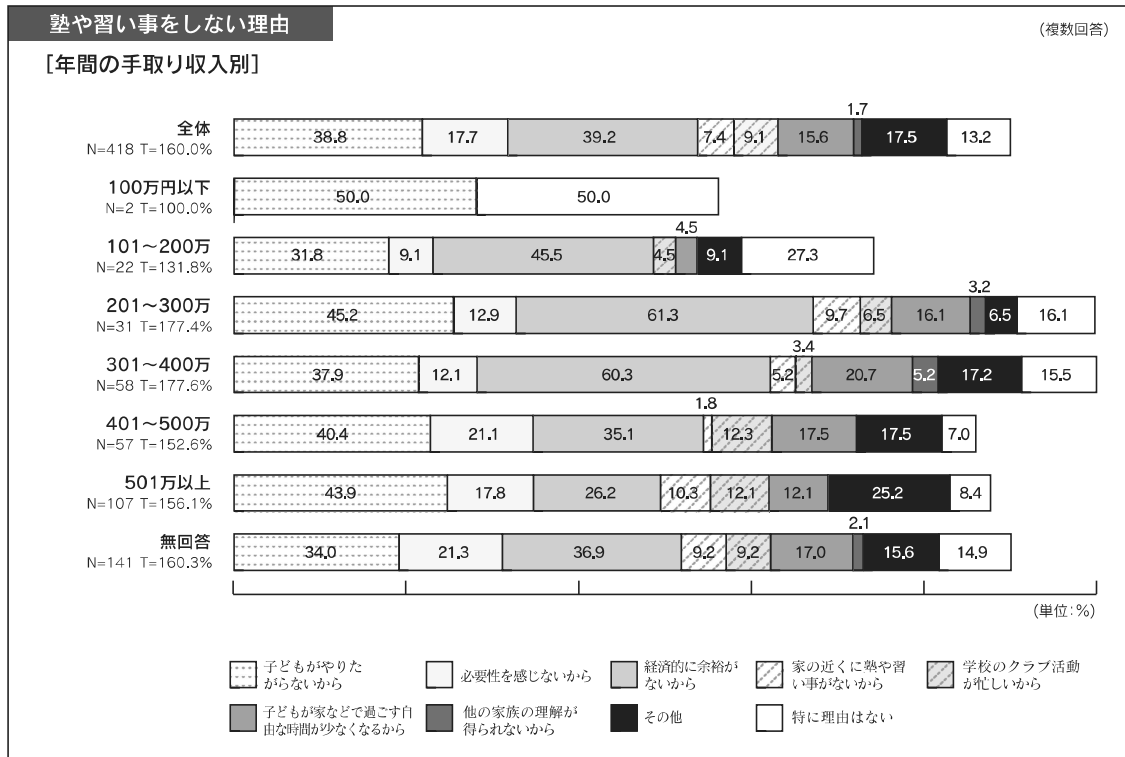
### ① 子どもの塾や習い事

●年間の手取り収入別でみると、「塾や習い事はしていない」と回答した割合は「101万～400万」の世帯で高くなっている。また、「英会話、珠算などの勉強の習い事」、「音楽、習字、絵画などの芸術の習い事」と回答した割合は、年収額が上がるほど高くなっている。



## ② 塾や習い事をしない理由

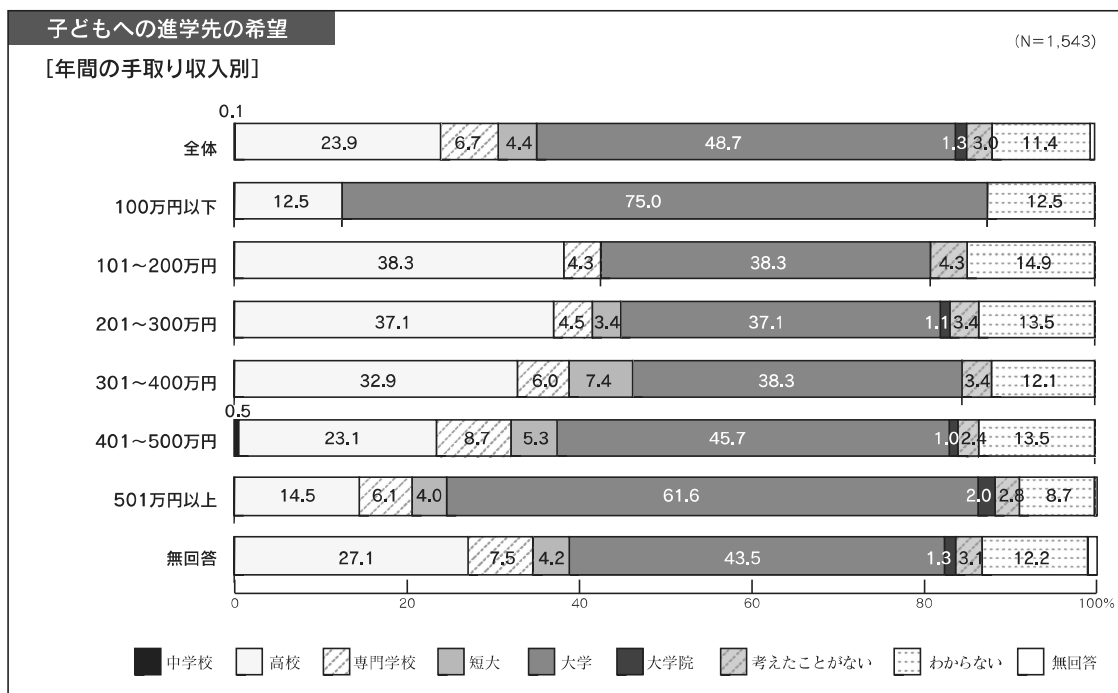
- 年間の手取り収入別でみると、「経済的に余裕がないから」と回答した割合は「101万～400万」の世帯で高くなっている。



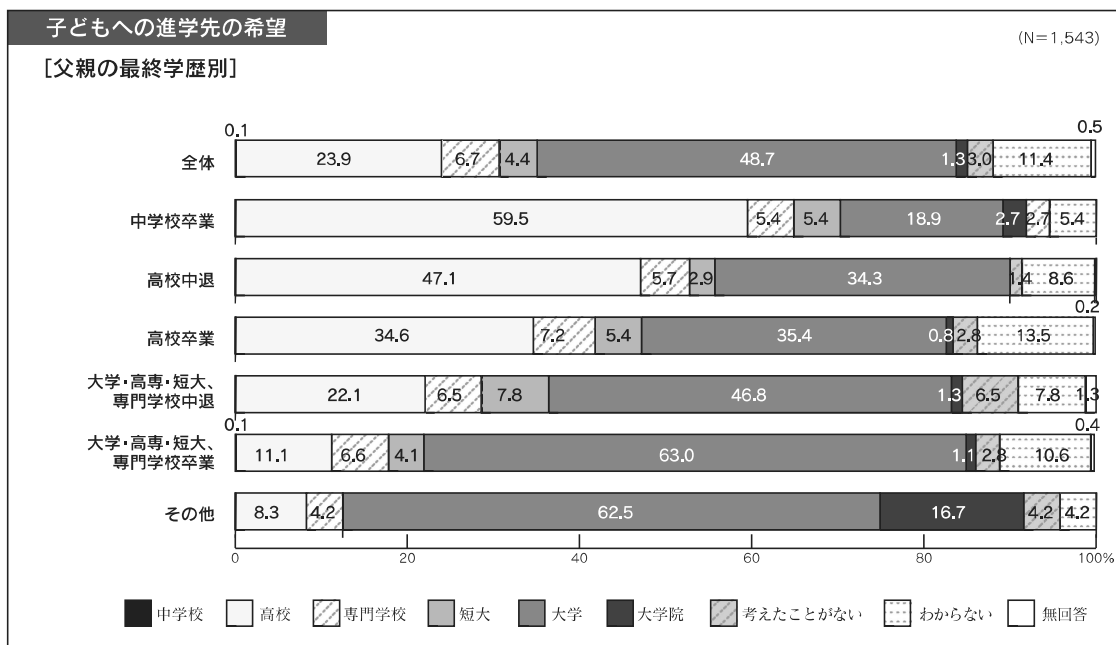
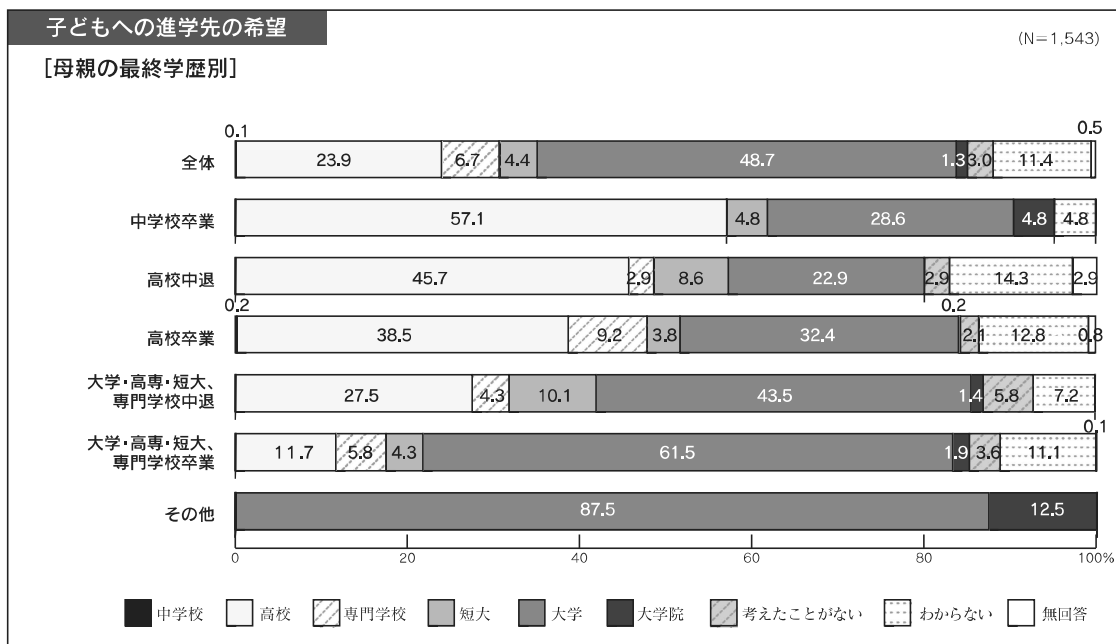
### (3) 子どもの進学等について

#### ① 子どもへの進学先の希望

- 年間の手取り収入別でみると、「大学」と回答した割合は「100万以下」の世帯と「501万以上」の世帯で非常に高くなっている。「高校」と回答した割合は、「101万～300万」の世帯で高くなっている。

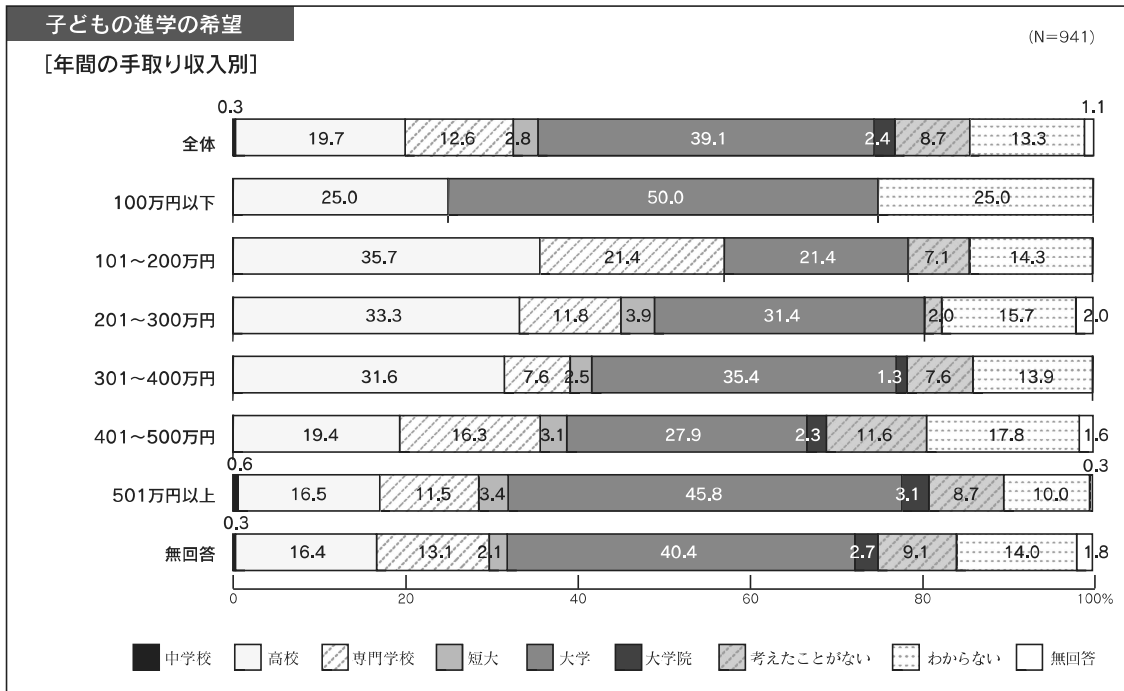


- 母親の最終学歴別でみると、「大学」と回答した割合は、母親の学歴が上がるにつれて高い割合となっている。また、「高校」と回答した割合は、「中学校卒業」、「高校中退」の母親で非常に高くなっている。
- 父親の最終学歴別についても母親と同様の結果となっている。

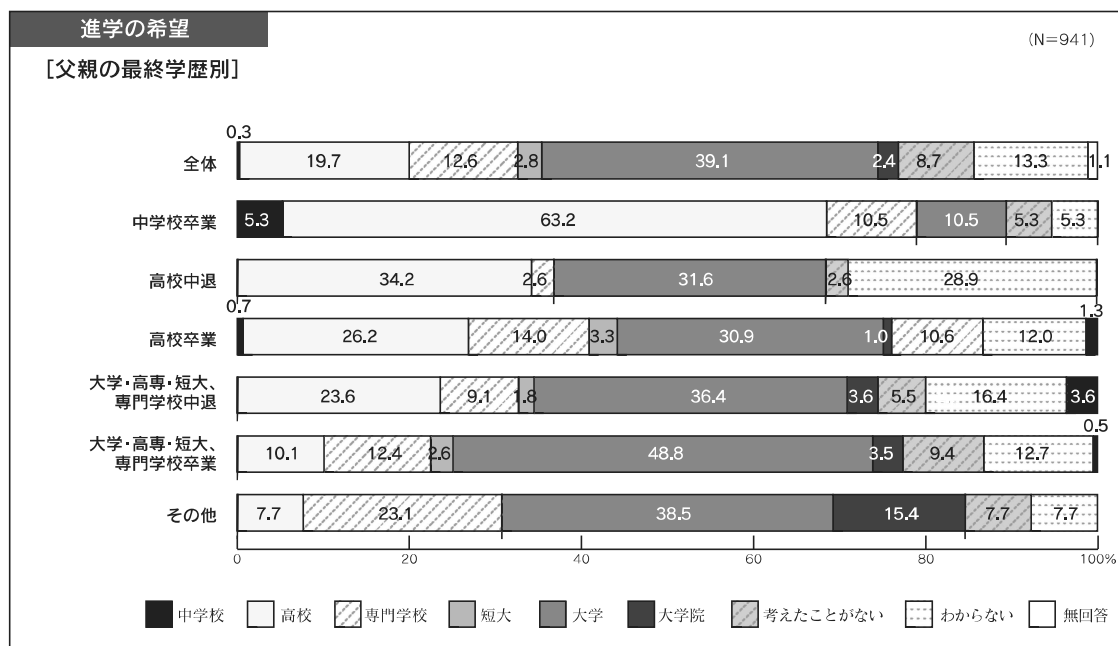
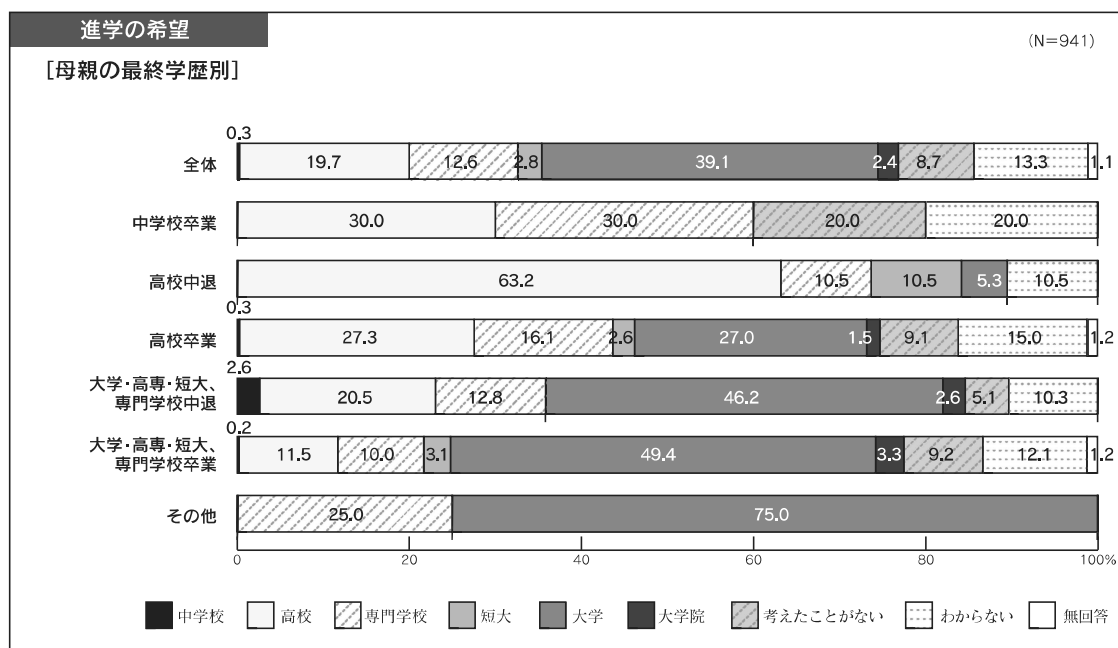


② 子どもの進学の希望 子どもの回答

- 年間の手取り収入別でみると、「101万～300万」の世帯では、「高校」と回答した割合が高くなっている。また、「301万以上」の世帯では、「高校」より「大学」と回答した割合が高くなり、特に「501万以上」の世帯では「大学」と回答した割合が非常に高くなっている。



- 母親の最終学歴別でみると、「大学」と回答した割合は、母親の学歴が上がるにつれて高い割合となっている。「高校」と回答した割合は「高校中退」の母親で非常に高くなっている。
- 父親の最終学歴別でみると、母親同様「大学」と回答した割合は、父親の学歴が上がるにつれて高い割合となっている。「高校」と回答した割合は「中学校卒業」の父親で非常に高く、「高校中退」の父親でも高くなっている。



### ③ 子どもと保護者の進学希望先の一致状況

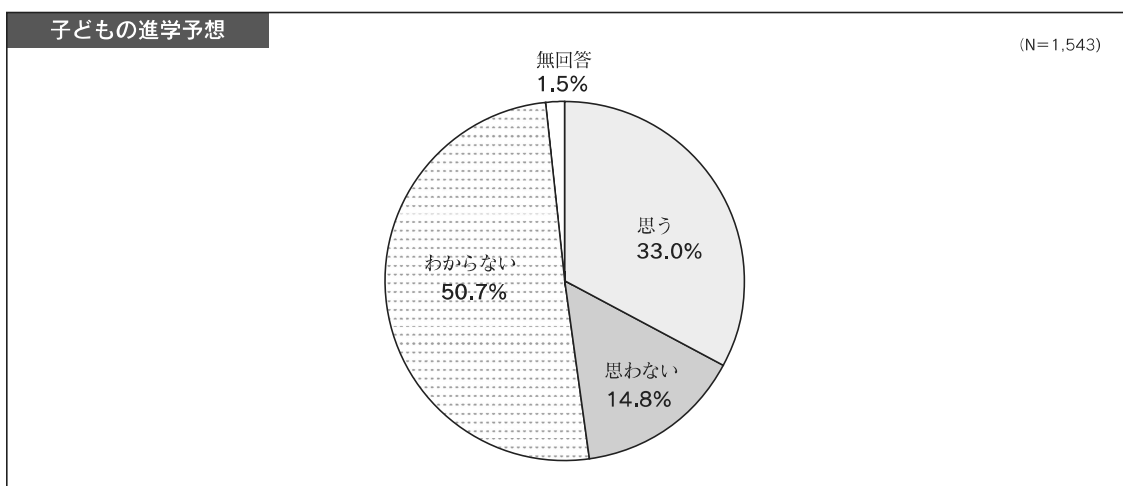
- 子どもと保護者の進学先の希望状況は、「高校」と回答した割合で5割、「大学」、「大学院」と回答した割合で6割以上一致していることから、子どもと保護者の進学先の希望は高い割合で一致しているといえる。

#### ●進学の希望[保護者の希望別]

|        |              | 保護者の希望 |      |       |       |       |       |       |              |       |      |
|--------|--------------|--------|------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|-------|------|
|        |              | 合 計    | 中学校  | 高校    | 専門学校  | 短大    | 大学    | 大学院   | 考えたこと<br>がない | わからない | 無回答  |
| 全 体    |              | 941    | 3    | 185   | 119   | 26    | 368   | 23    | 82           | 125   | 10   |
|        |              | 100.0% | 0.3% | 19.7% | 12.6% | 2.8%  | 39.1% | 2.4%  | 8.7%         | 13.3% | 1.1% |
| 子どもの希望 | 中学校          | 0      | 0    | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0            | 0     | 0    |
|        |              | 0.0%   | 0.0% | 0.0%  | 0.0%  | 0.0%  | 0.0%  | 0.0%  | 0.0%         | 0.0%  | 0.0% |
|        | 高校           | 233    | 2    | 121   | 38    | 0     | 20    | 1     | 15           | 32    | 4    |
|        |              | 100.0% | 0.9% | 51.9% | 16.3% | 0.0%  | 8.6%  | 0.4%  | 6.4%         | 13.7% | 1.7% |
|        | 専門学校         | 73     | 0    | 15    | 24    | 1     | 8     | 0     | 5            | 19    | 1    |
|        |              | 100.0% | 0.0% | 20.5% | 32.9% | 1.4%  | 11.0% | 0.0%  | 6.8%         | 26.0% | 1.4% |
|        | 短大           | 42     | 0    | 3     | 7     | 16    | 9     | 0     | 3            | 4     | 0    |
|        |              | 100.0% | 0.0% | 7.1%  | 16.7% | 38.1% | 21.4% | 0.0%  | 7.1%         | 9.5%  | 0.0% |
|        | 大学           | 469    | 1    | 34    | 33    | 5     | 292   | 16    | 41           | 45    | 2    |
|        |              | 100.0% | 0.2% | 7.2%  | 7.0%  | 1.1%  | 62.3% | 3.4%  | 8.7%         | 9.6%  | 0.4% |
|        | 大学院          | 17     | 0    | 0     | 0     | 0     | 11    | 4     | 0            | 2     | 0    |
|        |              | 100.0% | 0.0% | 0.0%  | 0.0%  | 0.0%  | 64.7% | 23.5% | 0.0%         | 11.8% | 0.0% |
|        | 考えたこと<br>がない | 15     | 0    | 2     | 4     | 0     | 2     | 0     | 6            | 1     | 0    |
|        |              | 100.0% | 0.0% | 13.3% | 26.7% | 0.0%  | 13.3% | 0.0%  | 40.0%        | 6.7%  | 0.0% |
|        | わからない        | 90     | 0    | 10    | 13    | 4     | 25    | 2     | 11           | 22    | 3    |
|        |              | 100.0% | 0.0% | 11.1% | 14.4% | 4.4%  | 27.8% | 2.2%  | 12.2%        | 24.4% | 3.3% |
|        | 無回答          | 2      | 0    | 0     | 0     | 0     | 1     | 0     | 1            | 0     | 0    |
|        |              | 100.0% | 0.0% | 0.0%  | 0.0%  | 0.0%  | 50.0% | 0.0%  | 50.0%        | 0.0%  | 0.0% |

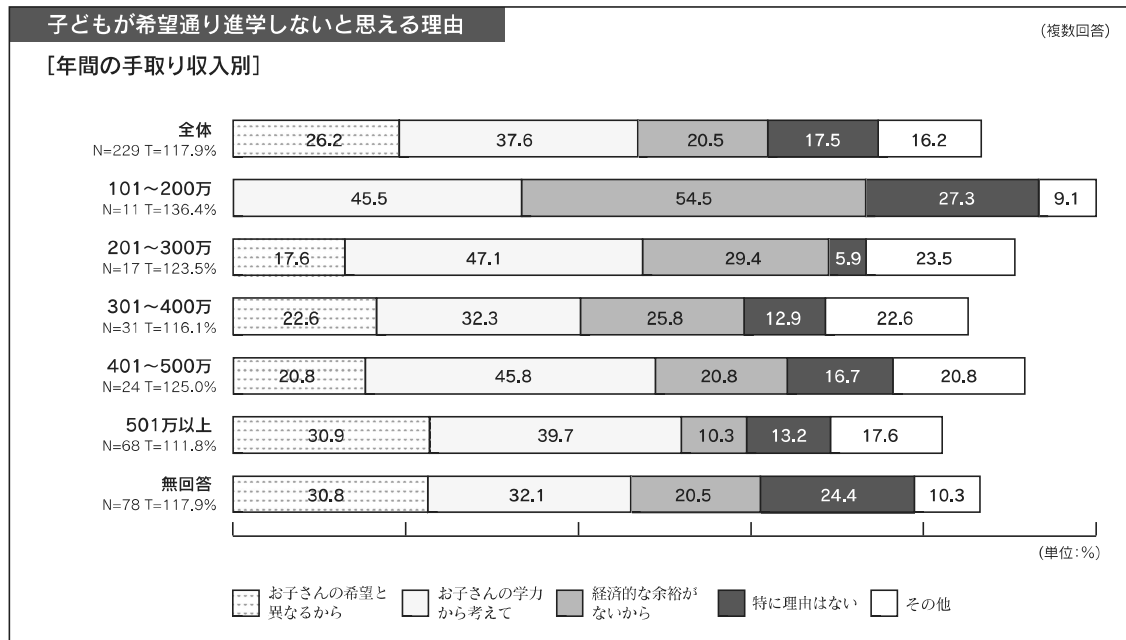
### ④ 子どもの進学予想

- 子どもの進学予想では、5割以上の保護者が「わからない」と回答している。



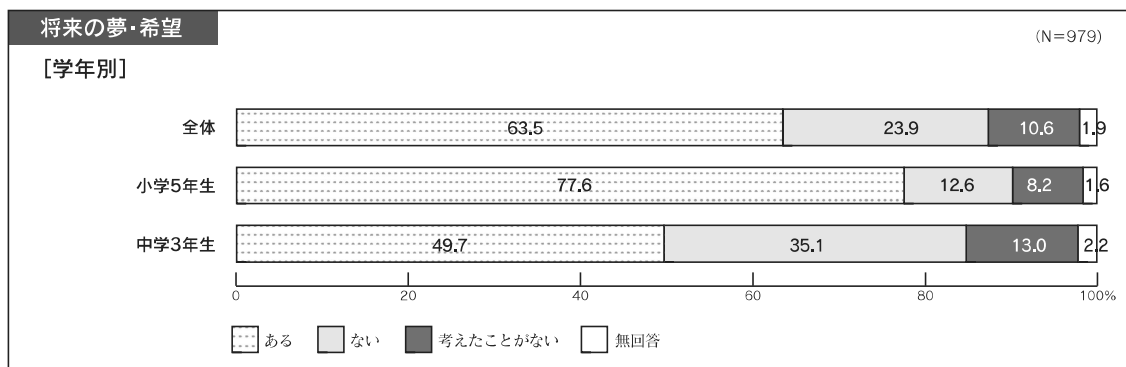
### ⑤ 子どもが希望通り進学しないと思える理由

- 年間の手取り収入別にみると、「経済的な余裕がない」と回答した割合は年収が下がるほど高くなっている。



### (4) 将来の夢や希望 子どもの回答

- 学年別でみると、「ある」と回答した割合は小学5年生では77.6%であるのに対し、中学3年生では49.7%と低くなっている。



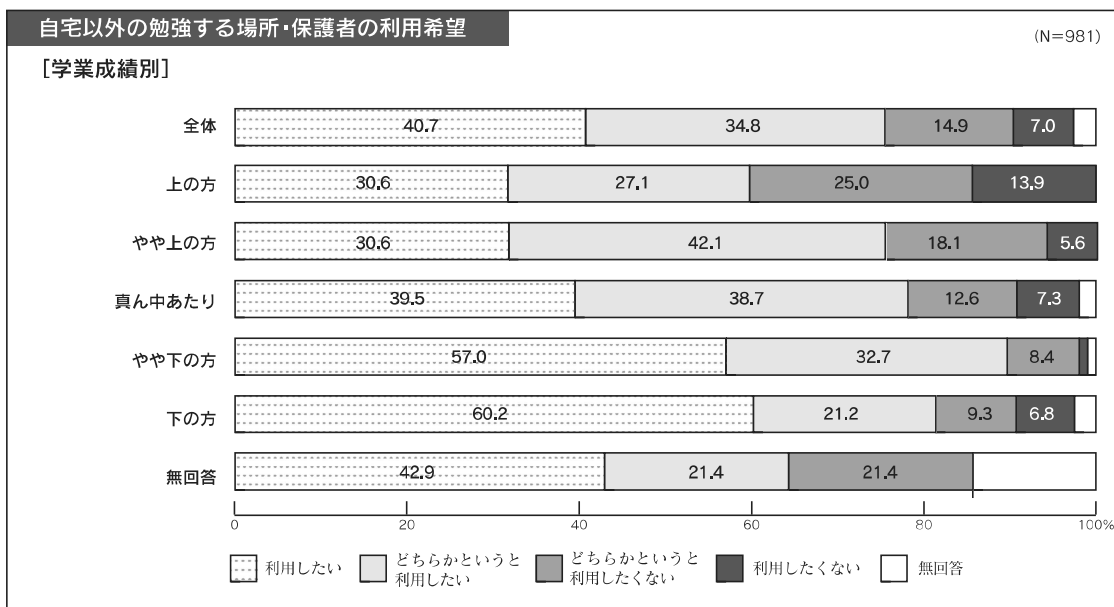
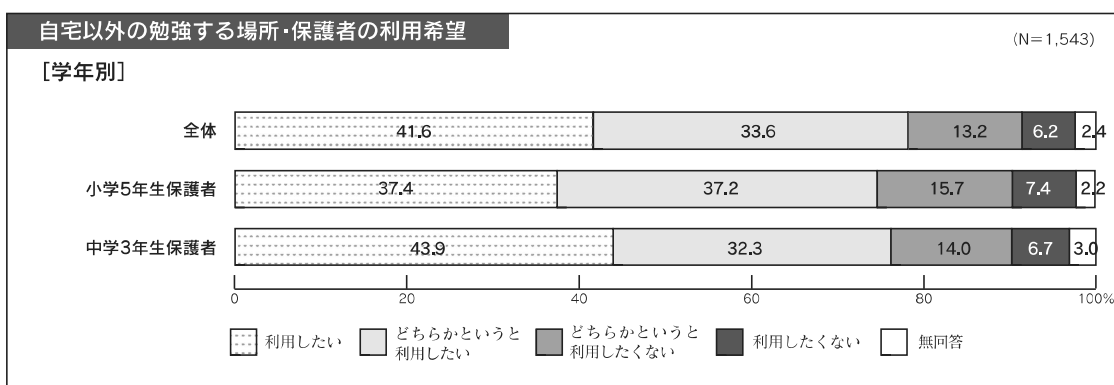


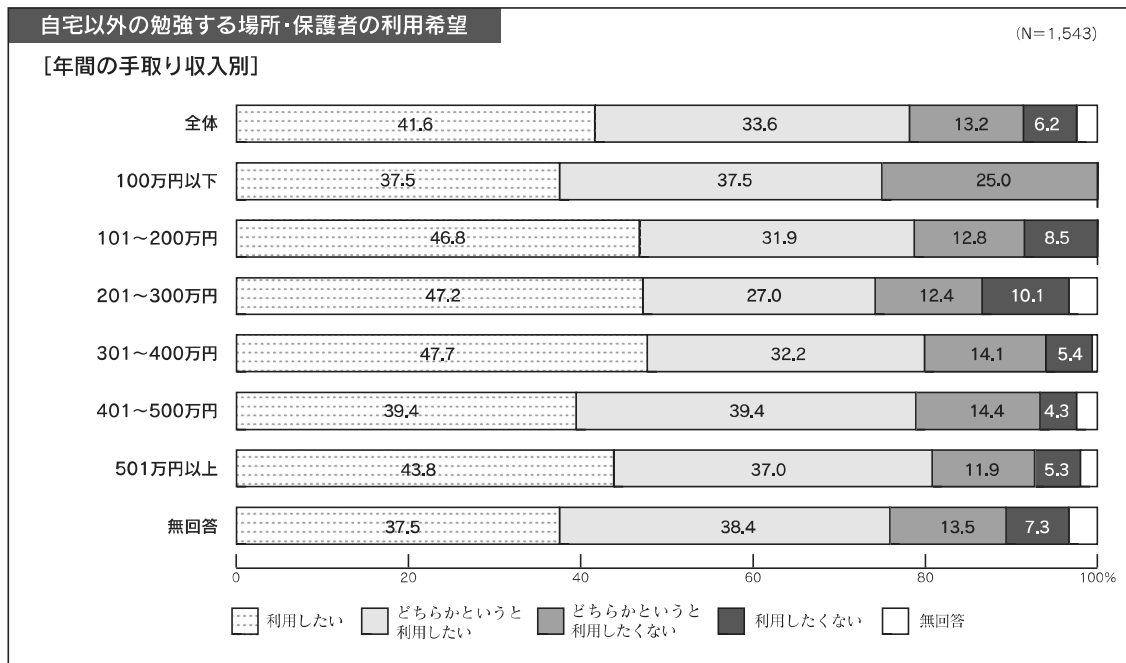
## 6. 学習支援のニーズ

### (1) 保護者のニーズ

#### ① 保護者の利用希望

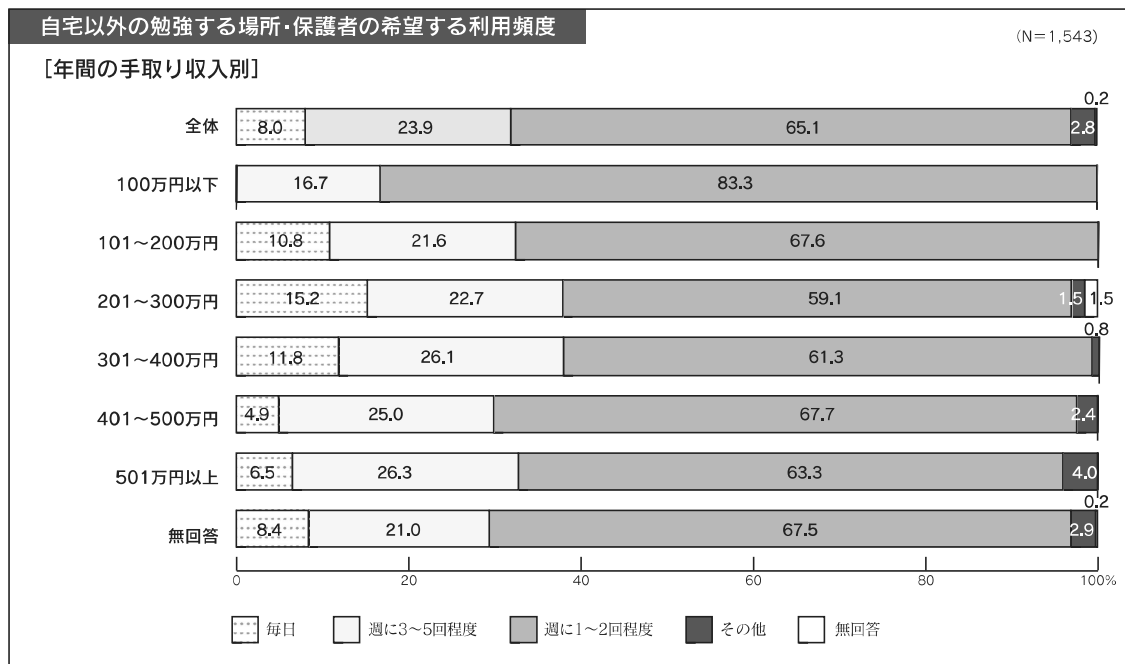
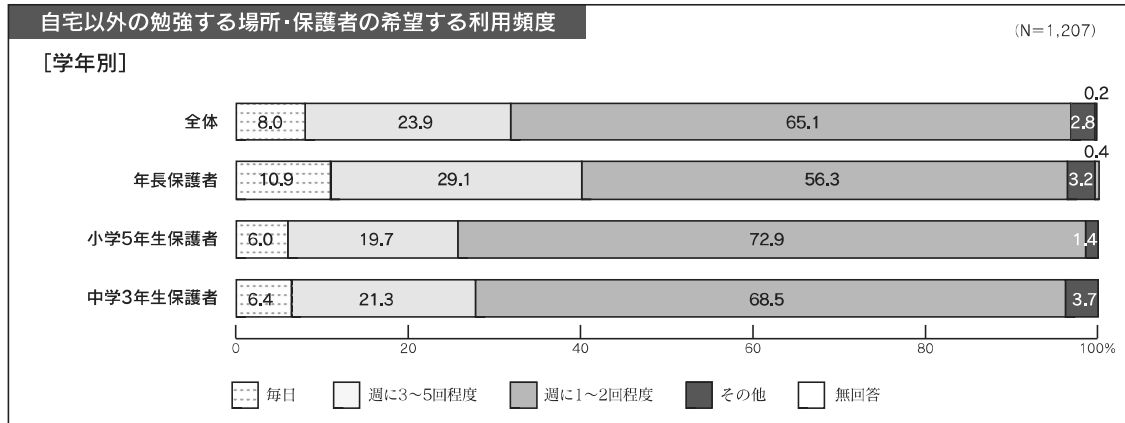
- 全体では「利用したい」または「どちらかという利用したい」と回答した割合は7割を越えている。
- 子どもの成績別でみると、「利用したい」と回答した割合は、成績が「やや下の方」、「下の方」と回答した保護者で非常に高くなっている。逆に、「どちらかという利用したくない」、「利用したくない」と回答した割合は、成績が「上の方」と回答した保護者で高くなっている。
- 年間の手取り収入別でみると、年収額に関係なく「利用したい」と回答した割合が高くなっている。





## ② 保護者の希望する利用頻度

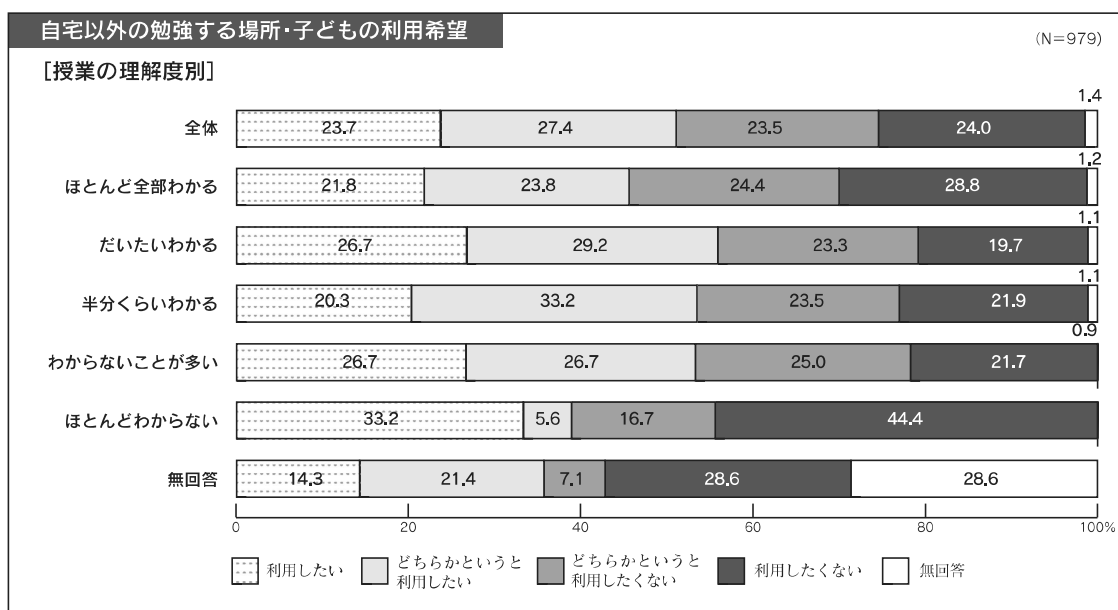
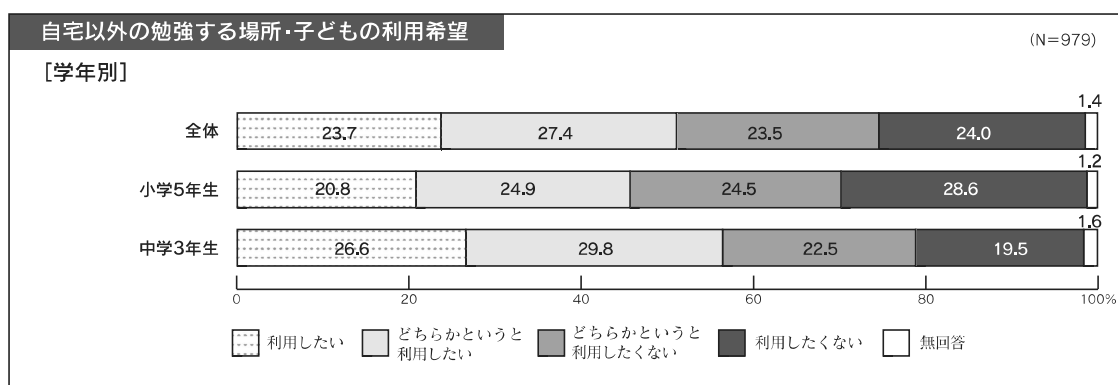
- 全体では「週に1～2回程度」と回答した割合が65.1%と最も高く、次いで「週に3～5回程度」と回答した割合が23.9%となっている。
- 年間の手取り収入別でみると、年収額に関係なく「週に1～2回程度」と回答した割合が高くなっている。

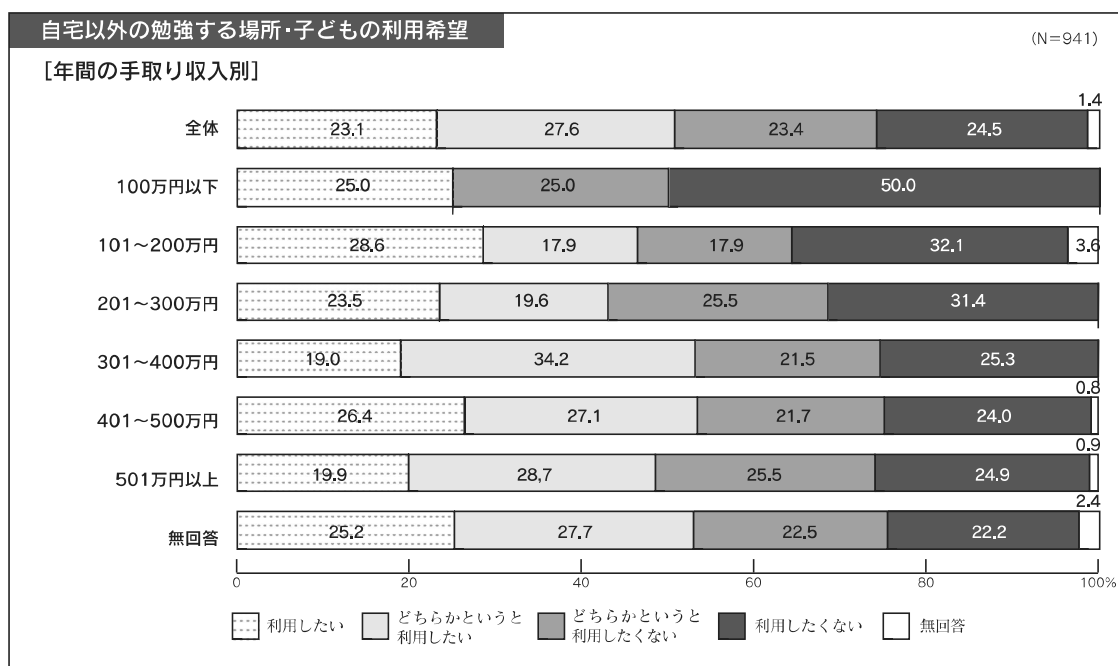


## (2) 子どものニーズ

### ① 子どもの利用希望 子どもの回答

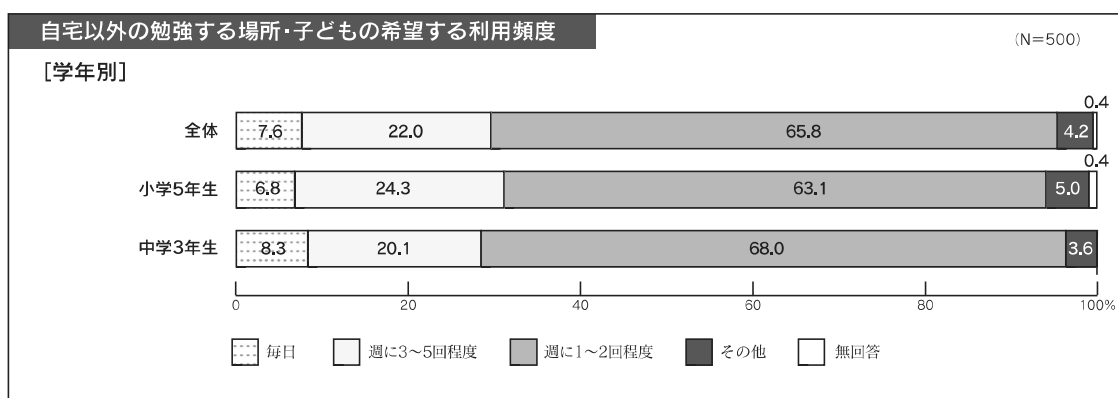
- 学年別でみると、小学5年生は「利用したくない」と回答した割合は28.6%とやや高く、中学3年生は「どちらかという利用したい」または「利用したい」と回答した割合が高くなっている。
- 授業の理解度別でみると、「利用したくない」と回答した割合は、勉強が「ほとんどわからない」と回答した子どもで非常に高くなっている。
- 年間の手取り収入別でみると、「利用したくない」と回答した割合は、年収が下がるほど高くなっている。





## ② 子どもの希望する利用頻度 子どもの回答

- 全体では「週に1～2回程度」と回答した割合が65.8%と最も高く、次いで「週に3～5回程度」と回答した割合が22.0%となっている。



越前市こども・若者の意識に関する調査  
結果報告書

令和 6 年 5 月

越前市市民福祉部こども未来課

## I 調査の概要

### 1. 調査の目的

こども・若者の育成と問題解決に関するさまざまな施策を推進するため、令和6年度に「越前市こども計画」を作成する予定であり、今後のこども・若者支援施策を検討するうえでの基礎資料とするために実施。

### 2. 調査の名称

「越前市こども・若者の意識に関する調査」

### 3. 調査方法と調査期間

調査対象      ●市内15歳～22歳のこども・若者  
                   ●市内23歳～30歳の若者  
                   ●市内31歳～39歳の若者  
                   ※ 各年代ごとに400人を無作為抽出

調査方法      QRコード付きハガキを調査対象者に郵送し、WEB上で回答。

調査期間      令和6年2月28日（水）～3月13日（水）

### 4. 調査回収状況

|                | 配付数   | 有効回答数 | 回収率   |
|----------------|-------|-------|-------|
| 15歳～39歳のこども・若者 | 1,200 | 252   | 21.0% |

#### 有効回答数の内訳

|         | 男  | 女   | その他 | 合計  |
|---------|----|-----|-----|-----|
| 15歳～19歳 | 15 | 13  | 0   | 28  |
| 20歳～24歳 | 14 | 22  | 1   | 37  |
| 25歳～29歳 | 22 | 44  | 1   | 67  |
| 30歳～34歳 | 25 | 37  | 0   | 62  |
| 35歳～39歳 | 22 | 35  | 1   | 58  |
| 合計      | 98 | 151 | 3   | 252 |

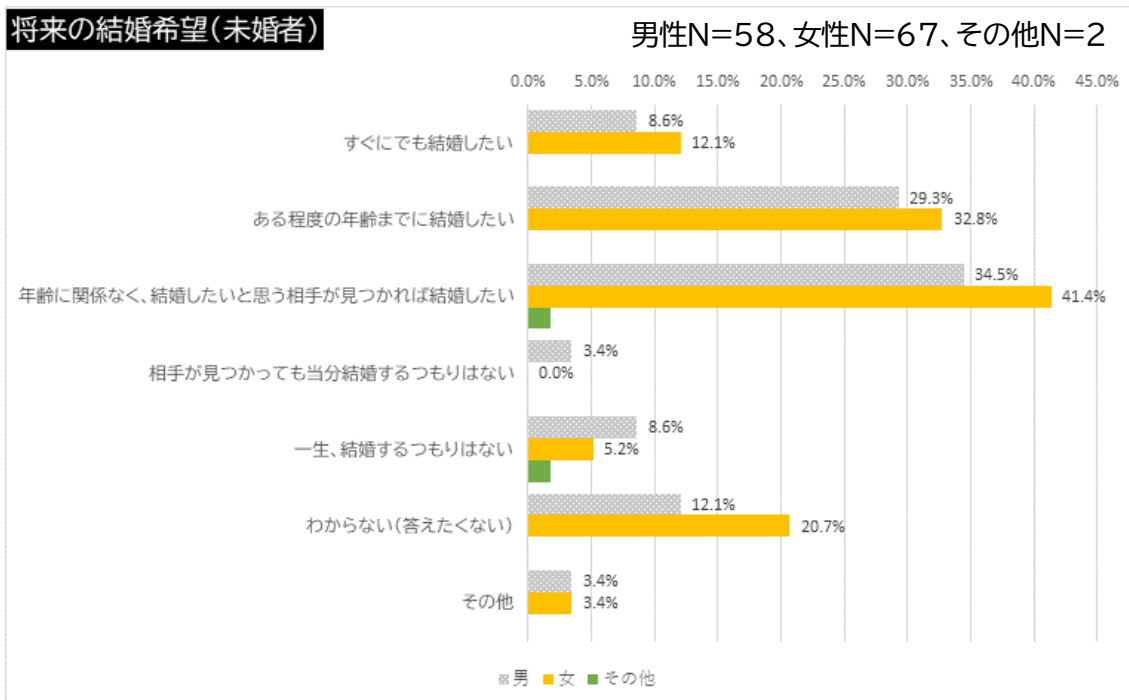
※その他 どちらともいえない、わからない、答えたくない

## Ⅱ 調査の結果

### 1. 将来の結婚希望

#### (1) 将来の結婚希望（未婚者）

●未婚者について、男女ともに「年齢に関係なく、結婚したいと思う相手が見つければ結婚したい」が最も高くなっているが、男性34.5%、女性41.4%と性別で結婚希望の意識の差がある。

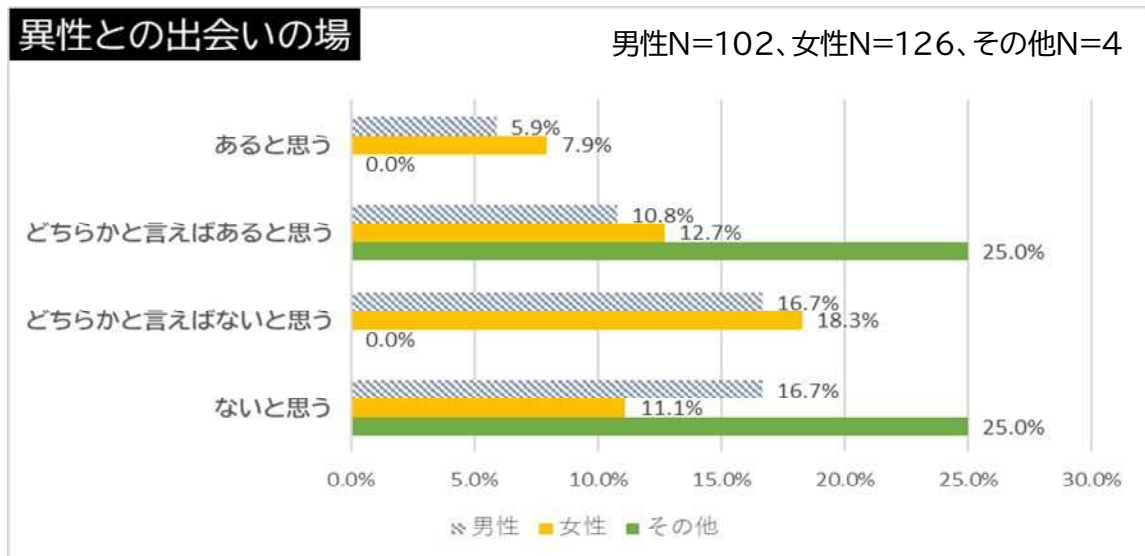


#### (2) 異性との出会いの場

●結婚を希望している人が、男性の33.4%が「どちらかと言えないと思う」「ないと思う」と回答している。

●女性は、「どちらかと言えないと思う」が18.3%と最も高くなっている。

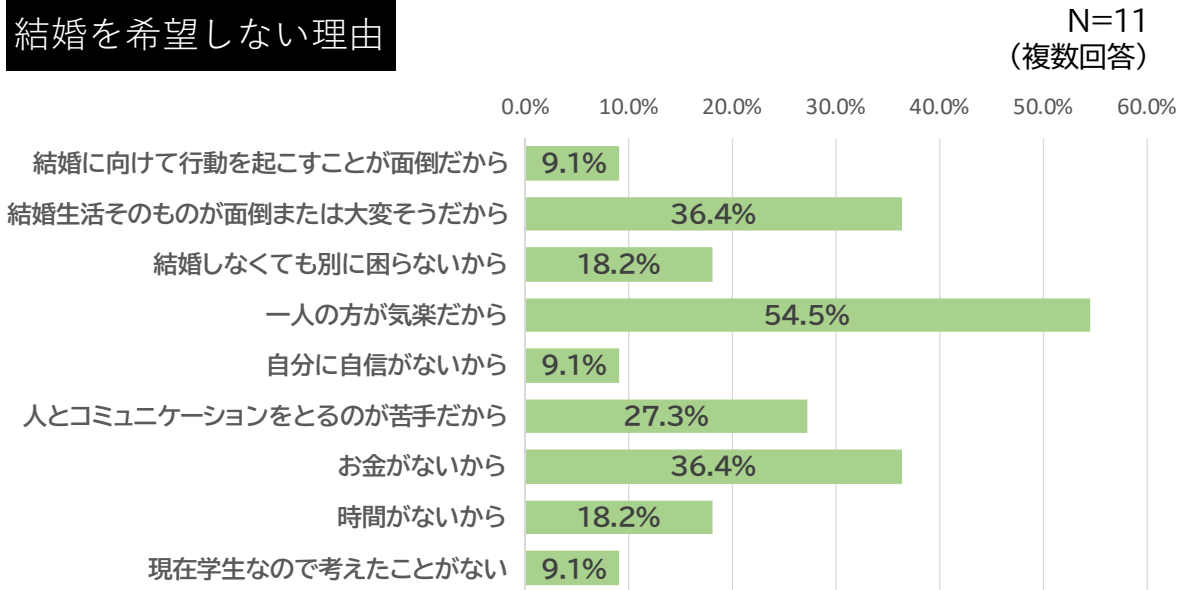
●男女とも、出会いの場が「どちらかと言えない」「ない」と思う人が多い。





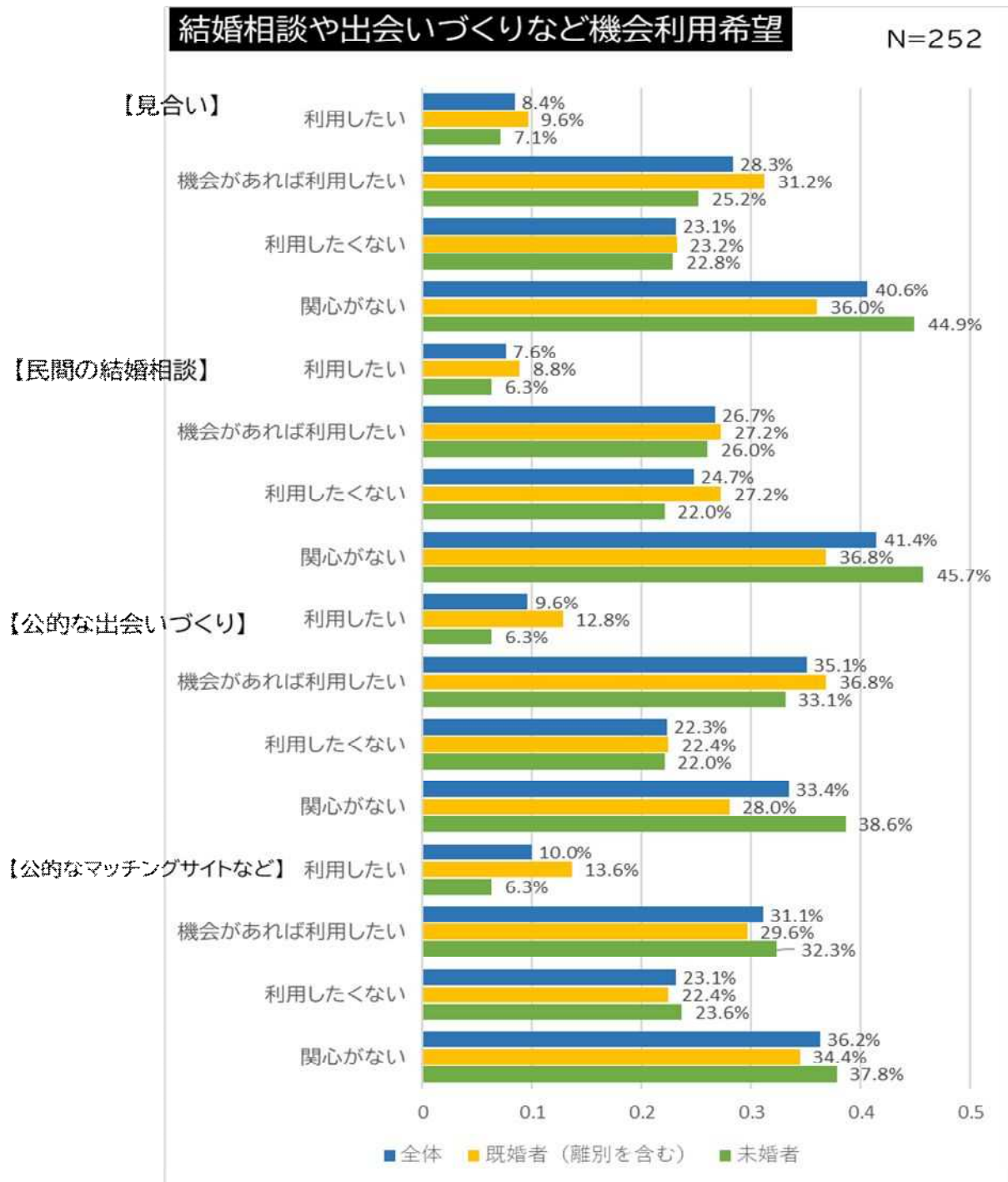
### (3) 結婚を希望しない理由

●結婚を希望しない理由では「1人の方が気楽だから」が、54.5%と最も高くなっている。



#### (4) 出会い場の機会利用希望

●「利用したい」「機会があれば利用したい」と回答した割合が最も高いのは「市役所などが行う、公的な出会いづくり（婚活イベントなど）」となっている。



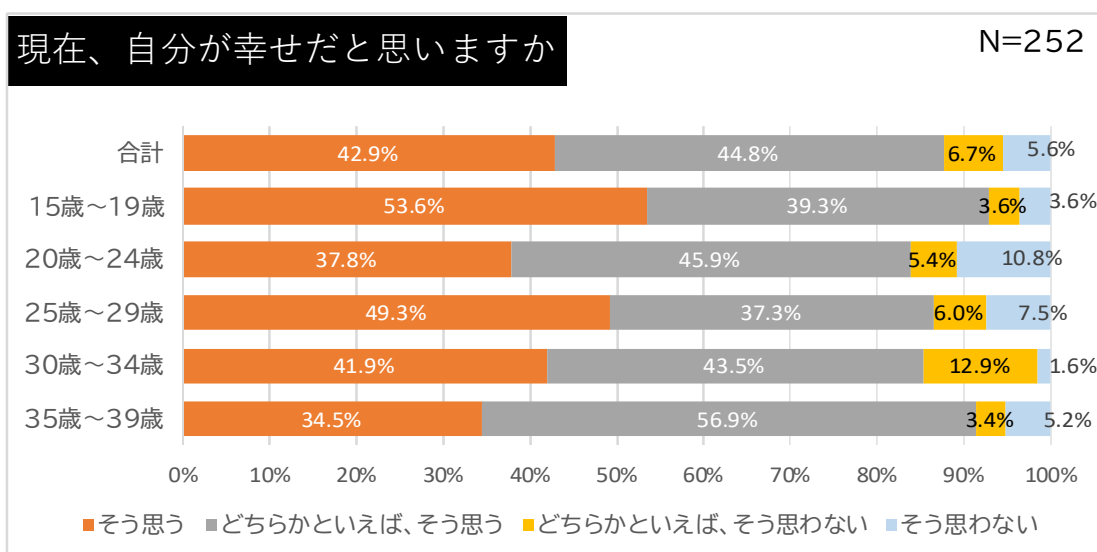
## Ⅱ 調査の結果

### 2. こども・若者の居場所

#### (1) ウェルビーイング

●全体の87.7%の人が「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答している。

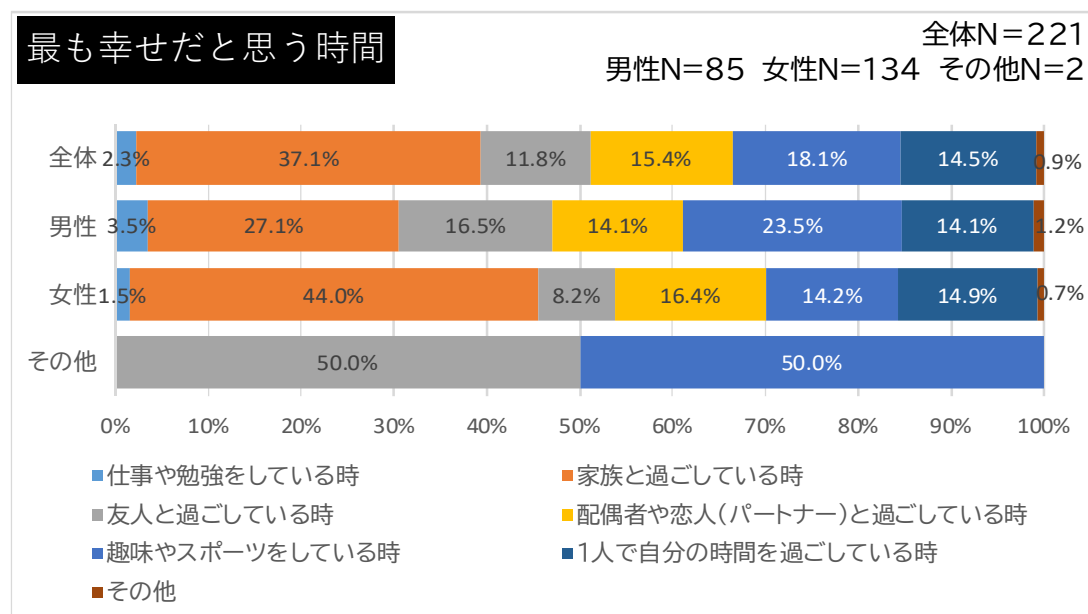
●20歳～24歳では、どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」の割合が最も高くなっている。



#### (2) 最も幸せだと思う時間

●全体では「家族と過ごしている時」37.1%が最も高くなっている。

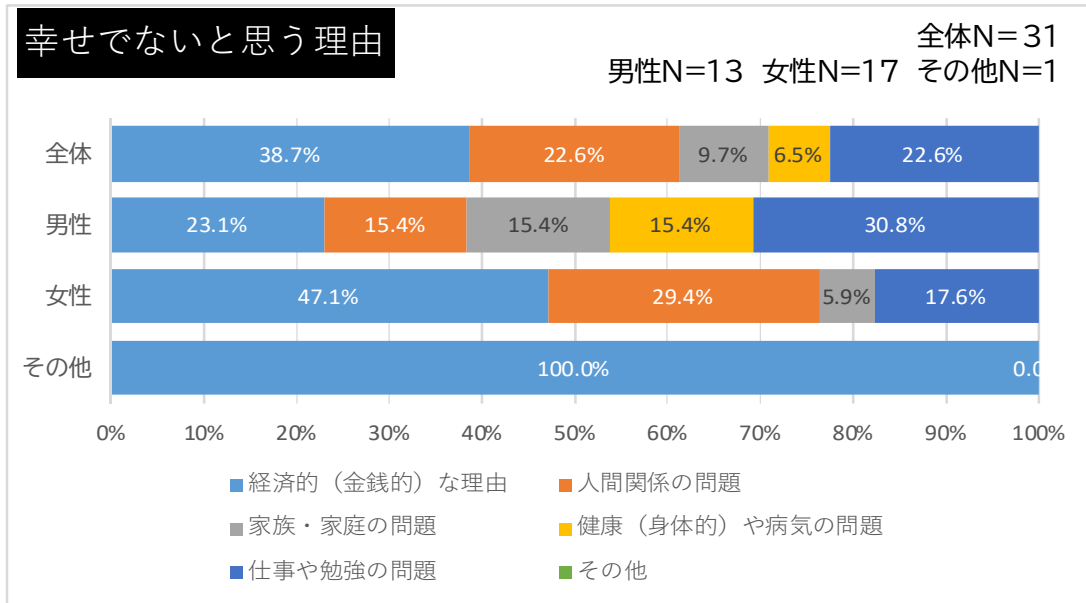
●男性では「1人で時間を過ごしている時」の割合が女性より高くなっている。



### (3) 幸せでないと思う理由

●経済的（金銭的）な理由が全体で38.7%と最も高くなっている。

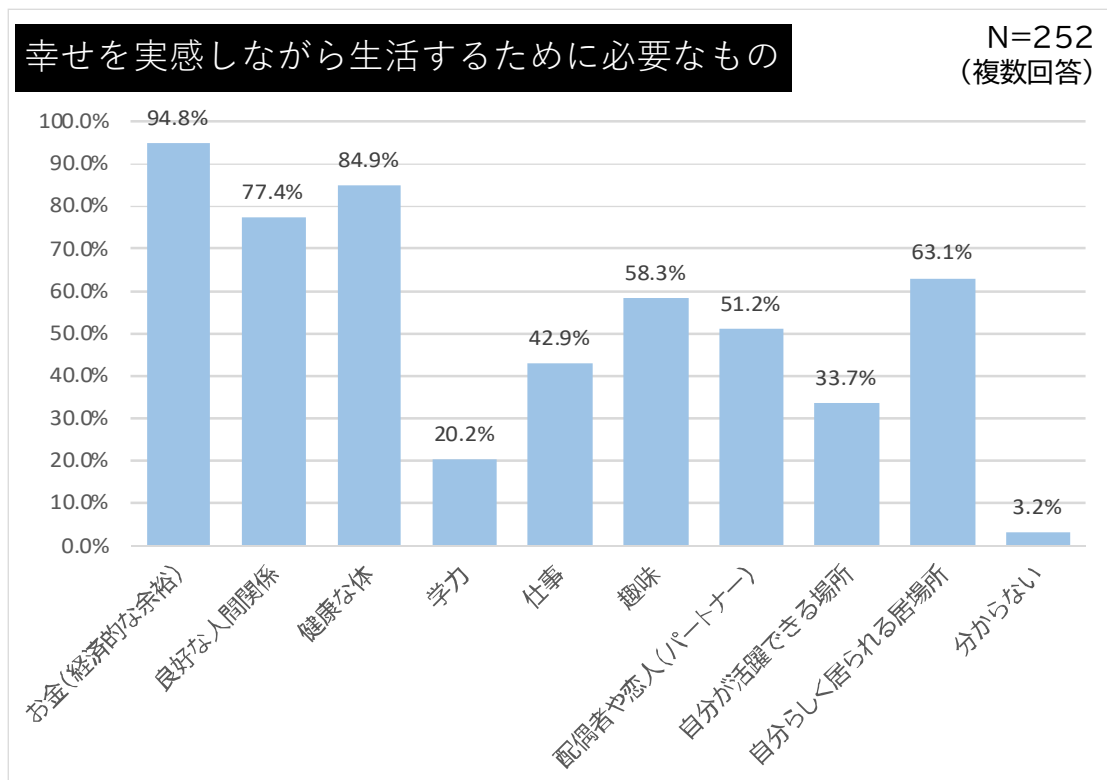
●女性では「人間関係の問題」が男性より高い割合になっている。



### (4) 幸せを実感しながら生活するために必要なもの

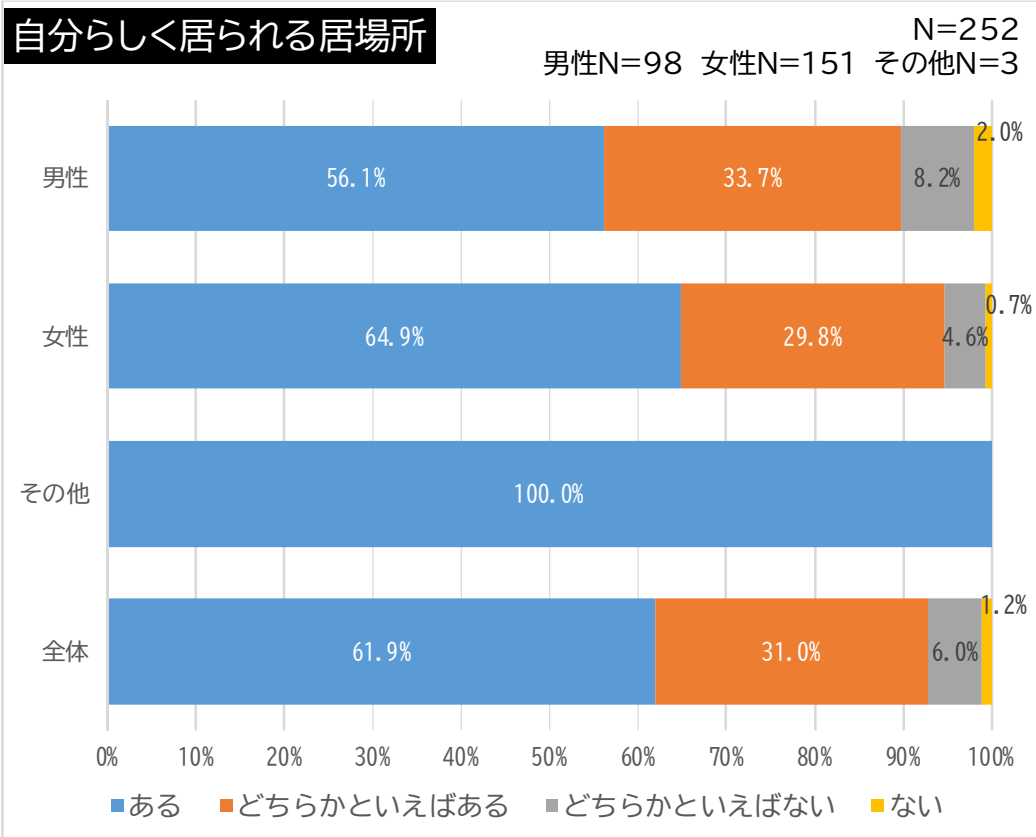
●お金（経済的な余裕）が94.8%と最も高くなり、次いで健康な体が84.9%となっている。

●「自分らしく居られる場所」を選択した割合が63.1%となっている。

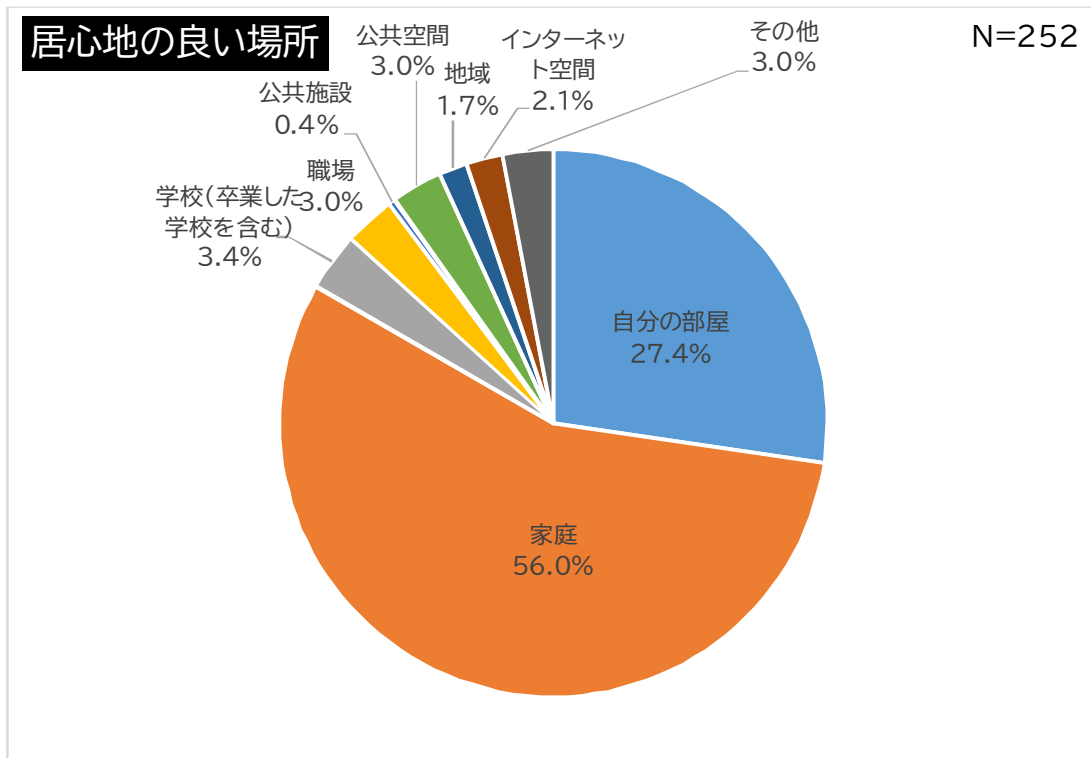


### (5) 自分らしく居られる居場所

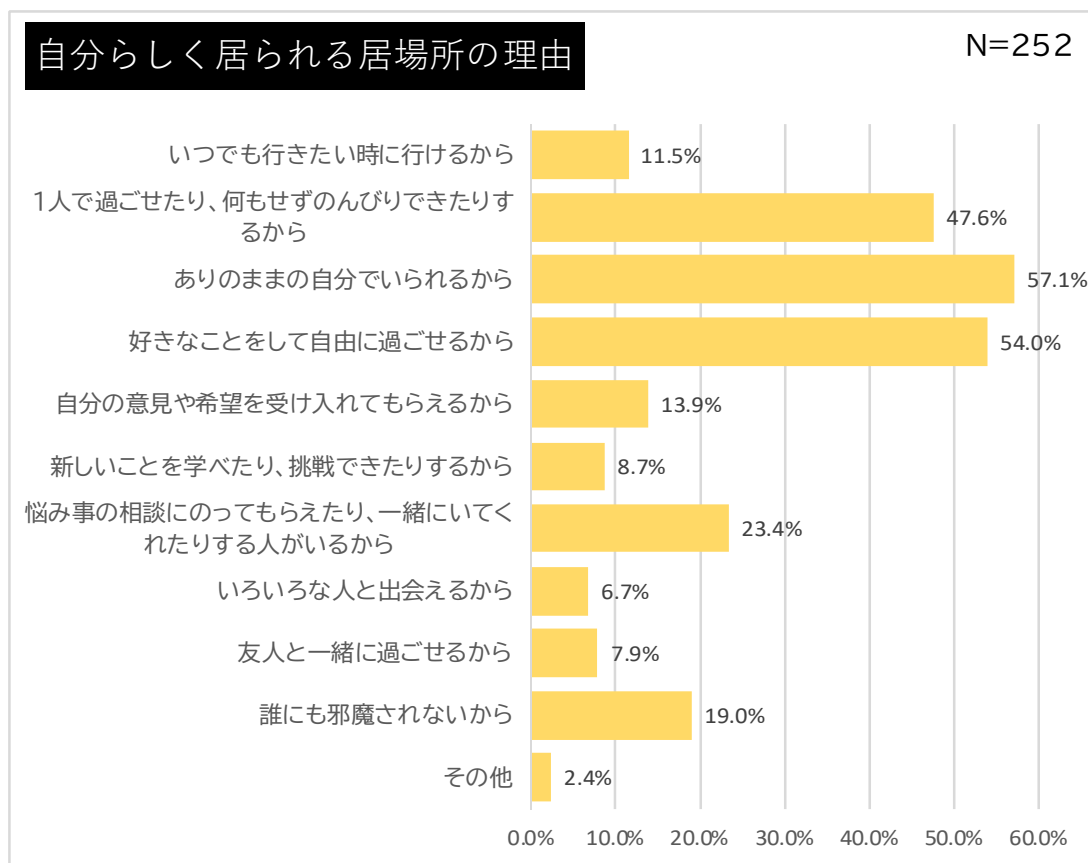
●全体の約93%が「ある」または「どちらかといえばある」と回答している。



●居心地の良い場所は、家庭が56.0%と最も高くなっている。

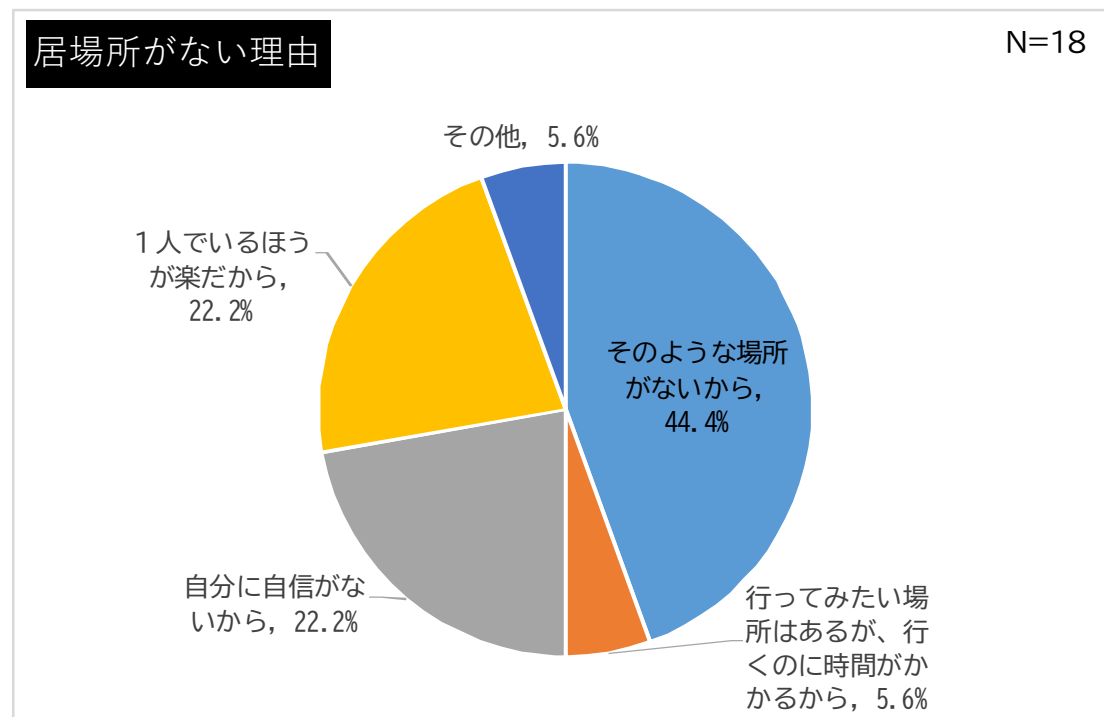


●自分らしく居られる居場所の理由は、「ありのままの自分でいられる」が57.1%と最も高くなっている。



#### (6) 自分らしく居られる居場所がない理由

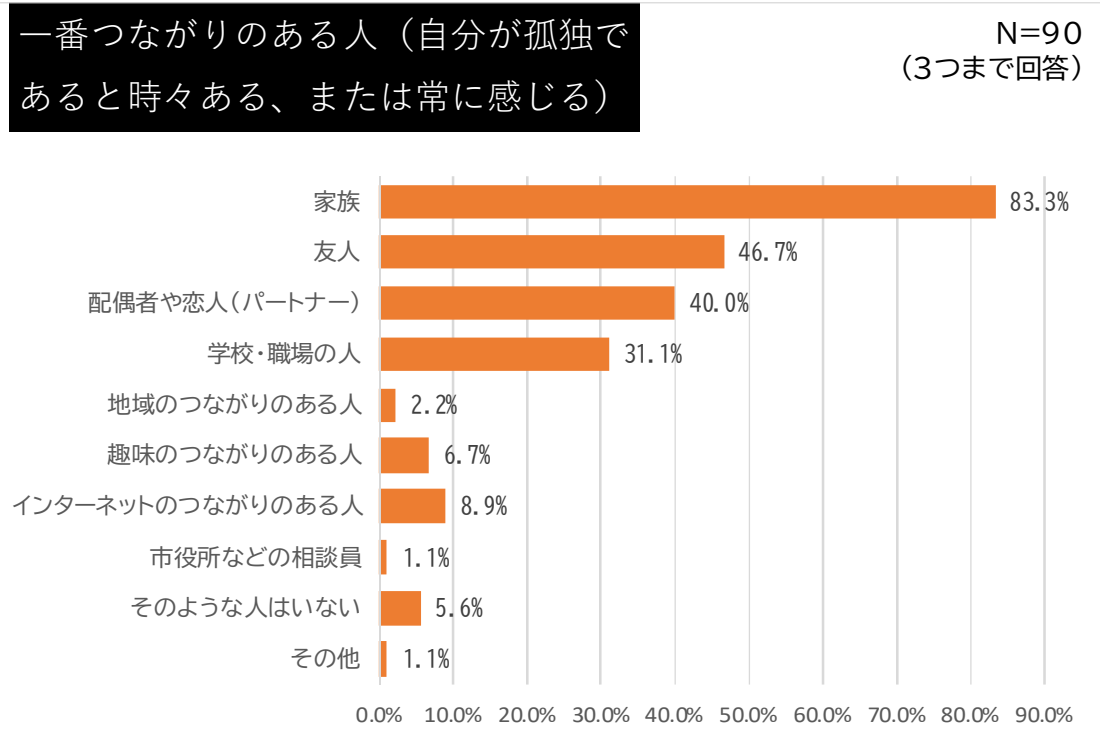
●「そのような場所がないから」が44.4%と最も高くなっている。



### (7) 一番つながりのある人

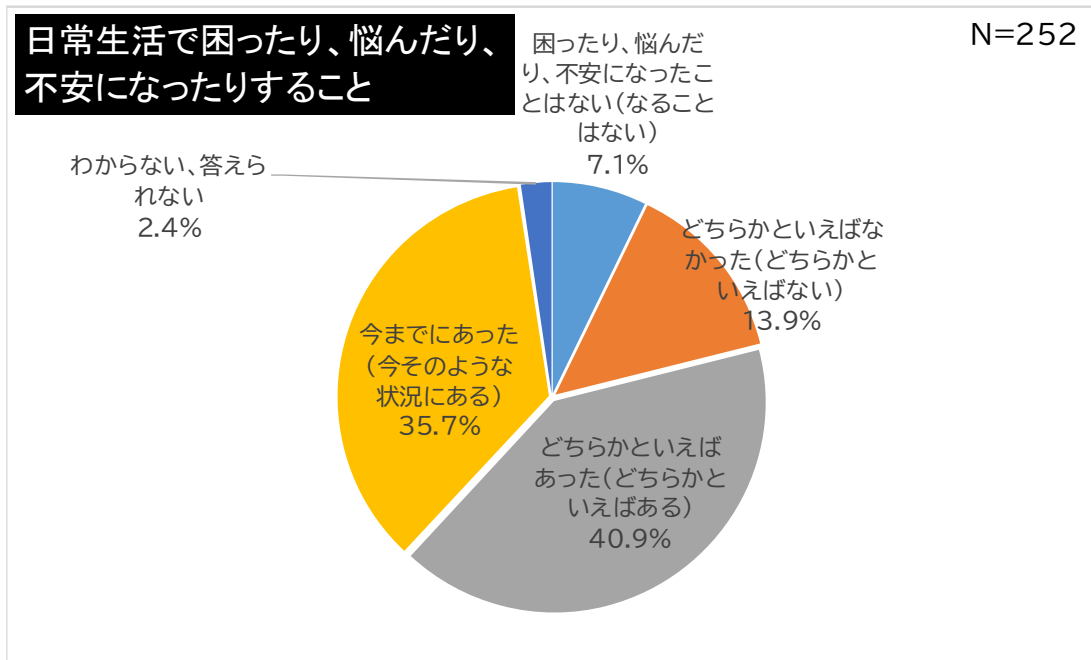
(「自分が孤独であると時々ある」「常にかけている」と回答した人)

●家族、友人の順に回答が高くなっている。



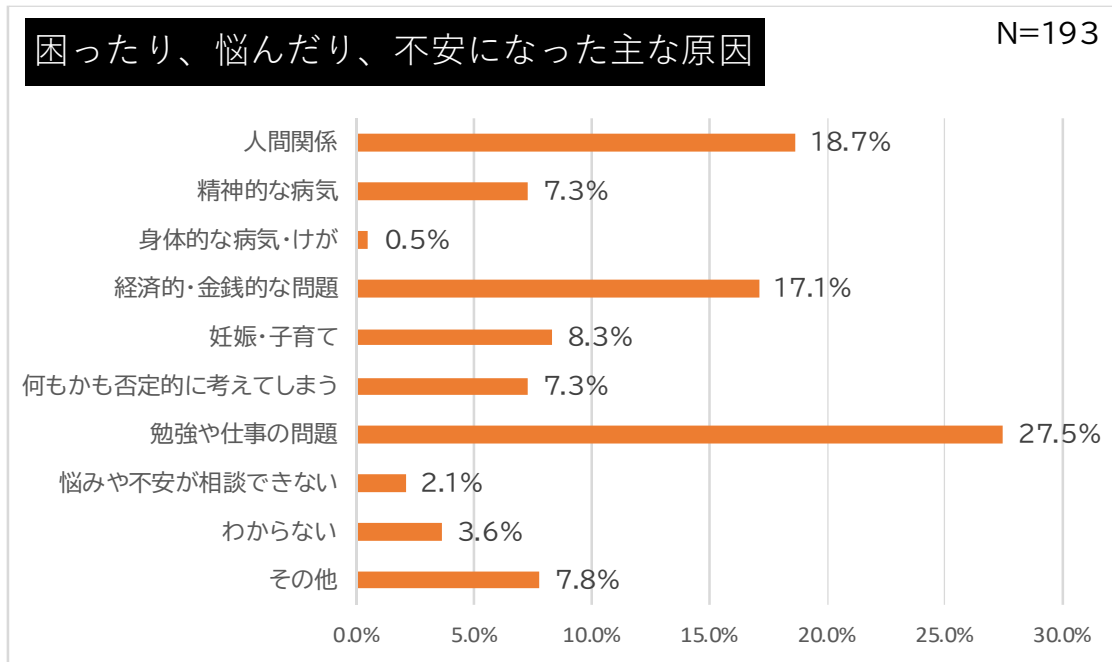
### (8) 日常生活で困ったり、悩んだり、不安になったりすること

●今までにあった、又はどちらかといえばあったという回答割合が約75%ある。



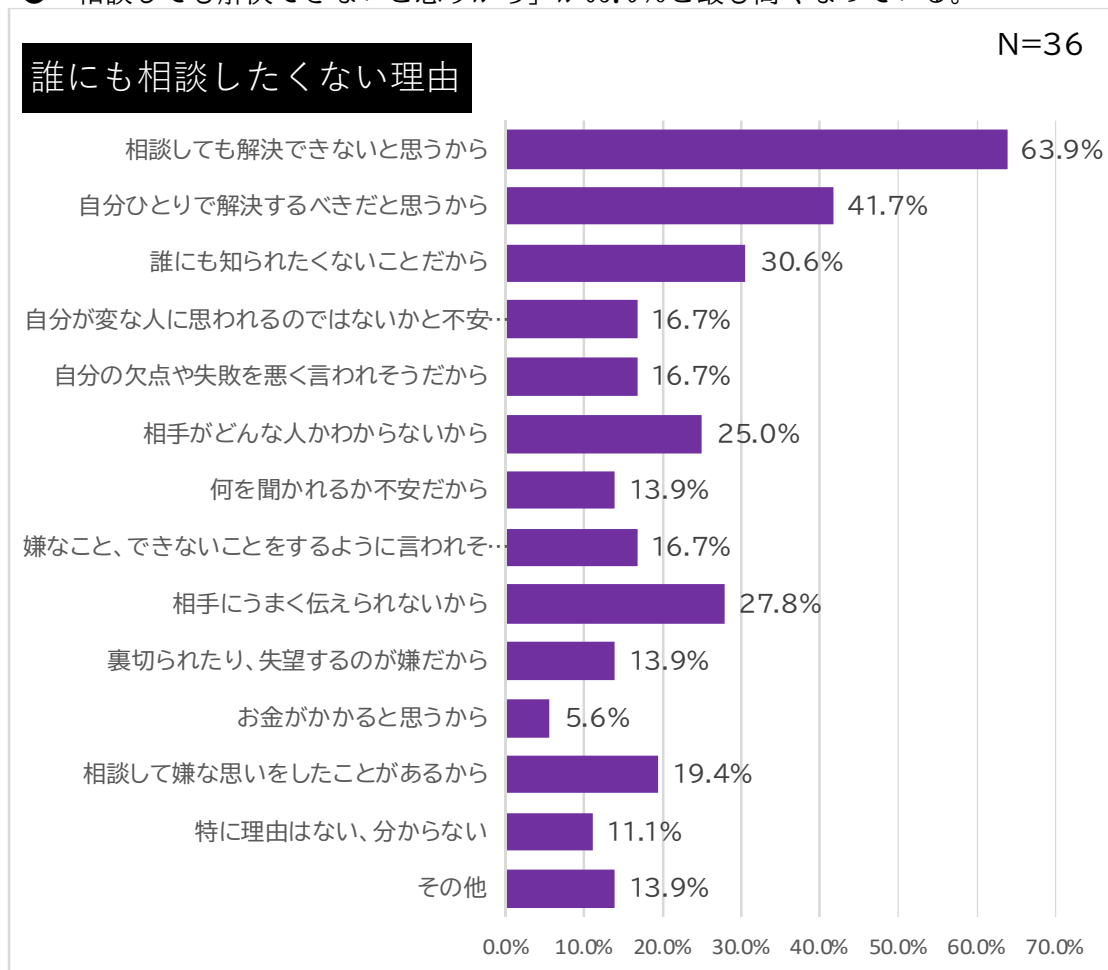
### (8) 日常生活で困ったり、悩んだり、不安になったりした原因

●勉強や仕事の問題が27.5%と最も高くなっている。



### (9) 誰にも相談したくない理由

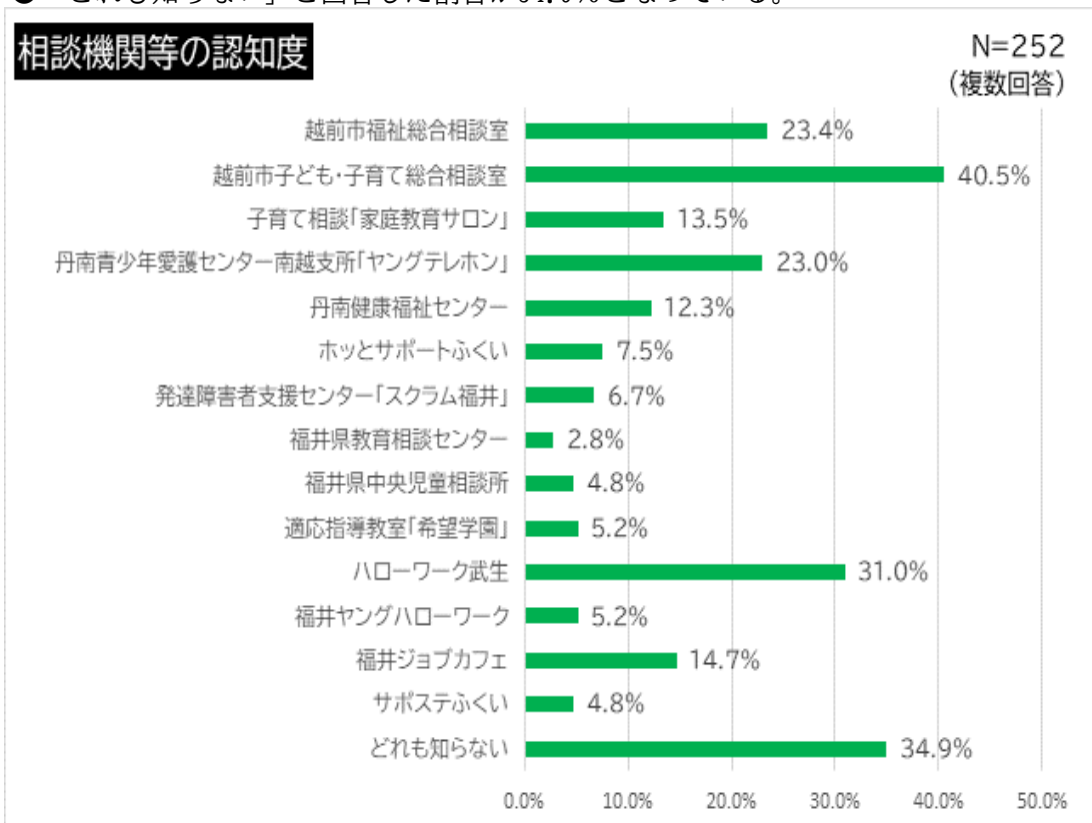
●「相談しても解決できないと思うから」が63.9%と最も高くなっている。





(10) こども・若者を対象とした相談機関等の認知度

- 「越前市子ども・子育て総合相談室（現：こども家庭センター）」が40.5%と最も高くなっている。
- 「どれも知らない」と回答した割合が34.9%となっている。



(11) 行政などによる支援や相談機関等の事業は、ニーズと合っているか。

- 「事業についてよく知らない(知る機会がない)」と回答している割合が54.8%と最も高くなっている。

